JAPAN GAMES

昭和100年

2026 AOMORI

青の煌(きら)めきあおもり国スポ



公式マスコット
「アップリート君」

第80回国民スポーツ大会

ラグビーフットボール競技会

会　期　10.15㈭ - 19㈪

会　場　大進建設スポーツ広場ラグビー場（青森会場）
プライフーズスタジアム（八戸会場）

主　催　公益財団法人日本スポーツ協会・文部科学省・青森県・公益財団法人全日本ラグビーフットボール協会
・青森市・八戸市

第80回国民スポーツ大会
The 80th JAPAN GAMES

国民スポーツ大会（国スポ）は、都道府県対抗で毎年開催される国内最大のスポーツの祭典です。本県での開催は、前回のあすなろ国体(※)以来49年ぶりであり、前回同様、冬季大会と本大会を同一県で開催する「完全国スポ」です。

※2024年から「国民体育大会」の名称が「国民スポーツ大会」に変わりました。

あすなろ国体とは？

昭和52年、青森県で国体史上初となる完全国体（冬・夏・秋と3季にわたり行われる大会を同一県で実施した国体）として、第32回国民体育大会（あすなろ国体）が県内各地で華々しく開催され、本県は天皇杯を獲得しました。



■ 大会愛称

青の煌めきあおもり国スポ

青い空、青い海や湖、青い山並みなど美しく豊かな自然に恵まれた青森県で、あおもり国スポに参加する全ての人々が、交流を深め、感動を創出し、いきいきと煌めくような大会を目指します。

■ スローガン

翔けろ未来へ縄文の風に乗って

縄文時代の遺跡が数多く存在する青森から、新たな歴史と感動を全国に向けて発信し、未来につなげていきたいという願いを込めています。

■ イメージソング「翔けろ未来へ」



作詞：井元 仁江
作曲：T.Mikami
編曲：多田 慎也、島田 尚
歌唱：りんご娘
（ピンクレディ、スターキングデリシャス、はつ恋ぐりん、金星）

■ ダンス「青の煌めきダンス」



イメージソング「翔けろ未来へ」にあわせ、振付けに青森県を表現するポーズやねぶたの跳人の動き、手話による表現などを盛り込んだ、青森らしいユニバーサルデザインダンスです。

■ 公式マスコット



「アップリート君」

特徴ある県の形と、ハチマキの中央にある「りんご」で青森県を表現しています。

LINEスタンプも販売！

最新情報は公式アプリ・HP・SNSで！

公式アプリ

Download on the App Store　GET IT ON Google Play

あおもり国スポ　検索

今すぐ無料ダウンロード！

公式HP　X　YouTube

目次

あいさつ
　公益財団法人日本スポーツ協会　会長　遠藤　利明 …… 1
　文部科学大臣　松本　洋平 …… 2
　公益財団法人日本ラグビーフットボール協会　会長　土田　雅人 …… 3
歓迎のことば
　青森県知事　宮下　宗一郎 …… 4
　八戸市長　熊谷　雄一 …… 5
　青森市長　西　秀記 …… 6
　青森県ラグビーフットボール協会　会長　大矢　保 …… 7
天皇杯・皇后杯授与規定 …… 8
国民スポーツ大会会長トロフィー授与規定 …… 9
大会役員 …… 10
競技会役員 …… 14
競技役員 …… 16
競技補助員・競技会係員・競技会補助員 …… 18
総則 …… 19
大会実施要項 …… 38
式典次第 …… 46
競技日程 …… 47
競技組合せ表
　成年男子 …… 48
　女子 …… 49
　少年男子 …… 50
参加監督・選手一覧表
　成年男子 …… 51
　女子 …… 54
　少年男子 …… 57
ブロック大会成績表
　成年男子 …… 63
　女子 …… 64
　少年男子 …… 65
都道府県別（種別）参加人数一覧表 …… 66
年次別成績一覧表 …… 67
セブンズの見どころ（成年男子・女子　7人制） …… 68
ラグビーフットボール競技の見どころ（少年男子　15人制） …… 71
競技会場図 …… 74
大会関係機関連絡先一覧 …… 77



あ い さ つ

公益財団法人日本スポーツ協会
会 長　遠 藤 利 明

はじめに、本年 7 月 28 日に発生した令和 8 年熊本地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、同地震及び昨年 12 月 8 日に発生した青森県東方沖地震により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げ、一日も早い復興と皆様のご健康を心からお祈りいたします。

第 80 回国民スポーツ大会は、本年 1 月から 2 月に行われた冬季大会と併せ、「完全国スポ」として開催いたします。

第 71 回岩手大会以来、10 年ぶりとなる「完全国スポ」を締めくくる本大会が、縄文の時代から育まれてきた歴史と文化を有し、豊かな風土に恵まれた本州最北の地、ここ青森県において開催されますことは、誠に意義深いことであります。

本年は、第25回オリンピック冬季競技大会（ミラノ・コルティナ）、サッカーFIFA ワールドカップ2026、第20回アジア競技大会（愛知・名古屋）などの大規模な国際総合競技大会が開催され、多くのアスリートの目覚ましい活躍が、私たちに大きな勇気を届けています。

本大会が「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」というスローガンの通り、出場するアスリートの皆様にとって、世界へ羽ばたく契機となることを切に願っています。

さて、日本スポーツ協会では、「有識者会議」からの提言に基づき、令和 7 年 7 月、改革を具体的に進める組織として、「国スポ改革タスクフォース」を設置しました。

今後、現状と課題を分析し、国民スポーツ大会が競技性・祝祭性・社会性・文化性を掛け合わせた、「トップアスリートと地域スポーツの好循環　～人と地域の未来を創る～」という理念を具現化できる大会となるよう、検討を進めているところです。

結びに、地震からの復旧に取り組みながら、本大会の開催にあたり諸準備にご尽力いただきました青森県をはじめ、関係の皆様方のご支援、ご協力に対し心から深く感謝申し上げます。



あ い さ つ

文 部 科 学 大 臣
松 本　洋 平

はじめに、令和8年熊本地震によりお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された全ての方々に心からお見舞い申し上げます。

文部科学省としては、被災された熊本県をはじめとする自治体への支援に全力を挙げて取り組んでまいります。

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、ここ青森県において昭和100年記念 第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」が盛大に開催されますことを、誠に喜ばしく存じます。

青森県は、世界自然遺産の「白神山地」、四季折々の表情を見せる「八甲田山」や「岩木山」など豊かな自然の魅力にあふれ、世界文化遺産である「北海道・北東北の縄文遺跡群」や重要無形民俗文化財である「青森のねぶた」など、自然と文化が息づく県です。

昭和52年のあすなろ国体以来49年ぶりの青森県での開催となり、「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」をスローガンに、県全域を舞台に熱戦が繰り広げられます。

本大会は、史上初となる総合開会式・閉会式の屋内開催に加え、大会公式アプリによる競技情報や結果速報の提供、デジタルチケットの活用などデジタル技術の活用により、選手と観客双方に配慮した大会運営となっています。「青の煌めきあおもり国スポ」が、国民に夢と感動を与え、青森県の魅力発信と活性化につながる大会となりますことを心から願っております。

郷土の代表として参加される選手の皆さんが、積み重ねてこられた練習の成果を思う存分発揮され、我が国の国際競技力の向上が図られるとともに、この機会に全国の仲間や青森県民の皆さんとの交流を通じて、思い出に残る大会となりますことを期待しております。

昨年度は、東京2025世界陸上競技選手権大会、第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025、ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピック・パラリンピック競技大会が、今年度は、愛知・名古屋において、第20回アジア競技大会、第5回アジアパラ競技大会が開催され、国民のスポーツへの関心はますます高まっているところです。

文部科学省としましても、アスリートや子供たちの活動の機会を確保し、スポーツの持つ力やすばらしさが社会の活力につながるよう、関係の皆様と一丸となって取組を進めてまいります。

結びに、「青の煌めきあおもり国スポ」の開催に当たり御尽力いただいた地元青森県、会場となる各市町村をはじめとする関係の皆様の御支援、御協力に対し、心から敬意と感謝の意を表しまして、御挨拶といたします。

（令和8年7月31日現在）



あ　い　さ　つ

（公財）日本ラグビーフットボール協会
会長　土田　雅人

第 80 回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」ラグビーフットボール競技が、青森県にて盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

まず初めに、先般の令和 8 年熊本地震や千葉県や石川県・富山県での豪雨におきまして、被害を受けられた皆様に、謹んでお見舞いを申し上げます。

本大会におけるラグビーフットボール競技は、成年男子および女子は 7 人制（前半・後半各 7 分）、少年男子は 15 人制（前半・後半各 30 分）で試合を戦います。

全国の各ブロック大会予選を勝ち抜き、見事本大会に出場される選手の皆さんにおかれましては、フェアプレーに徹し、日頃の鍛練の成果を存分に発揮されますことを期待しています。また、各チームの健闘を祈り、グラウンド上での熱戦を楽しみにしております。

スピーディーでダイナミックな展開が魅力の 7 人制（セブンズ）ラグビーは、夏季オリンピックの正式競技として注目の競技であり、日本は男女ともに 2028 年のロサンゼルスオリンピックでのメダル獲得を目指して強化を進めております。また、15 人制ラグビーは、フォワードとバックスが一体となった組織力と、戦術を活かしたチームプレーが見どころです。7 人制・15 人制ともにフィジカルな戦いに挑む選手たちへ、あたたかいご声援をいただけましたら幸いです。

当協会では、男女日本代表の活躍に向けた国際競技力向上のほか、世界で活躍するレフリーや指導者の育成、ラグビーのさらなる普及に日々取り組んでおります。誰もが身近にラグビーをプレーできる環境を整備し、全国各地のラグビーファミリーと共に「ラグビーが、世界一身近にある国へ」と歩みを進め、日本におけるスポーツ文化の振興に寄与してまいりたいと存じます。

最後に、本大会の開催にあたり準備にご尽力いただいた青森県、公益財団法人青森県スポーツ協会、青森県ラグビーフットボール協会、さらに試合会場をはじめとする関係各位のご支援とご協力に心より感謝申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

歓 迎 の こ と ば



青森県知事　宮下宗一郎（みやしたそういちろう）

はじめに、令和8年熊本地震によってお亡くなりになられた方々に、深く追悼の意を表しますとともに、御遺族と被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

昭和100年記念青の煌（きら）めきあおもり国スポ「第80回国民スポーツ大会」が昭和元年（1926年）から起算して満100年の節目となる年に、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、青森県において開催されますことをお喜び申し上げます。そして、全国各地からお越しくださいました選手及び関係者の皆様を、県民を代表して心から歓迎いたします。

「青の煌（きら）めきあおもり国スポ」は、史上初の完全国体である「あすなろ国体」以来49年ぶりとなる青森県での開催であり、国民体育大会から国民スポーツ大会に大会名称が変更されてから、初の“完全国スポ”となります。

「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」のスローガンのもと、美しく豊かな自然の恵みを受けながら、一万年以上にわたり縄文文化が営まれていたこの青森の地で生まれる新たな歴史と感動、そしてこれを希望ある未来へつなげていきます。

“スポーツで青森県が一つ”に、“私たち県民の心がスポーツで一つ”になる、「青森新時代」の大会を目指し、県民総参加で青森県を青の煌（きら）めき一色に染め上げ、スポーツの祭典を盛り上げたいと考えています。

選手の皆様には、日々の練習で培ったパフォーマンスを存分に発揮されますとともに、感動と温かい交流にあふれ、皆様の心に残る最高の大会となることを願っています。

結びに、今大会の開催に御尽力されました関係者の皆様に心から感謝を申し上げるとともに、今大会の成功と選手の皆様の御健闘をお祈りし、歓迎のことばといたします。

歓迎のことば



青の煌めきあおもり国スポ・障スポ八戸市実行委員会会長
八戸市長　熊谷雄一（くまがいゆういち）

はじめに、令和8年熊本地震によりお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早く平穏な日々を取り戻されますことをお祈りいたします。

青の煌（きら）めきあおもり国スポ「第80回国民スポーツ大会」ラグビーフットボール競技会が開催されますことを心よりお喜び申し上げます。全国各地からここ八戸市にお越しの選手、監督、関係者の皆様を、市民を代表して歓迎いたします。

「青の煌（きら）めきあおもり国スポ」は、「国民体育大会」から「国民スポーツ大会」へ名称変更後、冬季大会と本大会を同一都道府県で開催する、初の「完全国スポ」であります。本年1月末から2月初めにかけ、本市を中心に繰り広げられた冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会は、皆様の温かい御支援と御協力により成功裏に終えることができました。この熱い感動のバトンをつなぎ、本大会を更に盛り上げていくため、競技会場をはじめ、市内各所にちりばめられた歓迎装飾や 47 都道府県の応援のぼり旗、地元の特産品をふんだんに盛り込んだ「HACHINOHE おもてなし弁当」など、心のこもったおもてなしでお迎えできるよう、市民一丸となって準備を進めてまいりました。

各都道府県代表の皆様によって繰り広げられる熱戦と、八戸を舞台にリレーされる感動の煌（きら）めきが、多くの人々の心を動かし、青森県はもとより国内全体のスポーツ振興につながることを大いに期待しております。

八戸市は、国宝を所蔵する櫛引八幡宮やウミネコが飛び交う蕪島、日本最大級の朝市・館鼻岸壁朝市や活気あふれる横丁など、豊かな自然と歴史・文化、そして独特な食文化を誇る「食のまち」でありますので、御滞在中に、是非八戸の魅力を存分に体感し、良い思い出をお持ち帰りください。

結びに、本大会の開催に多大なる御尽力を賜りました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、選手の皆様の御健闘を祈念いたしまして、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ青森市実行委員会会長
青森市長　西（にし）　秀（ひでき）　記

第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」の歓迎のあいさつに先立ち、このたびの令和8年熊本地震及び令和8年8月千葉豪雨により亡くなられた方に深く哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に対し、心よりお見舞いを申し上げます。本大会において選手の皆様がひたむきに競技に臨む姿が、多くの方々に感動と希望を届け、被災地の一日も早い復旧・復興への力となりますことを切に願っております。

第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」は、昭和52年の「あすなろ国体」以来、青森県で49年ぶり2度目の開催となります。国体から国スポへの名称変更後、初の完全国スポとなる大会であり、青森市にてラグビーフットボール競技をはじめとす14競技19種目の正式競技を開催できますことを大変嬉しく思います。また、全国各地からお越しいただく選手や監督、関係者の皆様を、青森市民を代表して心より歓迎いたします。

本市では、スポーツを通じた交流人口の拡大により地域活性化を図る取組を進めており、青森駅周辺の歓迎装飾や各競技会場の応援のぼり旗など、全国から来訪される方々を青森らしい心のこもったおもてなしでお迎えできるよう、市民一丸となって準備してまいりました。

出場される選手の皆様におかれましては、これまで積み重ねてきた努力の成果を存分に発揮し、最高のパフォーマンスを披露されますことを期待しております。

また、大会期間中には、子どもたちがスポーツの楽しさや素晴らしさを体感できる機会づくりを進めることとしており、本大会が多くの方にとって心に残る実り多き大会となることを願っております。

さて、青森市には、静穏な陸奥湾、雄大な八甲田連峰などの豊かな自然のほか、日本を代表する火祭り「青森ねぶた祭」の歴史や魅力を体感できる「ねぶたの家ワ・ラッセ」や、世界遺産にも登録された「三内丸山遺跡」、「小牧野遺跡」など、文化や歴史を感じられる施設が数多くあります。また、全国的にも有名なりんごや新鮮な海の幸など、豊富な食材にも恵まれております。ぜひこの機会に本市の多彩な魅力を堪能していただければ幸いです。

結びに、本大会の開催に当たり御尽力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、選手の皆様の御活躍を心より祈念いたしまして、歓迎のことばといたします。

歓迎のことば



青森県ラグビーフットボール協会
会 長 大 矢　　保

はじめに、このたびの令和８年熊本地震や千葉、石川、富山各県の大雨災害により被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。今なお厳しい状況におかれている被災地の皆様の安全と、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。また、困難な状況下においても前を向き、本大会へ挑む選手ならびにご関係者の熱意に敬意を表します。

青森県において 49 年ぶりとなる「第 80 回青の煌めきあおもり国スポ」ラグビーフットボール競技会が、令和８年 10 月 15 日から 19 日の期間で開催されます。少年男子は青森市の大進建設スポーツ広場、成年男子と女子は八戸市のプライフーズスタジアムを会場として、それぞれ熱い戦いが繰り広げられます。全国各地から参加されるチームの皆様を心から歓迎申し上げますとともに、日頃の練習の成果を存分に発揮され、ご健闘されますことを期待しております。

選手の皆様におかれましては、この大会に備え厳しい練習を重ねられたことと思います。その練習の成果を十分発揮され、すばらしい試合を展開され良い結果を出されますとともに、ラグビー競技の素晴らしさを実感されますことを願っております。そして観客の皆様には、熱いご声援をお願いいたします。

青森県は、豊かな自然や歴史、多彩な伝統工芸、そして新鮮な海の幸や山の幸をはじめとする豊富な食の魅力に恵まれております。四季折々の美しい風景に加え、県民の温かい人情にも触れていただき、本県ならではの魅力を存分に満喫していただければ幸いに存じます。

結びに、本大会の開催に当たりご尽力いただきました役員並びに関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、本大会の成功と、ご参加の皆様のご健勝並びに今後ますますのご活躍を心よりご祈念申し上げ、青森県民を代表しての歓迎の言葉といたします。



天皇杯　　皇后杯

国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程

第１条　国民スポーツ大会開催基準要項第 11 項に基づき、天皇杯は、男女総合成績第１位の都道府県、皇后杯は、女子総合成績第１位の都道府県に授与する。

２　第１位が２都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第２条　天皇杯及び皇后杯は、総合閉会式に授与し、次回の総合開会式において返還する。

第３条　天皇杯又は皇后杯を授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

(1)　信託会社又は確実な金庫に保管する。

(2)　破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。

(3)　公益財団法人日本スポーツ協会が優勝都道府県名刻印のため又はその他の必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第４条　本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附　則　本規程は、昭和 41 年４月　１日制定
昭和 45 年１月 22 日一部改定
昭和 48 年７月 10 日一部改定
昭和 54 年５月　９日一部改定
平成 17 年６月 16 日一部改定
平成 22 年３月 17 日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成 23 年４月１日）から施行する。
平成 30 年４月　１日一部改定
令和　６年１月　１日一部改定



大会会長トロフィー

国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程

第１条　国民スポーツ大会開催基準要項第 11 項に基づき、国民スポーツ大会会長トロフィー(以下「大会会長トロフィー」という。)は、正式競技別男女総合成績第１位の都道府県に授与する。

２　第１位が２都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第２条　大会会長トロフィーは、競技会表彰式に授与し、次回競技会において返還する。

第３条　大会会長トロフィーを授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

(1)　責任をもって保管する。

(2)　破損、紛失等の場合は当該都道府県の責任とする。

(3)　優勝の刻印を次回大会までに行なうものとする。ただし､第１条第２項の場合は､当該都道府県で協議して決めるものとする。

(4)　公益財団法人日本スポーツ協会が必要により一時返還を求めた場合は､これに応じなければならない。

第４条　本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附　則　本規程は、昭和 41 年４月　１日制定
昭和 45 年１月 22 日一部改定
昭和 48 年７月 10 日一部改定
昭和 54 年５月　９日一部改定
平成 17 年６月 16 日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成 23 年４月１日）から施行する。

平成 30 年４月　１日一部改定
令和　６年１月　１日一部改定

大 会 役 員

2026年7月31日現在
（順不同・敬称略）

名誉会長	松本 洋平			
会長	遠藤 利明			
副会長	益子 直美	田中 不二夫	三宮 恵利子	森岡 裕策
	河合 純一	宮下 宗一郎		
顧問	森 喜朗	安西 孝之	岡崎 助一	越川 均
	坂元 要	勝田 隆	飯塚 悟	池田 めぐみ
	石井 砂織	植田 実	浦 美奈子	笠師 久美子
	鹿島 丈博	木平 芳定	工藤 保子	久保 正美
	小寺 洋	櫻井 由香	中嶋 実	橋本 聖子
	村松 さやか	室伏 由佳	湯川 和之	吉岡 成子
	久保 直生	藤田 裕司	藤原 誠	室城 信之
	金子 日出澄	貝瀬 智洋	森 晃	土橋 登志久
	石丸 元国	多氣 洋平	井﨑 洋志	鬼頭 有紀子
	長谷川 洋子	吉田 長寿	齋木 尚子	多賀 恒雄
	安藤 淳	上治 丈太郎	湧永 寛仁	三宅 秀一郎
	佐藤 健司	馬場 美香	堺 充廣	南 和文
	宮永 美寿津	千田 健一	中里 壮也	岡本 友章
	大野 淳	永谷 喜一郎	田村 恒彦	蒔田 実
	山﨑 勝洋	浅見 敬子	山口 徹正	田中 伸周
	村田 利衛	建部 彰弘	市野 保己	丸石 博
	中村 ゆり子	齋藤 良太郎	谷田部 和彦	木村 博美
	井上 弘	今川 啓一	近藤 重和	池谷 正成
	大澤 明美	古城 資久	小野 賢二	園山 和夫
	中山 俊行	田中 徹	知念 かおる	出口 弘之
	田邊 哲人	城門 政文	前川 恵	園田 義宜
	布村 幸彦	川原 元則	生島 典明	大沢 陽子
	谷藤 節雄	中村 伸彦	千葉 玲佳	奥山 雅信
	酒井 祐一	藤田 知巳	北條 俊明	田子 昌之
	新井 彰	山﨑 成夫	塩見 清仁	田名部 高雄
	井出 仁	今西 博一	中村 宏平	新保 暢
	森山 喜博	横山 幹夫	花崎 武彦	髙橋 繁浩
	山本 健次	増田 和伯	藤堂 寛	山本 誠三
	松本 恭幸	東 直也	奥田 晃	横尾 英治
	小西 慎太郎	近藤 一幸	堂本 ひさ美	河村 祐一

渡邊　浩三	田中　稔	高岡　晃仁	青木　章泰
城戸　英敏	小柳　勝彦	辛木　秀子	宮成　康蔵
若林　繁幸	岩元　幸成	平良　朝治	藤原　正樹
新宮　領毅	川上　隆弘	佐藤　廣子	奈良　隆
小菅　司	宇津木　妙子	菊　幸一	小林　久美
寺澤　正孝	山口　純子	中村　裕之	小林　茂樹
清水　真人	福田　かおる	増子　宏	矢野　和彦
柿田　恭良	茂里　毅	浅野　敦行	津島　淳
神田　潤一	木村　次郎	江渡　聡徳	田名部　匡代
福士　珠美	山中　泉	工藤　慎康	風張　知子
横町　俊明	西　秀記	濱舘　豊光	尾﨑　寿一
鈴木　進	三本木　温	有森　裕子	鈴木　大地
宮本　恒靖	深澤　祐二	坂田　東一	三須　和泰
川合　俊一	藤田　直志	島田　慎二	富山　英明
馬場　益弘	砂岡　良治	金丸　恭文	安道　光二
河田　正也	豊田　章男	後藤　正幸	中村　真一
河合　満	村井　満	真砂　威	土田　雅人
町田　幸男	大野　正次	世耕　弘成	笹川　善弘
納冨　中	土居　淳	久保　素子	丹羽　秀樹
津賀　一宏	岩城　光英	北村　聡	荒川　裕生
達増　拓也	鶴田　有司	吉村　美栄子	北村　清士
大井川　和彦	福田　富一	遠藤　祐司	大野　元裕
熊谷　俊人	小谷　実可子	岡田　伸浩	花角　英世
新田　八朗	山野　之義	石田　嵩人	髙野　剛
阿部　守一	田口　義隆	中谷　多加二	大村　秀章
伊藤　歳恭	高橋　祥二郎	西脇　隆俊	髙橋　知史
斎藤　元彦	福谷　健夫	宮﨑　泉	林　昭男
丸山　達也	越宗　孝昌	迫谷　章	村岡　嗣政
後藤田　正純	綾田　裕次郎	大塚　岩男	今城　純子
服部　誠太郎	宮原　耕史	平田　研	木村　敬
麻生　益直	日隈　俊郎	塩田　康一	玉城　デニー

参　　与	籾井　圭子	大杉　住子	中村　宇一	廣田　美香
	阿部　祐己	安藤　晴美	伊吹　信一	井本　貴之
	蛯沢　正勝	大崎　光明	大澤　祥宏	大澤　敏彦
	大平　陽子	小笠原　大佑	川村　悟	菊池　勲
	北向　由樹	木明　和人	櫛引　ユキ子	工藤　兼光
	工藤　悠平	後藤　清安	小比類巻　正規	今　　博
	斉藤　孝昭	齊藤　爾	鹿内　博	清水　悦郎
	高橋　修一	高畑　紀子	田中　順造	田名部　定男
	田端　深雪	鶴賀谷　貴	寺田　達也	夏坂　修
	夏堀　嘉一郎	夏堀　浩一	成田　陽光	花田　栄介
	福士　直治	丸井　裕	三橋　一三	森内　之保留
	山田　知	山谷　清文	吉田　ゆかり	吉俣　洋
	和田　寛司	奥田　忠雄	大田　圭	平間　恵美
	安田　博	松本　史晴	中野　博之	久慈　美穂
	三浦　猛史	千葉　雄文	後村　文子	細谷　健司
	舩木　久義	豊島　信幸	秋野　桂	上沢　謙一
	工藤　泰正	栗林　豊	新屋　孝文	簗田　潮
	佐藤　剛	安田　貴司	東山　国男	大山　力
	山本　恒太	津田　英一	米内　正明	小山内　修
	堤　静子	橋場　保人	目澤　伸一	山口　龍城
	高杉　勝彦	工藤　裕司	中居　敬子	川浪　泰浩
	宮野　孝晶	田村　琢哉	中川　伸吾	里村　智彦
	佐藤　忠全	倉橋　純造	一戸　善正	櫛引　利貞
	七尾　嘉信	佐藤　健一	岡島　裕史	工藤　智久
	三上　千春	高木　伸也	高杉　金之助	小関　幸一
	外崎　れい子			
委員長	山本　浩			
副委員長	岩田　史昭	石田　裕美	出﨑　和夫	
総務委員	松永　敬子	三宅　宏実	稲垣　公雄	笠野　英弘
	関口　直樹	菅原　哲朗	田﨑　博道	松田　基子
	三ヶ田　礼一	山澤　文裕	福田　一稔	宇野　武
	二宮　智浩	小竹　喜也	田内　慎也	秋田　勝行
	中尾　慶一郎	下條　伸彦	江橋　千晴	宮本　忠
	小澤　大樹	小笠原　忠儀	髙井　和紀	

委　員	平野　了	髙橋　聖一	永井　雅史	神山　康洋
	福士　幸洋	栗原　崇	竹ノ脇　智秋	鈴木　克宜
	葛西　玲広	濱野　勉	寺澤　淳	黒川　重男
	舟喜　信生	福島　亮一	中梶　秀則	堀越　浩
	加藤　憲二	宮川　良輔	鈴木　章広	川口　巖
	山口　俊昭	岡泉　茂	朝倉　康善	木塚　鉄也
	平井　宏治	濱﨑　滿	岸川　剛之	西原　斗司男
	山口　鉄正	菅原　正幸	伊東　毅嗣	長南　哲生
	衛藤　敬輔	上久保　僚	中段　亜由美	鈴木　信吾
	内田　淳二	関根　明子	中山　二三男	﨑村　尚人
	吉田　由美子	杉本　好二	國重　さゆり	髙梨　治紀
	川口　雅三	田邊　賢一	山口　剛	富澤　佑也
	政岡　航大	坊　百花	井澤　貫太	田口　雅紀
	寺垣　佑介	柿﨑　繁信	橋口　真夕	田中　遥太
	町屋　毅博	山本　高史	松橋　伸哉	長谷川　光昭
	白幡　博久	田畑　幸浩	加藤　雄樹	小林　健也
	幸田　和洋	大貫　大輔	小池　則之	今井　隆元
	三浦　理	舟木　雅美	阿部　哲也	片岡　英史
	福居　久志	三武　紀子	長坂　嘉久	井澤　克行
	林　剛史	稲葉　晴伸	森島　哲也	和田　吉史
	中野　真吾	佐々木　智也	木原　哲也	越智　敏文
	小林　悟	中嶋　純也	前田　康博	松本　守正
	松本　綾子	中田　健治	石津　雅之	加藤　泰
	高田　孝行	日野　剛	前田　義朗	笠井　康行
	尾鷲　一成	川端　利行	濱本　昌宏	吉野　賢一郎
	都甲　尚生	山元　尚史	黒田　裕史	髙野　瑞洋
	遠藤　信哉	角屋　憲正	千葉　雅也	菅間　裕晃
	岡崎　正彦	角田　真司	加藤木　紳克	柄澤　宏之
	杉田　聡	塩田　憲司	藤丸　伸和	河野　公紀
	碓井　稔	武田　知己	井上　哲	今後　元彦
	沼田　守弘	田部　長右衛門	松井　守	吉岡　直彦
	髙岡　晃仁	葛目　憲昭	寺崎　雅巳	田島　祥嗣
	荒木　健治	平江　公一	黒木　淳一郎	城間　敏生
	丹羽　浩彰			

競　技　会　役　員

（順不同・敬称略）

名誉会長	西　秀記	熊谷雄一		
会長	土田雅人			
副会長	香川あかね	木下康司	清宮克幸	水越　豊
	大矢　保	柿崎泰明	米内正明	工藤拓実
	工藤俊憲			
顧問	津軽敦志	千田美智仁	守屋守武	三浦廣己
	遠藤靖彦	佐々木彰	幡谷定俊	仲山栄一
	中澤則行	小林哲也	瀧田敏幸	海老原洋一
	角田　誠	中谷真一	佐々木祥二	寺尾政宏
	安村正樹	紐野義昭	藤尾秀樹	柳　弘之
	髙岡義伸	鈴木英敬	田代正美	大岡敏孝
	橋本光夫	天野寛之	田中康憲	土佐敏太郎
	瀬越正敬	川部　洋	原　拓也	柴田和正
	小川司徳	中村龍夫	磯﨑仁彦	小林信行
	赤松民康	中谷　元	荒木英二	古賀醸治
	衛藤正雄	沼田幸広	河津龍治	石田喜克
	渡辺　丈	安村光滋	奈良岡　隆	藤川優里
	工藤裕司	齋藤信哉		
参与	赤平勇人	小豆畑　緑	天内慎也	蛯名和子
	小熊ひと美	小倉尚裕	柿崎孝治	軽米智雅子
	木戸喜実男	木下　靖	木村淳司	工藤　健
	工藤夕介	里村誠悦	澁谷洋子	関　貴光
	相馬純子	竹山美虎	舘山善也	中田靖人
	中村美津緒	奈良祥孝	長谷川章悦	花田明仁
	藤田　誠	万徳なお子	村川みどり	山田千里
	山本武朝	渡部伸広	岡田　英	土嶺直樹
	長谷川ひろゆき	山之内　悠	前田由美	吉田洸龍
	田名部裕美	高橋正人	間　盛仁	久保百恵
	苫米地あつ子	三浦博司	石橋充志	中村益則
	日當正男	小屋敷　孝	壬生八十博	上条幸哉
	森園秀一	豊田美好	山名文世	伊藤圓子
	立花敬之	坂本美洋	五戸定博	寺地則行
	吉田淳一	天内博康	川村　仁	齋藤美鈴
	土岐志麻	松浦　淳	西山康巳	小澤直子
	久保千恵子	福井武久	木村富士夫	目澤伸一
	田名部和彦	橋場保人	小笠原　嘉	赤坂　寛

	横山英大	横内　修	鈴木裕司	小野正貴
	金谷浩光	千葉康伸	齋藤賢剛	中村　敦
	白戸高史	大久保綾子	佐藤秀彦	横内信満
	大久保文人	木村颯希	土岐政温	奈良英文
	今　国弘	佐々木正幸	泉　宏明	角田　毅
	太田直樹	遠嶋祥剛	船橋正明	舘山　公
	髙野雅子	齊藤寿一	佐々木和人	佐々木郁夫
	石田慎一郎	淡路　徹	倉橋純造	一戸善正
	山本知也	前田　済	津島　淳	大瀬良一
	諏訪正徳	今井正樹	河野　満	井戸端隆雄
	中村雅彦	服部一雄	渋谷洋子	正部家淳司
	高橋修一	菅原文子	中嶋與志久	長尾　信
	川浪泰浩	相馬克典	黒丸健吾	中川伸吾
	今　卓也	花田　惇	髙橋秀親	佐藤健一
	盛　健一	中村紀徳	白鳥晶司	小形峰雄
	工藤智久	大西透信	北畠滋郎	福田真奈美
	成田幾末	佐々木重光	森　隆	藤田耕次
	嵯峨弘章	熊谷誠二	淡路浩志	大南博義
	石黒一之	清水悦郎	森内之保留	沼澤憲三
	村山通久	橋本昭一	石澤　陽	附田眞輔
	松橋満幸	下遠良子	安達清幸	高橋　学
	小笠原　修	奥寺良之	武輪俊彦	佐々木伸夫
	服部政俊	東山国男	室岡孝信	
委員長	山神孝志			
副委員長	山﨑久造	田澤康治	中田真紀子	山本芳弘
	一戸栄司			
委　員	Mark　Egan	石原直子	江田麻季子	御領園昭彦
	斎木尚子	境田正樹	座間美都子	田島卓也
	玉塚元一	中島誠一郎	浜本剛志	宮本勝文
	三好美紀子	安田結子	横尾千里	中村政俊
	福士浩司	成田一郎	長谷川　均	下田泰大
	木村隆博	坂本正登	渡辺吉和	野口雄司
	工藤祐太郎	佐々木利夫	山下祐史	白戸昭夫
	渡辺志保子	佐々木浩司	福岡勇太	富田　卓
	髙橋修一	島田典彰	小柴一良	打谷桂子

競　技　役　員

（順不同・敬称略）

成年男子・女子（プライフーズスタジアム）

総務委員長	大矢　保			
総務副委員長	久木元孝行	萩本光威	一戸栄司	
総務委員	谷地村克久	下田泰大	工藤祐太郎	伊藤寿典
	早狩樹志			
規律委員長	御領園昭彦			
規律副委員長	松原忠利	伊藤　隆	島田典彰	
規律委員	中島誠一郎	木村順也	釜澤　研	四戸　盛
審判委員長	川原　佑			
審判副委員長	久保修平	沢田　准		
審判委員	清水鳴哲	高橋真弓	宮井恵吾	別府胡麦
	工藤　健	藤村勝則	畑中大器	長山大輔
	伊藤　弘	北嶋正幸	桜田泰憲	根津谷健蔵
	石橋道宏	日野口裕也	保坂ひかる	布施一樹
	伊藤滉平			
総合成績計算委員長	岸川剛之			
総合成績計算委員	佐々木浩司	野田頭伸二		
競技委員長	山﨑久造			
競技副委員長	石井泰三	中村良寛		
競技委員	陶久昌明	緋田政人	荒井公希	野中孝介
	松田　満	天野寛之	田村賀永	丸岡佑介
	細野　鉄	境　恭平	藤沢憲一	坂本正登
	和嶋　仁	中岫　崇	川原　裕	田島浩行
	岸　祐也	横田英敏	佐々木耕造	蛯名　優
記録報道主任	奈良慶一			
記録報道委員	斗澤公喜	小田原孝至	藤田　寿	岩田俊昭
	風穴雄亮	山下　徹	野沢宗巨	戸賀沢　毅
	下澤昭治	渡辺吉和	古舘寿光	福田正道
	田端公一朗	小原悠平	渡辺志保子	井俣康典
	山口泰士			
場内放送主任	野田頭典枝			
場内放送委員	土橋琉南			
会場主任	崩　友太			
会場委員	坂本悟一			
救護主任	富田　卓			
救護委員	板橋泰斗	室岡孝信		

競　技　役　員

（順不同・敬称略）

少年男子（大進建設スポーツ広場）

総務委員長	大矢　保			
総務副委員長	萩本光威	久木元孝行	福士浩司	
総務委員	髙橋正憲	福田国康		
規律委員長	御領園昭彦			
規律副委員長	伊藤　隆	松原忠利	中村政俊	
規律委員	木村隆博	小野寺邦彦	川崎淳平	
審判委員長	川原　佑			
審判副委員長	久保修平	福岡勇太		
審判委員	関谷惇大	工藤隆太	幸森大樹	鈴木玲音奏
	小野祐貴	黒木暁人	鈴木　央	杉山栄輝
	臼井嘉朋	石田　真	山形壮平	日澤太輔
	國分清史	太田遥己	水木鴻太	髙橋潔充
	津幡　敢			
総合成績計算委員長	岸川剛之			
総合成績計算委員	長谷川　均	寺下雅貴		
競技委員長	山﨑久造			
競技副委員長	石井泰三	野口雄司		
競技委員	牟田口亨司	高野敬一郎	天野寛之	山口　優
	宮本和則	安庭正樹	中陳慎一郎	倉橋里歩
	山﨑雄吾	伊藤史泰	三上泰希	佐井　颯
	中　優人			
記録報道主任	橋本高行			
記録報道委員	永澤佑太	村川雄大	高谷和行	佐藤正広
	玉熊義久	成田真治		
場内放送主任	山形亜紀子			
場内放送委員	石岡雄太			
会場主任	三浦将孝			
会場委員	西舘　靖			
救護主任	熊谷玄太郎			
救護委員	福徳達宏	藤田　拓		

競　技　補　助　員

（順不同・敬称略）

少年男子（大進建設スポーツ広場）

青森県立青森北高等学校

青森山田高等学校

青森大学

成年男子・女子（プライフーズスタジアム）

八戸学院大学

青森県立八戸高等学校

青森県立八戸工業高等学校

八戸学院光星高等学校

競　技　会　係　員

少年男子（大進建設スポーツ広場）

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ青森市実行委員会

成年男子・女子（プライフーズスタジアム）

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ八戸市実行委員会

競　技　会　補　助　員

少年男子（大進建設スポーツ広場）

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ青森市実行委員会運営ボランティアの皆様

成年男子・女子（プライフーズスタジアム）

八戸学院大学

八戸学院光星高等学校

八戸少年ラグビースクール

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ八戸市実行委員会運営ボランティアの皆様

第８０回国民スポーツ大会　本大会実施要項総則

開 催 の 趣 旨

国民スポーツ大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとする国内最大のスポーツの祭典である。

青森県で開催する第80回国民スポーツ大会「青の煌(きら)めきあおもり国スポ」は、「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」をスローガンに掲げ、スポーツによる感動や交流の輪が広がるとともに、本県のあらゆる魅力を発信するなど、県民総参加による青森県らしさあふれる大会を目指して開催する。

実　施　方　針

１　実施競技

⑴　正式競技（37 競技）

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ローイング、ホッケー、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、クレー射撃、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

⑵　公開競技（７競技）

綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、エアロビック

⑶　デモンストレーションスポーツ（39 競技）

いきいき太極拳、インディアカ、ウオーキング、ウォークビンゴ、エンジョイ！グラウンド・ゴルフ、オリエンテーリング、カーリング、空道、女子ソフトボール、スポーツウエルネス吹矢、スポーツチャンバラ、ソフトバレーボール、ターゲット・バードゴルフ、ダンススポーツ、ドッジボール、年齢別ソフトテニス、年齢別テニス、年齢別バドミントン、ノルディックウォーキング、パークゴルフ、パラグライディング、ビリヤード、ビーチサッカー、ファイン・ボール、フライングディスク、ふれあいゲートボール、ふれあいソフトボール、ふれあいボウリング、フロアボール、ペタンク、マスターズスイミング、マスターズ陸上競技、マラソン、マラソン＆ウォーキング、モルック、ユニカール、ユニバーサルホッケー、ラージボール卓球、Let’s Enjoy バウンドテニス

⑷　特別競技（１競技）

高等学校野球

２　会期及び会場地

⑴　正式競技・特別競技（11 市、11 町、2 村：計 24 市町村）

会　　期	会　場　地
2026年10月10日（土） ～10月20日（火） 〔11日間〕	青森市、弘前市、八戸市、黒石市、五所川原市、十和田市、三沢市、むつ市、つがる市、平川市、西目屋村、藤崎町、七戸町、六戸町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町、五戸町、南部町、階上町、山梨県北杜市
2026年９月３日（木） ～９月13日（日） 〔11日間〕	青森市、弘前市、十和田市、三沢市、むつ市、平内町、西目屋村、野辺地町、六ヶ所村、宮城県利府町 ※　水泳、ローイング、ホッケー、バレーボール（ビーチバレーボール）、体操、セーリング、ハンドボール、相撲、ライフル射撃、カヌー（スラローム・ワイルドウォーター）、クレー射撃、ゴルフ、トライアスロン競技会は上記会場地で実施
2026年10月２日（金） ～10月９日（金） 〔８日間〕	青森市、弘前市、八戸市 ※　自転車（トラックレース）、アーチェリー、高等学校野球競技会は上記会場地で実施

⑵　公開競技（３市２町：計５市町）

会　　期	会　場　地
2026年８月８日（土） ～10月４日（日）	十和田市、三沢市、平川市、平内町、藤崎町

⑶　デモンストレーションスポーツ（７市、16 町、６村：計 29 市町村）

会　　期	会　場　地
2026年５月17日（日） ～10月４日（日）	青森市、弘前市、八戸市、十和田市、三沢市、むつ市、平川市、今別町、蓬田村、外ヶ浜町、鰺ヶ沢町、深浦町、藤崎町、大鰐町、田舎館村、板柳町、鶴田町、中泊町、横浜町、東北町、おいらせ町、大間町、東通村、風間浦村、佐井村、三戸町、田子町、階上町、新郷村

⑷　文化プログラム

文化プログラムの実施については、「文化プログラム実施基準」に基づき、2026 年１月１日から 2026 年 12 月 31 日までの期間で、原則として、県内市町村で開催する。

３　競技方法

各競技別実施要項に示す方法とし、正式競技は都道府県対抗で実施する。

４　ドーピング検査の実施

大会におけるアンチ・ドーピング活動（ドーピング検査及びアンチ・ドーピング教育活動）は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構が定める「日本アンチ・ドーピング規程」及び別に定める「国民スポーツ大会アンチ・ドーピング活動に関するガイドライン」に基づき実施する。

なお、治療の目的で禁止物質・禁止方法を用いる必要がある場合は、事前に「治療使用特例」（TUE）の手続きを行うこと。

各都道府県の代表選手は、大会期間中は常に「国民スポーツ大会ドーピング検査同意書」を所持しなければならない。選手が 18 歳未満の場合、本人の署名及び親権者の署名がある同意書を所持すること。

５　参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

選手及び監督の参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準は、次のとおりとする。

なお、参加資格については、「第 80 回国民スポーツ大会参加資格、所属都道府県及び年齢基準等の解釈・説明」を併せて確認すること。

【　公益財団法人日本スポーツ協会ホームページ　https://www.japan-sports.or.jp/　】

⑴　参加資格

ア　日本国籍を有する者であることとするが、選手及び監督のうち、次の者については、日本国籍を有しない者であっても、大会に参加することができる。

(ｱ)　「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち「永住者」(「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」に定める「特別永住者」を含む。)

(ｲ)　少年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a　「学校教育法」第１条に規定する学校に在籍する学生又は生徒で、「８　参加申込方法」で定めた本戦参加申込締切時に１年以上在籍していること。

b　「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、「留学」、「家族滞在」又は「定住者」に該当していること。

(ｳ)　成年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a　少年種別年齢域にあった時点において前号(ｲ)に該当していた者であること。

b　「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、大会参加時から終了時まで「留学」に該当しないこと。

［注］　上記(ｳ)b について、大学及び専修学校等に在籍する成年種別の年齢域に該当する者は、「出入国管理及び難民認定法」に定める「留学」以外の在留資格を有する場合も「留学」と同等に扱う。

イ　選手及び監督は、所属都道府県の当該競技団体会長（代表者）とスポーツ協会会長（代表者）が代表として認め、選抜した者であること。

ウ　第 78 回又は第 79 回大会（都道府県大会及びブロック大会を含む）において選手又は監督として参加した者は、次の場合を除き、第 78 回又は第 79 回大会と異なる都道府県から参加することはできない。

(ｱ)　成年種別

a　「学校教育法」第１条に規定する学校を卒業した者

b　結婚又は離婚に係る者

［注］　a 及び b は当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

c　ふるさと選手制度を活用する者（別記１「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

［注］　別記３「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

d　東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

e　令和６年能登半島地震に係る参加資格特例措置を活用する者（別記６「令和６年能登

半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

（ｲ）　少年種別

ａ　「学校教育法」第１条に規定する学校を卒業した者

ｂ　結婚又は離婚に係る者

ｃ　一家転住に係る者（別記２「『一家転住等』に伴う特例措置」による。）

［注］　ａからｃは当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

ｄ　JOC エリートアカデミーに在籍する者（別記３「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」による。）

ｅ　東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

ｆ　令和６年能登半島地震に係る参加資格特別措置を活用する者（別記６「令和６年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

エ　選手と監督の兼任は、同一種別内に限る。

オ　選手及び監督は、回数を同じくする大会において、冬季大会及び本大会にそれぞれ１競技に限り参加できる。

カ　選手及び監督は、回数を同じくする大会において、異なる都道府県から参加することはできない。

キ　選手、監督並びに本部役員帯同のスポーツドクター及びアスレティックトレーナーは、大会参加前の１年以内に公益財団法人日本スポーツ協会（以下「日本スポーツ協会」という。）が指定するアンチ・ドーピング教育を受講し、「国スポ本戦出場前のアンチ・ドーピング教育履歴」に記載した者であること。

ク　上記のほか、選手については次のとおりとする。

（ｱ）　都道府県大会及びブロック大会に参加し、これを通過した者であること。

（ｲ）　健康診断を受け、競技会への参加に支障がない者であること。

（ｳ）　ドーピング検査対象に選定された場合は、検査を受けなければならない。

ケ　上記のほか、監督については日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく競技別指導者資格を有する者とし、監督が不在の場合選手は参加することができない。各競技における対象資格については当該競技実施要項によるものとする。

⑵　所属都道府県

所属都道府県は、当該競技団体が限定する場合を除き、次のいずれかが属する都道府県から選択することができる。

ア　成年種別

（ｱ）　居住地を示す現住所

（ｲ）　勤務地

（ｳ）　ふるさと（別記１「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

［注］　別記３「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受けふるさと選手として参加する者を含む。

イ　少年種別

（ｱ）　居住地を示す現住所

（ｲ）　「学校教育法」第１条に規定する学校の所在地（以下「学校所在地」という。）

（ｳ）　勤務地

（ｴ）　別記３「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」に定める小学校の所在地

※　「居住地を示す現住所」、「勤務地」、「学校所在地」のいずれかから参加する場合は、2026年４月30日以前から本大会終了時（2026年10月20日）まで、引き続き当該地に、それぞれ居住、勤務、又は通学していなければならない。ただし、次の者はこの限りではない。

［成年種別］

a　別記４「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

b　別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

c　別記６「令和６年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

［少年種別］

a　別記２「『一家転住等』に伴う特例措置」の適用を受ける者

b　別記４「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

c　別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

d　別記６「令和６年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

⑶　選手の年齢基準

ア　選手の年齢基準については、下記を原則とする。

(ｱ)　成年種別に参加する者は、2008年４月１日以前に生まれた者とする。

(ｲ)　少年種別に参加する者は、2008年４月２日から2011年４月１日までに生まれた者とする。

(ｳ)　年齢を区分している種別へ参加する者の年齢計算は、2026年４月１日を基準とする。

イ　日本スポーツ協会が特に認める場合は、上記アにかかわらず、競技ごとに年齢区分を設定することができる。ただし、年齢の下限は中学３年生（2011年４月２日から2012年４月１日までに生まれた者）とする。

⑷　前記の各事項に疑義のあるときは、日本スポーツ協会及び当該競技団体が調査・審議の上、日本スポーツ協会がその可否を決定する

６　各正式競技の総合成績決定方法

各正式競技の総合成績決定方法は次のとおりとする。

⑴　次のア、イの得点を合計したものを男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）とする。

ア　競技得点

競技得点は、各種別、種目などの第１位から第８位までの都道府県に与え、次のとおりとする。ただし、同順位の場合は、次の順位のものを加え、当該都道府県で等分し、割り切れない場合は、小数第３位以下を切り捨てる。

		１位	２位	３位	４位	５位	６位	７位	８位
種別	４人以下	24点	21点	18点	15点	12点	９点	６点	３点
	５人以上７人以下	40点	35点	30点	25点	20点	15点	10点	５点
	８人以上	64点	56点	48点	40点	32点	24点	16点	８点
種目	――――――	８点	７点	６点	５点	４点	３点	２点	１点

［注］　「種別」：種別などに与える競技得点　　「種目」：種目などに与える競技得点

イ　参加得点

参加得点は 10 点とし、大会（ブロック大会を含む。）に参加した都道府県に与える。

ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

⑵　各競技の総合成績は、当該競技団体が決定する。

ただし、天候その他の事情により一部競技が中止になった場合は、当該競技団体と大会総務委員会が協議する。

⑶　参加資格違反等に関わる得点等の取り扱いについては、「国民スポーツ大会における違反に対する処分に関する規程」によるものとする。

7　表彰

⑴　冬季大会及び本大会で実施した全正式競技の男女総合成績第１位の都道府県に天皇杯を、同じく女子総合成績第１位の都道府県に皇后杯をそれぞれ授与する。

⑵　冬季大会及び本大会で実施した全正式競技の男女総合成績及び女子総合成績の第１位から第８位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

⑶　各正式競技の男女総合成績第１位の都道府県に、国民スポーツ大会会長トロフィーを授与する。

⑷　各正式競技の男女総合成績及び女子総合成績の第１位から第８位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

⑸　各競技の各種別及び各種目などの第１位から第８位までに賞状を授与する。団体競技の場合は、その都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものを都道府県用に１枚、さらにその都道府県名と個人名を記載したもの、又は都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものをチーム全員に授与する。

⑹　各正式競技及び特別競技の第１位から第３位までの選手にメダルを授与する。

8　参加申込方法

⑴　参加申込

都道府県スポーツ協会会長（代表者）及び競技団体会長（代表者）は、連署の上、都道府県大会又はブロック大会において選抜された者及び公益財団法人日本高等学校野球連盟が選出したチームを、大会会長宛てに申込むものとする。

⑵　参加申込締切

参加申込は、定められた締切日時までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

なお、各競技別実施要項の「参加申込方法」を併せて確認すること。

⑶　参加申込締切日時

締切日時	競　　技
2026 年 ８月 13 日（木） 午後５時 【15 競技】	水泳、ローイング、ホッケー、バレーボール（ビーチバレーボール）、体操、セーリング、ハンドボール、自転車、相撲、ライフル射撃、カヌー、クレー射撃、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

2026年 ９月３日（木） 午後５時 【24競技】	陸上競技、サッカー、テニス、バレーボール（６人制）、バスケットボール、レスリング、ウエイトリフティング、ソフトテニス、卓球、軟式野球、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、高等学校野球

⑷　参加申込様式

参加申込様式は、日本スポーツ協会が実施競技団体と協議の上、作成する。

⑸　公開競技の参加申込

公開競技については、別途当該中央競技団体が定める所定の手続きにより行う。

⑹　選手の交代

参加申込締切後の選手の交代は、特別な事情がない限り認めない。特別な事情で選手を交代する場合は、所定の様式、方法により次のア～ウ宛てに届け出なければならない。

ア　全国を統轄する各中央競技団体事務局

イ　青の煌(きら)めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会事務局

ウ　青の煌(きら)めきあおもり国スポ・障スポ各競技会場地市町村実行委員会事務局

なお、日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、所定の手続きにより参加申込情報を修正すること。

９　棄権手続

参加申込締切後から競技初戦までの間において、特別な事情で選手が競技会を棄権する場合には、所定の棄権手続きをとらなければならない。

なお、棄権手続きに係る届出については選手交代届と同じ様式を用いること。

10　大会参加負担金

⑴　大会に参加選手団（視察員を除く）を派遣する都道府県スポーツ協会は、大会参加負担金を納入する。一人あたりの大会参加負担金の額は下記のとおりとする。

区　　分	負　担　金
少年の種別に参加する選手	３，０００円
上記以外の者（本部役員、監督、成年の種別に参加する選手等）	６，０００円

［注］　地震、風水害、感染症及びその他主催者の責によらない事由により大会を中止した場合、大会参加負担金の返金は行わない。

⑵　大会参加負担金は、都道府県スポーツ協会で取りまとめ、次のとおり納入する。

ア　納入期限　2026年９月４日（金）

イ　納 入 先　みずほ銀行　渋谷支店　普通預金口座　513729

公益財団法人日本スポーツ協会

11　宿泊申込

大会参加者は、青の煌(きら)めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会が指定した所定の様式により、定められた締切日までに申込む。

12　都道府県選手団本部役員編成

⑴　都道府県選手団本部役員は、次のとおりとする。

ア　参加選手 500 名以上の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 20 名以内とする。

イ　参加選手 300 名以上 500 名未満の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 15 名以内とする。

ウ　参加選手 300 名未満の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 10 名以内とする。

⑵　上記役員のほか、５名以内の顧問を設けることができる。

⑶　上記⑴及び⑵による本部役員総数の範囲内で、スポーツドクターを帯同するものとする。

なお、帯同するスポーツドクターは日本スポーツ協会公認スポーツドクター資格を有する者とする。

⑷　上記⑴及び⑵による本部役員総数の範囲内で、原則としてアスレティックトレーナーを帯同するものとする。

なお、帯同するアスレティックトレーナーは日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を有する者とする。

⑸　都道府県選手団本部役員の１日あたりの編成人数については、上記⑴及び⑵による人数を上限とする。

⑹　都道府県選手団本部役員の参加申込は、2026 年９月３日（木）午後５時までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

13　視察員

⑴　視察員は、１都道府県３名以内とする。ただし、2027 年以降の国民スポーツ大会の開催が決定又は内定している県については、宮崎県 100 名以内、長野県及び群馬県 60 名以内、島根県及び奈良県 40 名以内とする。

⑵　都道府県の視察員の参加申込は、2026 年９月３日（木）午後５時までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

14　参加章及び AD カードの交付

参加章及び AD カードは、次の者に交付する。

⑴　参加章

ア　都道府県選手団の本部役員、監督及び選手

イ　大会役員、競技会役員及び競技団体が指定した競技役員

ウ　公開競技及びデモンストレーションスポーツ参加者

⑵　AD カード（Accreditation　Card）

ア　都道府県選手団

イ　大会役員、競技会役員及び競技団体が指定した競技役員

ウ　大会主催者及び競技会主催者が認めた者

エ　公開競技に参加する選手、監督及び役員

15　参加上の注意

⑴　大会期間中は、交付された AD カードを携帯しなければならない。

⑵　各都道府県の代表選手は、競技に際し、「国民スポーツ大会ユニフォーム規程」に基づき、ユニフォームを着用しなければならない。

16　個人情報及び肖像権に関わる取り扱い

日本スポーツ協会、青の煌(きら)めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会、青の煌(きら)めきあおもり国スポ・障スポ各競技会場地市町村実行委員会及び国民スポーツ大会実施競技中央競技団体（以下「国スポ関係機関・団体」という。）は、参加申込等を通じて取得する個人情報及び肖像権の取り扱いに関して以下のとおり対応するものとする。

⑴　個人情報の取り扱い

ア　利用目的

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された個人情報は、国スポ関係機関・団体において、参加資格の確認や競技組合せなどをはじめとする大会運営業務のために利用し、目的以外に利用しない。

イ　公表の範囲と方法

個人情報のうち、所属都道府県、氏名、性別、年齢、学校名、チーム名等、所属と個人を識別するために必要な情報については、以下の方法等により公表することがある。

(ｱ)　総合プログラム及び競技別プログラムへの掲載
(ｲ)　競技会場内におけるアナウンス等による紹介
(ｳ)　競技会場内外の掲示板等への掲載
(ｴ)　大会関連ホームページへの掲載
(ｵ)　報道機関への提供

ウ　競技結果（記録）等

競技結果（記録）については、上記イで定めた個人情報とともに、以下の方法等により公表することがある。

(ｱ)　青の煌(きら)めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会が設置する記録本部を通じた公開
(ｲ)　国スポ関係機関・団体及び報道機関等による新聞・雑誌及び関連ホームページ等への掲載
(ｳ)　国スポ関係機関・団体が作成する大会報告書等への掲載
(ｴ)　次回以降の大会プログラムへの掲載【新記録、優勝及び上位入賞結果（記録）等】

⑵　肖像権に関する取り扱い

ア　写真

国スポ関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ等で公開されることがある。

イ　写真（写真撮影企業等）

国スポ関係機関・団体に認められた写真撮影企業等によって撮影された写真等が販売されることがある。

なお、各競技・会場における販売の有無等の詳細は、当該中央競技団体を中心に対応する。

ウ　映像

国スポ関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された映像が、中継・録画放映及びインターネットによって配信されることがある。また、DVD 等に編集され、販売・配付されることがある。

⑶　対応

ア　承諾の確認

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された時点で、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

なお、各競技会における取り扱いに伴い、別途、当該中央競技団体等によって個別に承諾

を確認することがある。

イ　役員等

大会役員、競技役員、運営役員、その他各種委員や補助員、国スポ関係機関・団体と大会に関する契約をしている者及び大会運営関係者については、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

17　都道府県大会及びブロック大会

正式競技については、本大会の予選として次のとおり都道府県大会（ブロック大会）を開催しなければならない。

⑴　都道府県の主催団体は、必要に応じて日本スポーツ協会及び中央競技団体等関係団体と協議の上、本要項に基づき実施要項を作成する。

なお、日本スポーツ協会及び中央競技団体は、その内容に不備がある場合、適宜指導を行うものとする。

⑵　都道府県大会の実施にあたり、当該都道府県主催団体は、適正な手続きに則り決定した代表選手の選抜方法・選考基準について、予め関係者に周知徹底を図るものとする。

⑶　参加者は、実施要項に基づき当該主催団体に申込む。

なお、参加は、回数を同じくする大会において、冬季大会及び本大会にそれぞれ１競技に限り参加できる。

⑷　ブロック大会の申込みは、原則として国民スポーツ大会参加申込システムにより行い、様式は日本スポーツ協会及び当該主催団体が協議の上、作成する。

なお、参加申込システムを使用しない場合の様式については、当該主催団体において別途作成する。

⑸　都道府県大会の参加申込様式は、当該主催団体において作成する。

⑹　参加料を徴収する場合の金額は、当該主催団体が中央競技団体と協議の上、定める。

⑺　競技運営に差し支えない限り、青森県選手は当該競技ブロック大会を経ることなく本大会に参加することができる。

18　国民スポーツ大会参加者傷害補償制度

日本スポーツ協会及び都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者に対する社会的責任体制を整えるとともに、大会参加者の相互扶助の精神に基づいた補償制度として大会参加者による国民スポーツ大会参加者傷害補償制度を運営する。

⑴　本制度の対象となる参加者は、ブロック大会及び本大会に参加する本制度給付規定に定められた選手、監督、選手団本部役員（顧問を含む）、視察員並びにその他選手団役員とする。

⑵　大会参加の都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者傷害補償制度の対象となる参加者数に応じた制度負担金（一人あたり 1,000 円）を、日本スポーツ協会に納入する。

⑶　納入締切日及び納入先については、別途日本スポーツ協会から都道府県スポーツ協会へ通知する。

19　青の煌（きら）めきあおもり国スポの実施目標

⑴　スポーツによる感動の創出と地域へのスポーツの定着

スポーツを「する」「みる」「ささえる」など多様な場面で、感動が創出されることによ

り、県民の誰もがスポーツに関わる楽しさを感じることができる環境が整備されるとともに、県内各地で地域住民がスポーツに取り組む習慣が身につき、スポーツが地域に定着する大会とする。

⑵　自発的、積極的な県民参加による地域の活性化

県民一人ひとりが、開催準備に自発的、積極的に参加するとともに、スポーツを通した健康づくりなどに一丸となって取り組むことにより、全ての県民が心身ともに健康な状態で大会を迎え、その後も各地域が元気で活力に満ちた姿となる大会とする。

⑶　来県者への熱い心でのおもてなしとあらゆる魅力の発信

大会に参加する選手・監督・役員・応援者など数多くの来県者を熱いおもてなしの心で迎えるとともに、大会期間を通して本県のあらゆる魅力を体感していただくことにより、再び本県を訪問したいという気持ちを喚起する大会とする。

⑷　北国ならではの大会運営

北国ならではの気象条件を考慮し、総合開・閉会式を屋内開催とするとともに、競技特性も考慮の上、会期前競技を多く設定することなどにより選手ファーストを意識した大会とする。

20　その他

⑴　参加申込及び宿泊申込が、定められた締切日までに行われない場合、又は、参加負担金が定められた納入期限までに納入されない場合は、本大会への参加を認めない。

⑵　大会運営にあたり、選手・観客・大会関係者への安全を最優先に配慮し、気象状況・感染状況・交通状況・テロ行為等の各種災害に伴い、安全確保が見込めないと主催者が判断した場合は、主催者の指示に従うものとする。また、安全確保のために、参加申込システムに登録された以外の個人情報を取得する場合がある。取得した情報については、目的以外に利用しない。

⑶　その他の事項については、国民スポーツ大会開催基準要項及び同細則による。

別記１　「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」

１　成年種別年齢域の選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項〔国民スポーツ大会開催基準要項第８項第１号及び第 10 項第４号（参加資格及び年齢基準等)〕に基づき、下記のいずれかを拠点とした都道府県から参加することができる。

⑴　居住地を示す現住所

⑵　勤務地

⑶　ふるさと

２　「ふるさと」とは、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県とする。

ただし、JOC エリートアカデミーに係る選手については、別に定める「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」第３項により取り扱うものとする。

３　我が国の競技力向上を支援する観点より、日本国籍を有する者及び「永住者」については、日本における滞在期間に関わらず、本制度を活用できるものとする。ただし、「日本国籍を有する者及び『永住者』」に該当しない者であっても、当該大会年の４月 30 日（冬季大会は前年の４月 30 日）以前から本大会終了時（冬季大会は各競技会終了時）まで継続的に日本に滞在している場合は、本制度を活用できるものとする。なお、やむを得ない事情により、一時的に日本を離れる場合は、総日数の半数を超えて日本で滞在していること。

４　「ふるさと選手制度」を活用し参加を希望する選手は、予め所定の方法により「ふるさと」を登録しなければならない。なお、一度登録した「ふるさと」は変更できないものとする。

５　「ふるさと」から参加する選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

６　ふるさと選手制度の活用については、原則として、１回につき２年以上連続とし、利用できる回数は２回までとする。

７　参加都道府県は「ふるさと選手」を所定の様式、方法により、当該大会実施要項で定めた参加申込締切期日までに、日本スポーツ協会宛てに提出する。

別記２　「『一家転住等』に伴う特例措置」

転校への特例

１　次の内容をすべて満たすことにより、国内移動選手の制限（国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③）に抵触しないものとする。

⑴　この特例の対象は、「少年種別」への参加者に限る。

⑵　本特例を受けることができるのは、一家転住等やむを得ない理由に限ることとする。
なお「一家転住等」とは概ね次のことを言う。

ア　親の転勤による一家の転居

イ　親の結婚、離婚による一家の転居

ウ　上記以外に、やむを得ない理由による一家の転居

⑶　転居した時点に応じて、以下の手続きを終了していること。

ア　本特例を受けようとする参加者は、下記２⑴の場合は転居元、下記２⑵の場合は転居先が属する都道府県スポーツ協会及び都道府県競技団体に対し、その旨報告すること。

イ　報告を受けた都道府県スポーツ協会及び都道府県競技団体は、下記２⑴の場合は転居先、下記２⑵の場合は転居元が属する都道府県スポーツ協会及び都道府県競技団体に対し、その旨報告し了承を得ること。

２　本特例を受ける当該大会において、参加することができる都道府県は以下のとおりとする。

⑴　転居した時点において、以下に該当する場合は転居元が属する都道府県から参加することができる。

ア　転居先が属する都道府県の代表が既に決定している場合

イ　当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表として既に決定している場合

ウ　当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表選考過程にある場合

⑵　転居した時点において、以下に該当する場合は転居先が属する都道府県から参加することができる。

ア　転居元が属する都道府県において、当該大会における都道府県代表の選考が開始されていない場合

別記３　「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」

公益財団法人日本オリンピック委員会が実施する「JOC エリートアカデミー」に係る選手のうち、下記１に該当する者については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項〔国民スポーツ大会開催基準要項第８項第１号及び第 10 項第４号（参加資格及び年齢基準等）〕及び別記１「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」に関し、次の２～４の特例を適用する。

１　対象者

⑴　少年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーに在籍する者

⑵　成年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーを修了した者、又は同アカデミーに在籍する者

２　少年種別年齢域の選手の所属都道府県

本特例第１項ー⑴に定める少年種別年齢域の選手は、その所属都道府県について、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項ー⑴ー2）- ②に定める「居住地を示す現住所」、「学校教育法第１条に規定する学校の所在地」、「勤務地」のほか、卒業小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

なお、同アカデミーへの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

３　成年種別年齢域の選手の「ふるさと」

本特例第１項ー⑵に定める成年種別年齢域の選手は、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」第２項に定める卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県のほか、同アカデミーでの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を「ふるさと」とすることができる。

４　国内移動選手の制限に係る例外適用

本特例第１項ー⑴に定める少年種別年齢域の選手が前回の大会（都道府県大会を含む）と異なる都道府県から参加する場合、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項ー⑴ー1）ー③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

［注］　本特例第１項ー⑵に定める成年種別年齢域の選手については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項ー⑴ー1）ー③（国内移動選手の制限）の規定に従い取り扱うものとする。

５　その他

中央競技団体が国際競技力向上施策として独自に実施するアカデミー事業については、当該中央競技団体からの申請を踏まえ、当該事業の内容が JOC エリートアカデミーに準拠し実施されていることが、公益財団法人日本オリンピック委員会により確認された場合に限り、国民スポーツ大会委員会の決議を経て当該事業を本特例の対象に加えることができる。

別記４　「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

我が国の競技力向上を支援する観点より、一定の競技力を有する選手に対して、「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置（以下「本特例」という。）」を下記のとおり定める。

１　特例の対象となる選手

本特例の対象となる選手は、下記の条件のいずれかを満たす者とする。

⑴　第 33 回オリンピック競技大会（2024 年・パリ）に参加した者。

⑵　2026 年４月 30 日時点で、下記のいずれかに該当し、各中央競技団体が本特例の対象として認めた者

ア　JOC オリンピック強化指定選手

イ　各競技（種目）における国内ランキング上位 10 位以内の者

ウ　中央競技団体が定めた強化指定選手

※　強化指定ランクについては、各競技における全日本選手権大会入賞レベル以上のカテゴリーを対象とする。

２　特例の内容

⑴　予選会の免除

本特例の対象となる選手については、都道府県予選会及びブロック大会を経ずに国民スポーツ大会本大会に参加することができるものとする。ただし、ブロック大会実施競技種目・種別においては、当該都道府県代表選手又はチームがブロック大会に参加し、本大会参加枠を獲得している場合とする。

⑵　資格要件（日数要件の緩和）

本特例の対象となる選手が所属都道府県として「居住地を示す現住所」又は「勤務地」を選択する場合は、日数に関する要件を定めないこととし、以下のとおりとする。

ア　居住地を示す現住所

次の要件をいずれも満たすものとする。

（ｱ）　2026 年４月 30 日以前から大会終了時（2026 年 10 月 20 日）まで引き続き、住民票記載の住所に存する都道府県において生活している実態があり、当該都道府県以外（海外を含む）において生活している実態がないこと。

なお、生活の実態については、下記要件により判断する。

ａ　自ら所有する住居、又は自らの名義で住居を賃借していること

ｂ　当該住居に生計を一にする家族と共に住んでいること

ｃ　当該住居の水道光熱費など費用を自ら負担していること

ｄ　当該住居に主要な家財道具が存すること

（ｲ）　合宿、試合等により当該都道府県外で活動を行う場合、当該都道府県を移動の起点としていること。

イ　勤務地

次の要件をいずれも満たすものとする。

（ｱ）　2026 年４月 30 日以前から大会終了時（2026 年 10 月 20 日）まで引き続き、雇用主と雇用契約を締結した上で、当該都道府県内に存する雇用主の会社や事業所等に現実に通勤し、勤務していること。

（ｲ）　当該都道府県内で、競技普及活動等の事業に参加すること。

３　国内移動選手の制限

本特例の対象となる選手の国内移動選手の制限については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③のとおりとする。

別記５　「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

１　特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況及び影響等を総合的に勘案し、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の６県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

２　特例の内容

⑴　特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手及び監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア　2011 年３月 11 日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第１条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ　災害が発生しなかったと仮定した場合、2026 年４月 30 日以前から大会終了時（2026 年 10 月 20 日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

⑵　避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア　被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手及び監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、第 78 回又は第 79 回大会に当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

(ｱ)　2011 年３月 11 日時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第１条に規定する学校に在籍していた者であること。

(ｲ)　移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が 2026 年４月 30 日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

［注］　「居住地を示す現住所」及び「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出又は学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学している実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場す

ることができる。

イ　本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第79回大会又は第80回大会に参加した者が、第81回大会において、以下のような震災にかかる理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

＜例＞　○　避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

○　避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする場合

○　他の都道府県に避難先を移す場合

⑶　避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア　卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地

イ　災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校又は高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

2011年度から2012年度（小学校は2015年度）までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者。

別記６　「令和６年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

１　特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況及び影響等を総合的に勘案し、新潟県、富山県、石川県、福井県の４県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

２　特例の内容

⑴　特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手及び監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア　2024 年１月１日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第１条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ　災害が発生しなかったと仮定した場合、2026 年４月 30 日以前から当該大会終了時（2026 年 10 月 20 日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

⑵　避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア　被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手及び監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、第 78 回大会又は第 79 回大会に、当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

(ｱ)　2024 年１月１日時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第１条に規定する学校に在籍していた者であること。

(ｲ)　移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が 2026 年４月 30 日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

［注］　「居住地を示す現住所」及び「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出又は学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学してい

る実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

イ　本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第 79 回大会又は第 80 回大会に参加した者が、第 81 回大会において、以下のような震災に係る理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

＜例＞　○　避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

○　避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする場合

○　他の都道府県に避難先を移す場合

⑶　避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア　卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地

イ　災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校又は高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

2024年度から2025年度（小学校は2028年度）までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者。

〔27〕ラグビーフットボール競技

１　期　　日　　2026年10月15日（木）から10月19日（月）まで（５日間）

種　　別	10月15日(木)	10月16日(金)	10月17日(土)	10月18日(日)	10月19日(月)
成年男子		予選プール/ 決勝トーナメント	決勝トーナメント		
女　　子				予選プール/ 決勝トーナメント	決勝トーナメント
少年男子	１　回　戦	２　回　戦		準　決　勝 ５・７位決定戦	決　　勝

２　会　　場　　八戸市（成年男子・女子）　プライフーズスタジアム
（八戸市多賀多目的運動場天然芝球技場）
青森市（少年男子）　大進建設スポーツ広場ラグビー場
（青森市スポーツ広場ラグビー場）

３　種別及び参加人員

種　別	監　督	選　手	参加都道府県	小　計	合　計（人）
成年男子	1	10	12	132	552
女　　子	1	10	12	132	
少年男子	1	23	12	288	

（注）成年男子については、監督が男子の場合、選手を兼ねることができる。
女子については、監督が女子の場合、選手を兼ねることができる。

４　競技上の規程及び方法

⑴　2026年度版World Rugby競技規則にて実施する。

ア　少年男子

(ｱ)　試合開始時の人数は、両チームとも１５名が競技区域内にいなければならない。

(ｲ)　高体連主催の大会におけるフロントローの入替に準ずる。

交替/入替のプレーヤー数は８名以内とする。

フロントローについては３名まで、その他のプレーヤーについては５名まで入替できる。

フォワードのプレーヤーがシンビンもしくは退場で１名少なくなった場合は７人でスクラムを組むか８人で組むかをレフリーはチームに確認をする。

バックスのプレーヤーの場合は８人でスクラムを組まなければならない。

イ　成年男子・女子

(ｱ)　試合開始時の人数は、両チームとも最低５名が競技区域内にいなければならない。
（スクラム３名参加、BK２名）

(ｲ)　交替/入替の回数は延長戦も含み、５回以内とする。

⑵　試合時間は、下表のとおりとする。

種　別		前　半	ハーフタイム	後　半
成年男子	7人制	7分	2分以内	7分
女　　子	7人制	7分	2分以内	7分
少年男子	15人制	30分	5分以内	30分

⑶　成年男子の試合形式

第１日目は１プール３チームの総当り戦による予選プール方式（計４プール）と予選プールにおいて各プール２位以内となった８チームによるトーナメント方式１回戦とする。

第２日目は予選プールにおいて各プール２位以内となった８チームによるトーナメント方式の順位決定戦とする。

ア　予選プール

予選プールにおける各プールの順位の決定は、各プール全試合の勝ち点の合計により決定する。各試合の勝ち点は、勝ち３点、引き分け２点、負け１点、棄権０点とする。

なお、予選プール終了時点で、勝ち点が同じ場合は、下記の順序に従い順位を決める。

(ｱ)　予選プール全試合の得点数と被得点数の差が最も大きいチームを上位とする。

(ｲ)　予選プール全試合のトライ数と被トライ数の差が最も大きいチームを上位とする。

(ｳ)　予選プール全試合で得点数が最も多かったチームを上位とする。

(ｴ)　予選プール全試合でトライ数が最も多かったチームを上位とする。

上記基準を用いてもなお順位が付けられない場合は抽選で順位を決める。

イ　順位決定トーナメント戦

順位決定トーナメント戦において前後半終了時点で同点の場合は、延長戦により勝敗を決定する。延長戦に入る前に、レフリーは試合前と同じようにトスを行う。

延長戦は試合終了後の１分後に始まり、５分間のピリオドで行われる。各ピリオド終了後にエンドを入れ替え、ハーフタイムはとらない。どちらかのチームが得点（ドロップゴール、ペナルティゴール、又はトライ）するまで５分間のピリオドを繰り返す。

⑷　女子の試合形式

第１日目は１プール３チームの総当り戦による予選プール方式（計４プール）と予選プールにおいて各プール２位以内となった８チームによるトーナメント方式１回戦とする。

第２日目は予選プールにおいて各プール２位以内となった８チームによるトーナメント方式の順位決定戦とする。

ア　予選プール

予選プールにおける各プールの順位の決定は、各プール全試合の勝ち点の合計により決定する。各試合の勝ち点は、勝ち３点、引き分け２点、負け１点、棄権０点とする。

なお、予選プール終了時点で、勝ち点が同じ場合は、成年男子の決定方法に準ずる。

イ　順位決定トーナメント戦

成年男子の順位決定トーナメント戦に準ずる。

⑸　少年男子の試合形式

トーナメント方式とする。

トーナメントにおいて、規定時間内に、同点のため次の試合への出場チームが決まらない場合及び順位を決めなければならない場合、次の方法で決める。

ア　トライ数の多いチームを上位とする。

イ　トライ数も同じ場合は、ペナルティトライ数の多いチームを上位とする。

ウ　トライ数もペナルティトライ数も同数の場合は、トライ後のゴール数の多いチームを上位とする。

エ　上記の方法で決定できない時は、抽選によって次回戦への出場を決める。

オ　決勝戦の場合は上記の定めにかかわらず、両チーム優勝とする。

また、５・７位決定戦で同点の場合、上記の定めにかかわらず、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

⑹　雷等、荒天時等における「中断」「再開」「勝敗」について

試合中に落雷（雷鳴・雷光）が発生した場合、直ちに試合を中断させる。中断並びに再開の判断は競技担当責任者を中心に、気象庁から発表される気象警報を確認し、大会関係者と協議し決定する。

再開の判断は、中断後概ね 30 分後を目途とする。

チームのウォーミングアップ時間を十分に配慮した上で、試合再開時刻を決定する。

試合が中断し再開出来ないと判断した場合、以下の方法で勝者を決定する。

ア　成年男子・女子：予選プール

(ｱ)　前半途中・後半途中、いずれの中断であっても試合は成立し、中断時の得点を有効とする。

(ｲ)　中断時の得点が同点の場合は引き分けとする。

(ｳ)　再度中断した場合は(ｱ)、(ｲ)を適用する。

イ　成年男子・女子：決勝トーナメント戦、少年男子

(ｱ)　前半途中・後半途中、いずれの中断であっても試合は成立し、中断時の得点を有効とする。

(ｲ)　中断時の得点が同点の場合は、トライ数・ペナルティトライ数・トライ後のゴール数を考慮せず引き分けとし、抽選によって次回戦への出場を決定する。

(ｳ)　再度中断した場合は(ｱ)、(ｲ)を適用する。

５　予選方法

⑴　競技規則、罰則、参加資格等については、本大会に準ずる。

ア　ブロック大会の日程、会場の決定

各種別のブロック大会の日程、会場は当該ブロック大会を統轄する協会長から公益財団法人日本ラグビーフットボール協会長に報告する。

イ　公益財団法人日本ラグビーフットボール協会では、７・８月をシーズンオフと定めているので、この期間に試合を行うことは適切でないが、国民スポーツ大会のブロック大会を行うため、やむを得ず特例を認める。ただし、事故防止の観点から試合開始時刻については、午前、午後の適切な時間帯を選び慎重に行うこと。

上記の理由で少年男子は決勝も含め、前後半 25 分ハーフで実施することとする。

⑵　ブロック大会申込方法

各都道府県ラグビーフットボール協会は、基礎となる選手（予備登録選手を含む）成年男子及び女子35名以内、少年男子50名以内を所定のWebページ（国民スポーツ大会参加申込システム）へアクセスし、当該ブロック大会参加申込締切日までに申込む。

⑶　チーム編成

単独、補強及び選抜を問わず、チーム名は都道府県名を冠すること。

⑷　女子

ブロック大会がやむを得ず実施できない場合は、ブロック大会開催県スポーツ協会（実行委員会）、開催県ラグビーフットボール協会、管轄の地域ラグビーフットボール協会（三地域協会）及び公益財団法人日本ラグビーフットボール協会と協議の上、推薦で決めることができる。

⑸　ブロック大会区分及び代表チーム数は、下表のとおりとする。

ブロック名	都　道　府　県　名	成年男子	女子	少年男子
北海道	北海道	1	1	1
東　北	岩手、宮城、秋田、山形、福島	1	1	1
関　東	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨	1	1	1
北信越	新潟、長野、富山、石川、福井	1	1	1
東　海	静岡、愛知、三重、岐阜	1	1	1
近　畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	2	2	2
中　国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	1	1	1
四　国	香川、徳島、愛媛、高知	1	1	1
九　州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	2	2	2
開催県	青森	1	1	1
計		12	12	12

⑹　予選会の結果報告

ブロック大会の結果は、それぞれ主管した都道府県ラグビーフットボール協会が2026年９月１日（火）までに公益財団法人日本ラグビーフットボール協会宛て報告すること。

⑺　本大会は、「令和７年度国民スポーツ大会ラグビーフットボール競技」での各種別（成年男子・女子・少年男子）の上位4都道府県をシードする。上位4都道府県が本大会不出場の場合、5位以下の都道府県を繰上げ対象とする。

６　参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

総則５に定めるもののほか次による。

⑴　少年男子

ア　高等学校在学中の生徒は、所属長（居住地を示す現住所によるもののほかは都道府県ラグビーフットボール協会長）が、人物、身体、学業など適当と認めたものとする。

イ　外国籍選手のエントリーは、２０名以下での大会参加申込の場合は３名まで、２１名から２３名の大会参加申込の場合は４名までとする。競技区域内でプレーできるのは２名までとする。（外国籍選手の参加資格は総則５に準拠。）

⑵　成年男子

外国籍選手のエントリーは２名までとし、競技区域内でプレーできるのは１名とする。（外国籍選手の参加資格は総則５に準拠。）

⑶　女子

ア　高校１年生を含む 2011 年４月１日以前に生まれた者。

イ　高等学校在学中の生徒は、所属長（居住地を示す現住所によるもののほかは都道府県ラグビーフットボール協会長）が、人物、身体、学業など適当と認めたものとする。

ウ　外国籍選手のエントリーは２名までとし、競技区域内でプレーできるのは１名とする。（外国籍選手の参加資格は総則５に準拠。）

⑷　監督

チームの監督は、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく、公認ラグビーフットボールコーチ３（公益財団法人日本ラグビーフットボール協会強化 コーチ)、公認ラグビーフットボールコーチ４のいずれかの資格を有する者とする。

⑸　その他

公益財団法人日本スポーツ協会規定及び公益財団法人日本ラグビーフットボール協会選手・役員規定に違反するものは参加できない。

7　総合成績決定方法

男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、競技得点と参加得点の合計とし、その得点の多い都道府県順に順位を決定する。ただし、同点の場合は、その　順位を共有し、次の順位を欠位とする。

⑴　競技得点

天皇杯対象種別	皇后杯対象種別	競　技　得　点
成　年　男　子 女　子	女　子	各種別とも１位 40 点、２位 35 点、３位 30 点、４位 25 点、５位 20 点、６位 15 点、７位（２チーム）各 7.5 点の競技得点を与える。
少　年　男　子		１位 64 点、２位 56 点、３位（２チーム）各 44 点、５位（２チーム）各 28 点、７位（２チーム）各 12 点の競技得点を与える。 ただし、同順位の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。なお、得点は次の順位のものを加え、当該都道府県で等分する。

＊少年男子　５・７位決定戦　２試合引き分けの場合、４チームに各 20 点を与える。１試合勝敗が付き１試合が同点の場合、勝者チームに 28 点、敗者チームに 12 点、引き分けのチームには各 20 点を与える。

⑵　参加得点

大会（ブロック大会を含む）に参加した都道府県に 10 点を与える。ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

8　表　　彰

⑴　男女総合成績及び女子総合成績の第１位から第８位までの都道府県に、表彰状を授与する。

⑵　男女総合成績第１位の都道府県に、大会会長トロフィーを授与する。
⑶　各種別の第１位から第７位（２チーム）までに、賞状を授与する。

９　参加申込方法

総則８に定めるもののほか、次による。

⑴　所定の Web ページ（国民スポーツ大会参加申込システム）へアクセスし、必要項目を入力の上、所属都道府県スポーツ協会を通じて、2026 年９月３日（木）午後５時までに申込手続を完了すること。

⑵　締切期限以降は所定の Web ページ（国民スポーツ大会参加申込システム）へアクセスできなくなるので、締切期限を厳守すること。

⑶　参加申込締切後の選手変更は、疾病、傷害等及び特別な場合は認める。又、監督変更は、第６項⑷ の条件を満たしていることとする。なお、選手・監督変更とも代表者会議の決定をもって最終とする。

ア　提出期限　成年男子　2026 年 10 月 15 日（木）
　　女　　子　2026 年 10 月 17 日（土）
　　少年男子　2026 年 10 月 14 日（水）

イ　提 出 先

(ｱ)　〒107-0062　東京都港区南青山１丁目 1-1　新青山ビル　東館５階
　　公益財団法人日本ラグビーフットボール協会
　　TEL 090-3581-6777　FAX 03-5775-5034
　　E-mail t-kref@agate.plala.or.jp

(ｲ)　〒030-8570　青森県青森市長島一丁目１番１号
　　青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会事務局
　　（青森県国スポ・障スポ局 競技式典課 競技運営グループ）
　　TEL 017-734-9771　FAX 017-734-8015
　　E-mail　aomori2026kyougiunei@pref.aomori.lg.jp

(ｳ)　（成年男子・女子）
　　〒031-8686　青森県八戸市内丸一丁目１番１号
　　青の煌めきあおもり国スポ・障スポ八戸市実行委員会事務局
　　（八戸市観光文化スポーツ部国スポ・障スポ推進室）
　　TEL 0178-43-9569　FAX 0178-43-9375
　　E-mail　rugby2026@city.hachinohe.aomori.jp

(ｴ)　（少年男子）
　　〒038-8505　青森県青森市柳川二丁目１番１号
　　青の煌めきあおもり国スポ・障スポ青森市実行委員会事務局
　　（青森市経済部国スポ・障スポ競技課）
　　TEL 017-761-4467　FAX 017-761-4489
　　E-mail　rugby2026@city.aomori.aomori.jp

なお、(ｱ)～(ｴ)について原則メールにて提出とする。また、公益財団法人日本スポーツ協会に対しては、上記への提出後、別途、所定の手続きにより、参加申込情報を修正すること。

⑷　問合せ先

上記(ｱ)(ｲ)(ｳ)(ｴ)参照

10　参加上の注意

⑴　少年男子は、全国高等学校体育連盟ラグビーフットボール専門部が定める「プレーヤーの服装規定」に準ずること。

ユニホームは統一デザインのものを着用するものとし、特にパンツにおいては、メーカー識別表示を除き、広告や宣伝表示がないものを着用すること。

また、パンツのラインの有無も統一すること。

競技中及びその前後に使用するユニフォーム類の胸には、必ず所属する都道府県名を明示すること。

⑵　女子は、必ずマウスガード、歯を保護するものの着用を義務とすること。また、19 歳未満の選手には、ヘッドギア（ＷＲのマークがついたもの）着用も義務とすること。

なお、競技規則はワールドラグビー制定の『2026 年度７人制競技規則』を適用するが、安全面を考慮し、スクイズボールや危険とみなされたプレーにおいてはレフリーの判断でとめる場合がある。

⑶　本大会におけるアシスタントレフリー・サブコントローラー（選手入替・交代管理者）は、大会本部で配置する。

11　その他

⑴　組合せ抽選会

日　時　　2026 年 9 月 6 日（日）　午後２時

場　所　　JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 内会議室

〒160-0013　東京都新宿区霞ヶ丘町４番２号

TEL 03-3401-3321　FAX 03-3401-6610

⑵　代表者会議

（成年男子）

日　時　　2026 年 10 月 15 日（木）　午後４時

場　所　　プライフーズスタジアム管理棟（八戸市多賀多目的運動場管理棟）

〒039-2241　青森県八戸市大字市川町字市川後 55 番地１

TEL 0178-80-7597　FAX 0178-80-7837

（女　子）

日　時　　2026 年 10 月 17 日（土）　午後４時

場　所　　プライフーズスタジアム管理棟（八戸市多賀多目的運動場管理棟）

〒039-2241　青森県八戸市大字市川町字市川後 55 番地１

TEL 0178-80-7597　FAX 0178-80-7837

（少年男子）

日　時　　2026 年 10 月 14 日（水）　午後４時

場　所　　青森県観光物産館アスパム５階　白鳥

〒030-0803　青森県青森市安方一丁目１番４０号

TEL 017-735-5311　FAX 017-735-2067

⑶　表彰式

（成年男子）

日　時　　2026 年 10 月 17 日（土）　競技終了後

場　所　　プライフーズスタジアム（八戸市多賀多目的運動場天然芝球技場）

〒039-2241　青森県八戸市大字市川町字市川後 55 番地 1

（女子・総合）

日　時　　2026 年 10 月 19 日（月）　競技終了後

場　所　　プライフーズスタジアム（八戸市多賀多目的運動場天然芝球技場）

〒039-2241　青森県八戸市大字市川町字市川後 55 番地 1

（少年男子）

日　時　　2026 年 10 月 19 日（月）　競技終了後

場　所　　大進建設スポーツ広場（青森市スポーツ広場ラグビー場）

〒030-0123　青森県青森市大字大矢沢字野田 87 番地４

式 典 次 第

成年男子　表彰式次第

（1） 日　時　　令和8年10月17日（土） 競技終了後
（2） 会　場　　プライフーズスタジアム
（3） 式次第

順　序	次　　第
1	開式通告
2	成績発表
3	賞状・副賞授与
4	競技会会長挨拶
5	歓送のことば
6	競技会終了宣言
7	閉式通告
8	選手団退場

少年男子　表彰式次第

（1） 日　時　　令和8年10月19日（月） 競技終了後
（2） 会　場　　大進建設スポーツ広場
（3） 式次第

順　序	次　　第
1	開式通告
2	成績発表
3	賞状・副賞授与
4	競技会会長挨拶
5	歓送のことば
6	競技会終了宣言
7	閉式通告
8	選手団退場

女子・総合成績　表彰式次第

（1） 日　時　　令和8年10月19日（月） 競技終了後
（2） 会　場　　プライフーズスタジアム
（3） 式次第

順　序	次　　第
1	開式通告
2	成績発表
3	賞状・副賞授与
4	総合成績発表
5	表彰状・大会会長トロフィー授与
6	競技会会長挨拶
7	歓送のことば
8	国旗・大会旗・諸旗降納
9	競技会終了宣言
10	閉式通告
11	選手団退場



〔27〕ラグビーフットボール競技

八戸市
青森市

競 技 日 程

代表者会議	【成年男子】	10月15日（木）	16時00分	プライフーズスタジアム管理棟
	【女　　子】	10月17日（土）	16時00分	プライフーズスタジアム管理棟
	【少年男子】	10月14日（水）	16時00分	青森県観光物産館アスパム5階　白鳥

会場		種別	10月15日(木)	10月16日(金)	10月17日(土)	10月18日(日)	10月19日(月)
八戸市	プライフーズスタジアム	成年男子		予選プール (12試合) 第１試合　10:00～ 最終試合　14:00～ 決勝トーナメント (４試合) 第１試合　15:00～ 最終試合　16:00～	決勝トーナメント (７試合) 第１試合　10:00～ 最終試合　13:05～ 表彰式（競技終了後） 成年男子		
		女子				予選プール (12試合) 第１試合　10:00～ 最終試合　14:00～ 決勝トーナメント (４試合) 第１試合　15:00～ 最終試合　16:00～	決勝トーナメント (７試合) 第１試合　10:00～ 最終試合　13:05～ 表彰式（競技終了後） 女子・総合
青森市	大進建設スポーツ広場	少年男子	１回戦 第１試合　10:30～ 第２試合　11:50～ 第３試合　13:10～ 第４試合　14:30～	２回戦 第１試合　10:30～ 第２試合　11:50～ 第３試合　13:10～ 第４試合　14:30～		５・７位決定戦 第１試合　10:30～ 第２試合　11:50～ 準決勝戦 第１試合　13:10～ 第２試合　14:30～	決勝 11:20～ 表彰式（競技終了後） 少年男子

表 彰 式	【　成年男子　】	10月17日（土）	競技終了後	プライフーズスタジアム （八戸市多賀多目的運動場天然芝球技場）
	【 女子・総合 】	10月19日（月）	競技終了後	プライフーズスタジアム （八戸市多賀多目的運動場天然芝球技場）
	【　少年男子　】	10月19日（月）	競技終了後	大進建設スポーツ広場 （青森市スポーツ広場ラグビー場）

ラグビーフットボール競技組合せ表

【 成 年 男 子 】

＜予選プール＞　10月16日（金）　　会場　プライフーズスタジアム
（八戸市多賀多目的運動場天然芝球技場）

試合時間　　：　７分ハーフ　※試合間隔は４分
ハーフタイム　：　２分以内　　※予選プールの④試合後と⑧試合後に10分間のインターバルを設ける
※予選プールと決勝トーナメント１回戦の間に40分間のインターバルを設ける

Ⅰプール

都道府県名	a	b	c	勝敗	勝ち点	順位
a 埼玉県		①	⑤			
b 秋田県			⑨			
c 京都府						

Ⅱプール

都道府県名	a	b	c	勝敗	勝ち点	順位
a 長野県		②	⑥			
b 宮崎県			⑩			
c 広島県						

Ⅲプール

都道府県名	a	b	c	勝敗	勝ち点	順位
a 徳島県		③	⑦			
b 愛知県			⑪			
c 大阪府						

Ⅳプール

都道府県名	a	b	c	勝敗	勝ち点	順位
a 長崎県		④	⑧			
b 青森県			⑫			
c 北海道						

＜予選プール＞

(a-b)

Ⅰ	①	10:00～	Ⅰａ－Ⅰｂ
Ⅱ	②	10:20～	Ⅱａ－Ⅱｂ
Ⅲ	③	10:40～	Ⅲａ－Ⅲｂ
Ⅳ	④	11:00～	Ⅳａ－Ⅳｂ

(a-c)

Ⅰ	⑤	11:30～	Ⅰａ－Ⅰｃ
Ⅱ	⑥	11:50～	Ⅱａ－Ⅱｃ
Ⅲ	⑦	12:10～	Ⅲａ－Ⅲｃ
Ⅳ	⑧	12:30～	Ⅳａ－Ⅳｃ

(b-c)

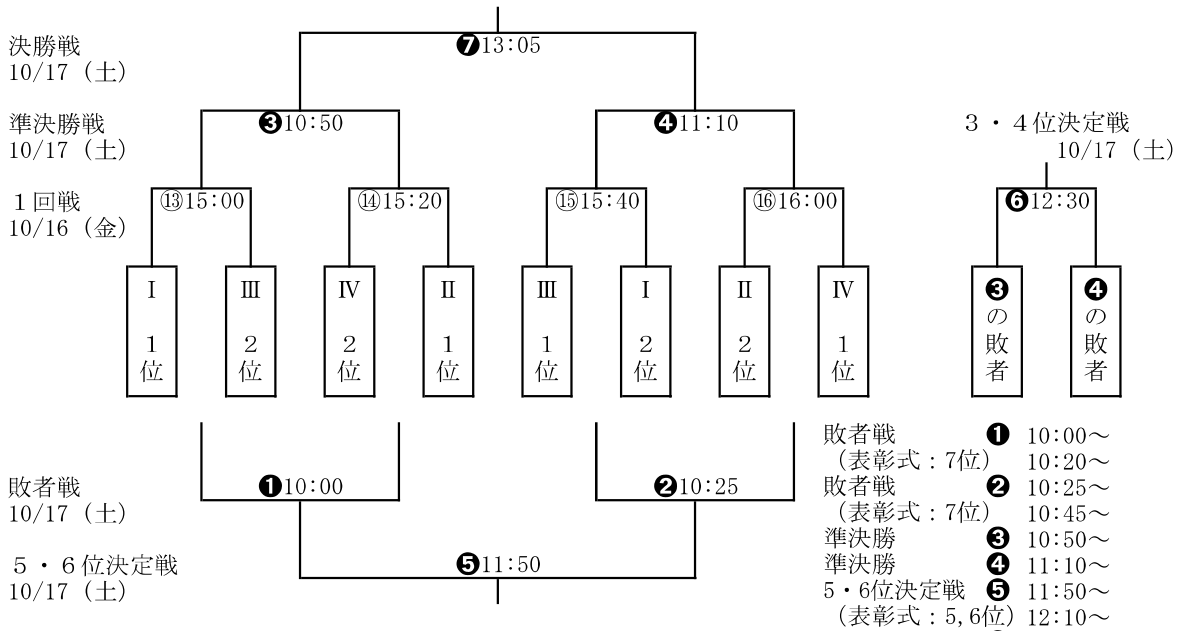
Ⅰ	⑨	13:00～	Ⅰｂ－Ⅰｃ
Ⅱ	⑩	13:20～	Ⅱｂ－Ⅱｃ
Ⅲ	⑪	13:40～	Ⅲｂ－Ⅲｃ
Ⅳ	⑫	14:00～	Ⅳｂ－Ⅳｃ

＜決勝トーナメント　1回戦＞

⑬ 15:00～
⑭ 15:20～
⑮ 15:40～
⑯ 16:00～
（16:16終了）

＜決勝トーナメント＞　10月16日（金）・17日（土）　　会場　プライフーズスタジアム
（八戸市多賀多目的運動場天然芝球技場）

試合時間　　：　７分ハーフ　※決勝トーナメント❹❺試合の間に20分間のインターバルを設ける
ハーフタイム　：　２分以内　　※❺❻試合の間に10分間、❻❼試合の間に5分間のインターバルを設ける



敗者戦	❶	10:00～
（表彰式：7位）		10:20～
敗者戦	❷	10:25～
（表彰式：7位）		10:45～
準決勝	❸	10:50～
準決勝	❹	11:10～
5・6位決定戦	❺	11:50～
（表彰式：5,6位）		12:10～
3・4位決定戦	❻	12:30～
（表彰式：3,4位）		12:50～
決勝戦	❼	13:05～
（表彰式：1,2位）		13:25～

ラグビーフットボール競技組合せ表

【　女　　子　】

＜予選プール＞　10月18日（日）　　会場　プライフーズスタジアム
（八戸市多賀多目的運動場天然芝球技場）

試合時間　　：　７分ハーフ　※試合間隔は４分
ハーフタイム　：　２分以内　　※予選プールの④試合後と⑧試合後に10分間のインターバルを設ける
※予選プールと決勝トーナメント１回戦の間に40分間のインターバルを設ける

Ⅰプール

都道府県名		a	b	c	勝敗	勝ち点	順位
a	岩手県		①	⑤			
b	山口県			⑨			
c	新潟県						

Ⅱプール

都道府県名		a	b	c	勝敗	勝ち点	順位
a	青森県		②	⑥			
b	京都府			⑩			
c	神奈川県						

Ⅲプール

都道府県名		a	b	c	勝敗	勝ち点	順位
a	佐賀県		③	⑦			
b	三重県			⑪			
c	大阪府						

Ⅳプール

都道府県名		a	b	c	勝敗	勝ち点	順位
a	徳島県		④	⑧			
b	北海道			⑫			
c	福岡県						

＜予選プール＞

(a-b)
Ⅰ　①　10:00～　Ⅰａ－Ⅰｂ
Ⅱ　②　10:20～　Ⅱａ－Ⅱｂ
Ⅲ　③　10:40～　Ⅲａ－Ⅲｂ
Ⅳ　④　11:00～　Ⅳａ－Ⅳｂ

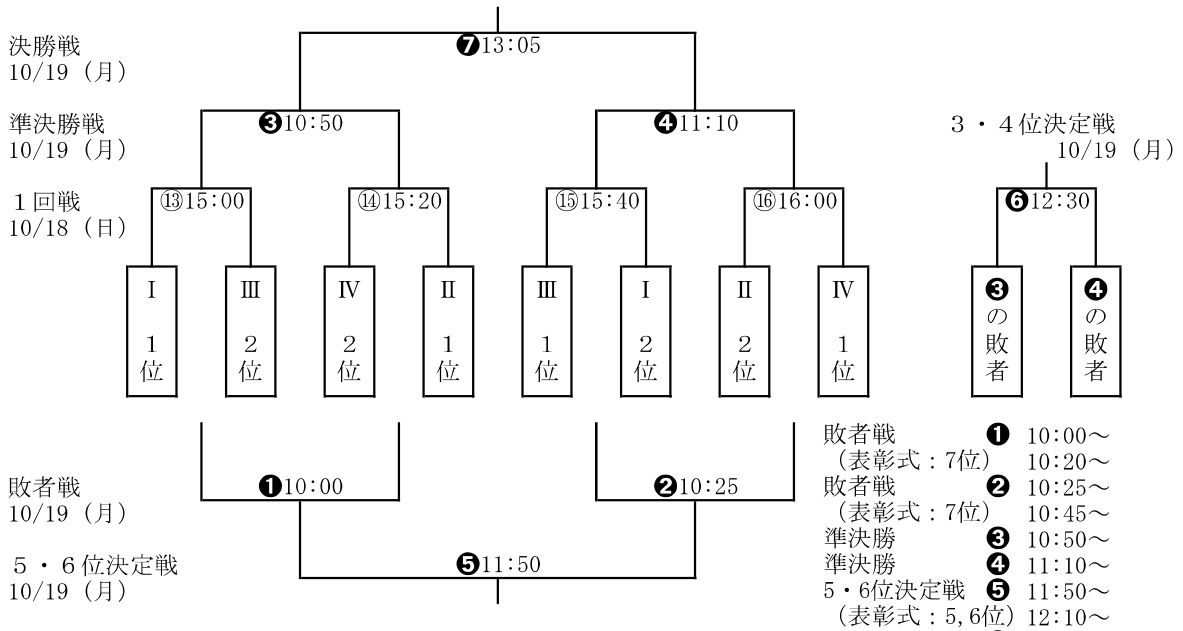
(a-c)
Ⅰ　⑤　11:30～　Ⅰａ－Ⅰｃ
Ⅱ　⑥　11:50～　Ⅱａ－Ⅱｃ
Ⅲ　⑦　12:10～　Ⅲａ－Ⅲｃ
Ⅳ　⑧　12:30～　Ⅳａ－Ⅳｃ

(b-c)
Ⅰ　⑨　13:00～　Ⅰｂ－Ⅰｃ
Ⅱ　⑩　13:20～　Ⅱｂ－Ⅱｃ
Ⅲ　⑪　13:40～　Ⅲｂ－Ⅲｃ
Ⅳ　⑫　14:00～　Ⅳｂ－Ⅳｃ

＜決勝トーナメント　1回戦＞
⑬　15:00～
⑭　15:20～
⑮　15:40～
⑯　16:00～
（16:16終了）

＜決勝トーナメント＞　10月18日（日）・19日（月）　　会場　プライフーズスタジアム
（八戸市多賀多目的運動場天然芝球技場）

試合時間　　：　７分ハーフ　※決勝トーナメント❹❺試合の間に20分間のインターバルを設ける
ハーフタイム　：　２分以内　　※❺❻試合の間に10分間、❻❼試合の間に5分間のインターバルを設ける



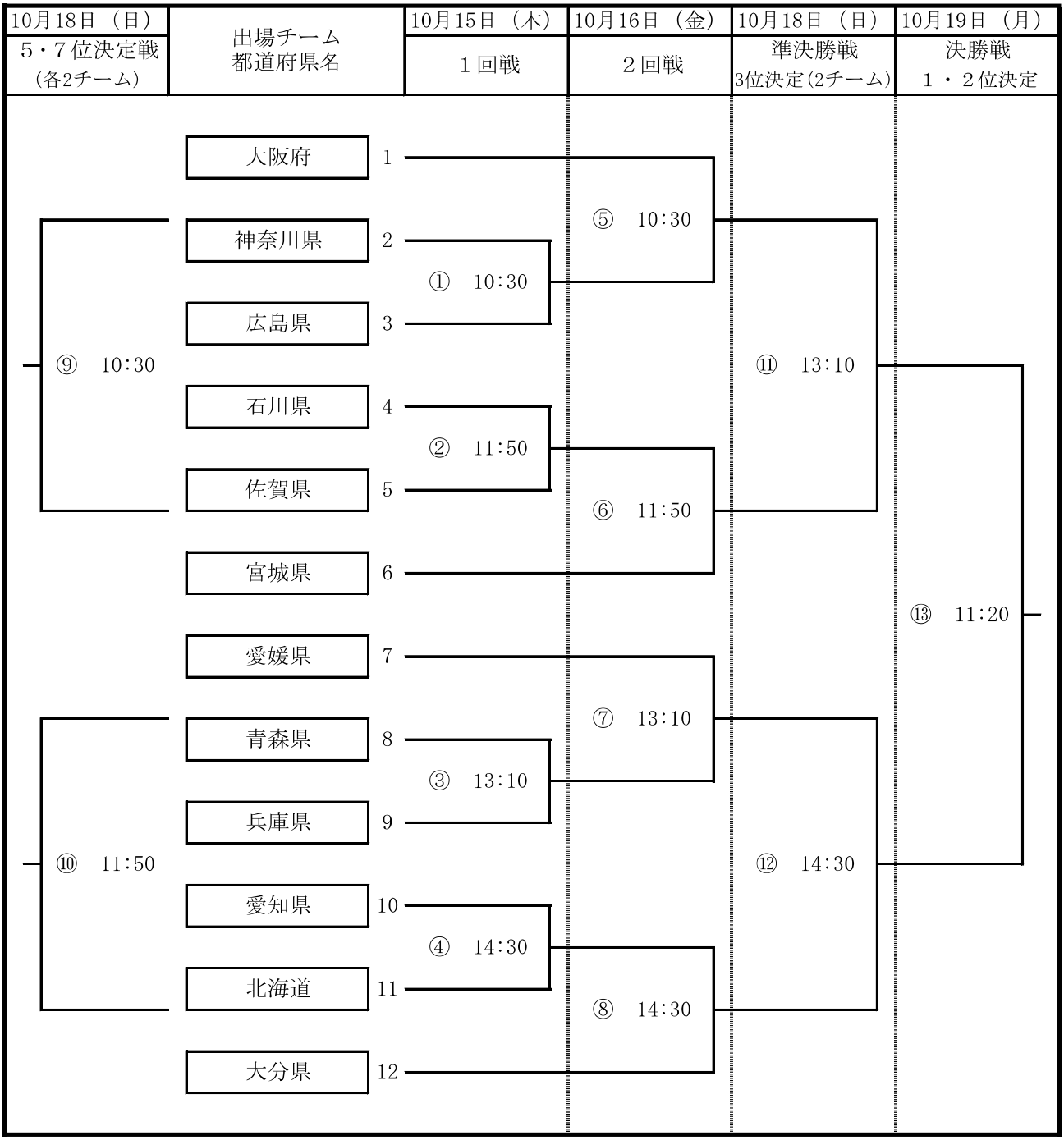
敗者戦　❶　10:00～
（表彰式：7位）　10:20～
敗者戦　❷　10:25～
（表彰式：7位）　10:45～
準決勝　❸　10:50～
準決勝　❹　11:10～
5・6位決定戦　❺　11:50～
（表彰式：5,6位）12:10～
3・4位決定戦　❻　12:30～
（表彰式：3,4位）12:50～
決勝戦　❼　13:05～
（表彰式：1,2位）13:25～

ラグビーフットボール競技組合せ表

【 少 年 男 子 】

試合時間　　：　30分ハーフ
ハーフタイム　：　５分以内

会場　大進建設スポーツ広場
（青森市スポーツ広場ラグビー場）



参加監督・選手一覧表【成年男子】

北海道					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	君　嶋　祐　太			1988/01/20	㈱パルテクノ
1	神　山　達　哉	170	74	2000/02/17	JA北海道厚生連旭川厚生病院
2	櫻　場　　弥	170	88	1991/07/07	㈱メディカルシステムネットワーク
③	七　戸　勇　気	171	76	1991/03/08	㈱メディカルシステムネットワーク
4	佐　賀　湧太郎	173	83	1997/02/15	㈱メディカルシステムネットワーク
5	中　条　拓　夢	189	90	2002/05/26	㈱メディカルシステムネットワーク
6	如　澤　海　流	176	80	2002/10/10	㈱パルテクノ
7	平　野　雄　紀	169	76	2002/11/24	㈱メディカルシステムネットワーク
8	相　澤　賢志郎	172	80	1998/11/29	㈱メディカルシステムネットワーク
9	太　田　鼓汰郎	166	64	2003/11/23	㈱メディカルシステムネットワーク
10	濱　谷　海　斗	177	83	2003/07/02	㈱パルテクノ
11					

青森県					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	山　下　祐　史			1984/09/15	八戸学院大学(職)
1	鶴　谷　知　憲	185	95	1990/10/18	LEAD株式会社
2	三　上　　匠	192	103	1990/05/15	三上工務店
3	小笠原　　駿	173	77	1990/07/07	株式会社青南商事
4	佐々木　　剛	180	101	1997/04/17	東芝ブレイブルーパス東京
5	宝　田　神　響	183	97	2002/09/06	株式会社ヤマゲン
6	吹　越　大　清	180	92	1998/02/17	青森県ラグビーフットボール協会
7	本　村　直　樹	184	88	1992/04/11	本田技研工業株式会社
8	千　葉　　健	171	82	2002/08/30	日本製鉄株式会社北日本製鉄所
9	今　　大　輝	182	82	2001/08/17	産業振興株式会社
10	中　村　良　真	172	80	1994/11/27	青森県競技力向上対策本部
⑪	山　下　祐　史	175	80	1984/09/15	八戸学院大学(職)

秋田県					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	橋　本　　憲			1997/01/31	ハシケンラグビー教室
①	橋　本　　憲	173	72	1997/01/31	ハシケンラグビー教室
2	梶　原　大　河	177	83	2001/09/03	秋田県立秋田きらり支援学校(教)
3	モセイトゥバ　志雄	178	106	1993/05/24	Vestas Japan株式会社
4	大　塚　隆　史	181	87	1996/08/09	エイデイケイ富士システム株式会社
5	佐　藤　亮　吾	180	84	2002/01/23	株式会社清水組
6	丸　尾　崇　真	185	94	1999/01/08	男鹿市役所
7	小　林　唯　人	173	90	1995/03/26	秋田県中小企業団体中央会
8	老　田　龍　平	179	89	1999/07/05	丸井産業株式会社
9	安　藤　　翼	174	87	2003/03/19	株式会社秋田ケーブルテレビ
10	渡　邊　将太朗	182	87	1996/05/03	秋田県立栗田支援学校(教)
11	佐　藤　力　哉	170	96	2000/07/08	秋田県立栗田支援学校(教)

埼玉県					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	山　田　久　郎			1986/09/02	埼玉県立深谷商業高等学校(教)
1	奥　田　勇　志	176	84	2001/10/05	川越狭山セコムラガッツ
2	水　野　　陸	175	85	2001/12/21	川越狭山セコムラガッツ
③	清　水　良太郎	168	75	2001/11/18	川越狭山セコムラガッツ
4	原　口　智　也	170	84	1997/11/04	川越狭山セコムラガッツ
5	森　本　泰　淳	175	75	1996/11/18	サムライセブン
6	荒　井　僚　太	185	88	1995/12/22	サムライセブン
7	大　田　大　地	167	62	2003/12/16	大蔵屋商事株式会社
8	新　井　大　輝	169	75	1999/01/17	埼玉県立川越特別支援学校(教)
9	相　川　了　大	178	72	1996/06/23	埼玉県立浦和高等学校(教)
10	日比野　大　穂	165	70	2000/07/31	埼玉県立不動岡高等学校(教)
11					

参加監督・選手一覧表【成年男子】

長野県					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	矢　澤　正　雄			1965/05/14	飯田広域消防
1	大　石　力　也	190	97	1993/01/29	NEC
2	小　平　一　輝	170	70	1991/04/30	夏目光学株式会社
3	矢　澤　　蒼	190	90	1996/12/06	東京ガスネットワーク株式会社
4	加　納　遼　大	175	75	1992/05/10	長野県競技力向上対策本部
5	福　沢　　魁	166	65	1998/09/10	天恵製菓株式会社
6	矢　澤　巧久留	180	85	1994/09/01	株式会社Mico
⑦	小　池　陽　翔	176	78	2004/03/30	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
8	湯　澤　　悠	177	90	2000/11/29	株式会社エアーテック関西
9	吉　沢　文　洋	172	76	1991/10/24	ヤマハ発動機
10	久保田　理　大	175	67	2001/12/05	鼎あかり保育園
11					

愛知県					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	山　内　貴　之			1986/06/17	トヨタ自動車㈱
1	山　白　海　弥	173	85	2000/05/23	㈱名古屋銀行
2	本　多　覚　士	173	81	2000/08/15	㈱豊通テック
③	野々山　紘　旨	170	88	1999/03/19	CCNet㈱
4	髙　木　陵太郎	180	81	2001/03/16	豊通物流㈱
5	奥　平　都太郎	178	90	2002/04/30	中部電力パワーグリッド㈱
6	原　田　拓　斗	166	75	2003/02/04	豊通物流㈱
7	矢　吹　　遼	170	83	2001/11/05	豊田ケミカルエンジニアリング㈱
8	石　田　太　陽	167	72	2003/09/18	中部電力パワーグリッド㈱
9	藤　本　凌　聖	172	85	2002/09/01	愛知電機㈱
10	中　村　海　斗	174	83	2002/07/09	愛知電機㈱
11	山　内　貴　之	180	89	1986/06/17	トヨタ自動車㈱

京都府					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	小　林　博　昭			1972/03/18	株式会社島津製作所
①	寺　山　廉太郎	166	72	2002/09/20	島津ロジステックサービス株式会社
2	松　坂　泰　作	166	77	1995/06/01	株式会社島津総合サービス
3	隈　元　添　太	169	80	1999/11/23	島津ロジステックサービス株式会社
4	前　薗　斗　真	172	85	2001/04/17	株式会社島津ビジネスシステムズ
5	堀　田　凌　永	180	85	2002/10/06	株式会社島津サイエンス
6	秦　　陽　太	170	75	1999/05/17	島津ロジステックサービス株式会社
7	相　根　大　和	170	75	1999/10/15	京セラ株式会社
8	北　村　悠　伍	170	72	2002/06/08	株式会社ニューテック
9	藤　田　晃　平	173	75	2001/08/07	高橋興業株式会社
10	山　本　龍　吾	177	80	2000/08/14	株式会社SCREEN
11					

大阪府					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	南　　昌　宏			1958/11/21	大阪府ラグビーフットボール協会
1	髙　橋　稔　貴	183	98	1994/09/27	大阪府警察
2	堀　田　恒　司	180	89	2000/07/30	大阪府警察
3	星　野　大　紀	177	96	1997/07/12	大阪府警察
4	廣　田　　瞬	165	71	1999/06/11	大阪府警察
5	川　島　俊　亮	170	82	1996/09/05	大阪府警察
6	藤　井　　颯	175	90	1999/05/13	大阪府警察
7	村　田　佳　翼	173	87	2002/04/25	大阪府警察
⑧	勝　又　佑　介	173	80	1998/04/23	大阪府警察
9	武　井　陽　昌	169	73	2001/09/03	大阪府警察
10	高　部　　勇	168	80	1999/11/20	大阪府警察
11					

参加監督・選手一覧表【成年男子】

広島県					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	李　　修　平			1989/08/09	マツダ株式会社
①	松　澤　駿　平	178	88	2002/09/25	マツダ株式会社
2	笹　岡　海　斗	174	83	1999/07/15	マツダ株式会社
3	金　丸　勇　人	173	80	1994/02/28	マツダ株式会社
4	岩　本　総　司	178	82	2003/07/24	マツダ株式会社
5	中　野　将　宏	168	79	1996/01/25	中国電力株式会社
6	松　岡　祐　斗	183	92	1998/02/22	中国電力株式会社
7	久　保　太　陽	180	100	2002/11/05	中国電力株式会社
8	佐　伯　夢　星	171	78	2004/08/10	広島修道大学
9	田　村　愛　介	170	73	2005/11/17	県立広島大学
10	中　村　晃　人	180	80	2007/02/06	近畿大学
11	李　　修　平	179	87	1989/08/09	マツダ株式会社

徳島県					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	猪　上　翔　太			1985/09/11	脇町高等学校（教）
①	近　藤　健　吾	176	78	1997/06/24	㈱井上組
2	柴　田　流　生	170	82	1999/01/05	日本プロパン㈱
3	伊　藤　優　汰	173	82	2001/06/12	四国電力送配電㈱
4	齊　藤　洋　人	174	75	1998/07/13	㈱大塚製薬工場
5	三　木　海　芽	167	75	2001/05/18	㈱阿波銀行
6	遠　藤　岳　歩	173	76	2001/11/10	伊藤忠食品㈱
7	磯　崎　練太郎	176	80	2000/11/12	三菱商事㈱
8	桑　原　大　輔	175	95	1992/01/21	徳島県警察
9	笠　原　京　介	171	74	1999/11/20	徳島県庁
10	佐　藤　桜　太	175	75	2004/06/23	徳島県ラグビーフットボール協会
11					

長崎県					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	向　井　友　教			1985/10/20	三菱重工業㈱
1	有　川　航　汰	163	60	2000/04/21	㈱富士商会
2	山　崎　太　星	179	90	1994/09/16	アイティーアイ㈱
3	本　多　旺　人	163	60	2005/03/16	長崎大学
4	角　谷　宏　大	176	93	2003/01/14	NTTデータMHIシステムズ㈱
5	川久保　瑛　斗	167	73	2003/08/10	自営業
⑥	二　宮　流　生	176	84	1995/08/19	㈱フジタ
7	高比良　隼　輝	175	80	2000/03/17	中国電力ミライズ㈱
8	田　中　　怜	173	73	2000/12/09	横河ソリューションサービス㈱
9	川久保　彪　我	166	75	2001/11/02	㈱NHC
10	山　田　駿　也	172	80	2002/06/29	㈱JALグランドサービス
11					

宮崎県					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	森　　大二郎			1993/01/16	延岡市立西階中学校（教）
1	平　坂　怜　磨	168	70	1997/06/30	県立延岡工業高等学校（教）
②	飛　髙　昴　空	175	85	1999/02/20	宮崎市役所
3	今　村　龍　也	185	100	2000/12/10	尾鈴土地改良区連合
4	山　下　隆　世	170	65	2006/11/12	九州医療科学大学
5	古　屋　陽　翔	175	80	2006/03/28	株式会社クラフティア
6	平　坂　海　人	175	85	1999/01/20	三軋建設株式会社
7	山　本　耀　平	181	73	2003/08/06	公益財団法人宮崎県スポーツ協会
8	齋　藤　瑠海奈	167	75	2001/07/09	西日本旅客鉄道株式会社
9	原　口　大　雅	180	80	1999/03/25	株式会社緒方塗装
10	松　永　純　平	175	85	1997/04/04	株式会社日向製錬所
11	森　　大二郎	172	82	1993/01/16	延岡市立西階中学校（教）

参加監督・選手一覧表【女子】

北海道					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	平　野　智　彦			1972/07/05	㈱メディカルシステムネットワーク
1	石　岡　和乃羽	158	57	2008/09/12	北海道札幌厚別高等学校
2	今　村　瑠　李	155	51	2007/12/20	札幌医療リハビリ専門学校
3	今　村　朱　李	153	53	2009/12/17	北海道札幌厚別高等学校
④	米　村　妃　菜	161	51	2003/01/19	㈱メディカルシステムネットワーク
5	大　穂　樹理亜	159	62	2003/06/24	㈱メディカルシステムネットワーク
6	添　田　有　香	158	68	2001/11/14	㈱メディカルシステムネットワーク
7	川　内　愛　結	159	65	2004/01/08	㈱メディカルシステムネットワーク
8	梶　原　の　ん	158	65	2008/03/06	北海道教育大学岩見沢校
9	三　枝　千　晃	168	74	1997/03/21	㈱メディカルシステムネットワーク
10	佐　藤　愛　那	163	66	2007/06/03	㈱メディカルシステムネットワーク
11					

青森県					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	幅　野　真　子			1999/03/25	青森県立十和田工業高等学校(教)
①	片　岡　瑞　帆	159	68	1994/10/11	株式会社青南商事
2	松　田　涼　那	162	56	2005/06/14	日本経済大学
3	山　形　詩　織	163	87	1998/08/27	株式会社青南商事
4	幅　野　陽　香	155	52	2000/09/15	八戸市立市民病院
5	古　関　未　來	162	52	2004/10/04	八戸学院大学
6	石　井　心　悠	160	60	2006/11/15	札幌大学
7	肴　倉　采　香	150	52	2003/01/16	山梨リハビリテーション病院
8	藤　春　柚　香	162	65	2001/03/12	自衛隊体育学校
9	藤　森　　晶	165	65	1993/09/08	青森県ラグビーフットボール協会
10	小笠原　茉　緒	160	59	2006/07/11	株式会社藤田電気商会
11	幅　野　真　子	150	52	1999/03/25	青森県立十和田工業高等学校(教)

岩手県					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	小田島　　隆			1977/08/08	花巻東高等学校(教)
1	安　藤　瑠　夏	160	70	2009/08/06	花巻東高等学校
②	後　藤　渚　菜	158	60	2006/12/04	順天堂大学
3	村　上　芽　生	160	60	2006/07/16	岩手県立大学
4	三　浦　心友姫	160	57	2008/12/14	花巻東高等学校
5	高　橋　胡　春	161	57	2007/03/30	関東学院大学
6	小野寺　萌　桃	160	50	2005/09/21	立正大学
7	小野寺　桃　音	155	48	2010/01/20	花巻東高等学校
8	新　田　真　心	158	68	2010/05/16	花巻東高等学校
9	舘　洞　愛　実	156	64	2009/07/10	岩手県立釜石商工高等学校
10	伊　藤　雛　希	145	56	2010/03/01	花巻東高等学校
11					

神奈川県					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	新　原　　響			1997/02/07	㈱関学サービス
1	新　原　　響	155	55	1997/02/07	㈱関学サービス
2	青　山　羽　菜	165	61	2007/09/28	横河武蔵野アルテミ・スターズ
3	石　神　優　奈	163	63	2010/11/29	関東学院六浦高校
4	松　江　　輝	162	55	2008/08/18	関東学院六浦高校
5	田　中　姫　星	156	68	2009/08/31	関東学院六浦高校
6	髙　橋　あいり	157	55	2006/05/01	早稲田大学
7	髙　橋　みひろ	156	55	2006/05/01	早稲田大学
8	伊　藤　ちひろ	164	66	2007/07/15	早稲田大学
9	冨　樫　結　衣	166	65	2007/06/05	早稲田大学
10	角　川　穂乃花	164	60	2001/09/10	ゆかりの里
⑪	安　藤　菜　緒	169	64	2001/07/17	ブルーオース合同会社

参加監督・選手一覧表【女子】

新潟県					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	伊　藤　悠　理			1992/06/07	北越高校(教)
①	天　谷　友　紀	167	67	1993/08/17	㈱新潟日報社
2	唯　野　文　香	156	57	2004/05/13	明治学院大学
3	廣　瀬　　翠	161	58	2004/12/10	立正大学
4	細　川　優　那	165	54	2007/09/22	立正大学
5	高　橋　一歩希	160	67	2007/07/11	龍谷大学
6	奥　野　わか花	155	53	2000/01/06	山九㈱
7	小　池　くるみ	165	60	2003/12/27	戸塚共立第2病院
8	長　川　　杏	153	51	2008/11/10	北越高等学校
9	村　上　愛　奏	158	68	2008/06/14	北越高等学校
10	大　竹　未　久	150	54	2007/10/17	立正大学
11					

三重県					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	富　川　　昂			1988/11/23	一般社団法人PEARLS
1	庵　奥　里　愛	160	60	1996/10/02	住友電装株式会社
2	木　下　そよ香	160	63	2000/05/18	住友電装株式会社
3	勝　島　朱夏里	153	54	2005/08/16	住友電装株式会社
4	大内田　夏　月	164	60	2002/07/15	住友理工株式会社
5	須　田　倫　代	157	58	2003/02/25	住友電装株式会社
6	末　　結　希	162	62	1993/11/03	住友電装株式会社
⑦	三　谷　咲　月	160	60	2000/05/09	セコム三重株式会社
8	樋　口　真　央	160	67	2003/03/24	三重トヨタ自動車株式会社
9	高　橋　夏　未	160	58	2003/06/03	住友電装株式会社
10	下　村　理　紗	165	67	2002/06/03	コスモ石油株式会社
11					

京都府					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	橋　本　照　和			1963/01/10	一般社団法人京都府ラグビーフットボール協会
1	﨑　山　慈　雨	162	57	2008/12/12	京都成章高等学校
②	長　瀬　拓　美	153	58	2002/06/03	YOKOHAMA　TKM
3	麻　田　瑞　月	160	66	2002/10/20	京都JOINUS
4	谷　口　　楓	157	58	2009/09/23	京都成章高等学校
5	尾久土　　栞	168	62	2006/09/08	早稲田大学
6	中　野　衣　都	162	56	2007/05/02	日本経済大学
7	吉　田　花　奈	158	55	2010/04/14	京都成章高等学校
8	堀　場　瑞　稀	153	50	2007/11/09	追手門学院大学
9	澤　本　侑　莉	150	50	2009/04/16	京都成章高等学校
10	吉　田　菜　哩	161	51	2010/08/21	京都成章高等学校
11					

大阪府					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	佐下谷　顕　宏			1986/11/04	大坂府立桜塚高等学校(教)
1	土　居　瑞　穂	158	66	2008/06/01	追手門学院高等学校
2	辻　　伶　奈	165	70	2006/11/30	横河武蔵野アルテミスターズ
3	河　井　そ　ら	165	55	2009/07/23	追手門学院高等学校
4	奥　田　陽　葉	156	53	2010/09/07	追手門学院高等学校
5	中　原　花　奏	167	58	2008/10/20	追手門学院高等学校
6	一ノ瀬　　葵	164	55	2008/09/12	追手門学院高等学校
⑦	山　口　み　う	160	59	2004/09/06	追手門学院大学
8	村　田　心　凪	168	61	2010/11/11	追手門学院高等学校
9	辻　　ひかり	156	57	2008/08/15	追手門学院高等学校
10	岩　原　華　奈	158	57	2007/08/04	立正大学
11					

参加監督・選手一覧表【女子】

山口県					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	中　村　龍　夫			1953/01/05	山口県ラグビーフットボール協会
1	平　野　優　芽	161	61	2000/03/15	ヤマネ鉄工建設株式会社
2	大　谷　芽　生	164	60	2000/05/28	ヤマネ鉄工建設株式会社
3	矢　崎　桜　子	158	59	2004/01/19	ヤマネ鉄工建設株式会社
④	坪　井　美　月	156	60	1999/06/30	ヤマネ鉄工建設株式会社
5	辰　己　裕有希	159	53	1999/10/04	ヤマネ鉄工建設株式会社
6	室　越　香　南	159	59	2000/08/03	ヤマネ鉄工建設株式会社
7	東　　あかり	161	62	2001/07/19	ヤマネ鉄工建設株式会社
8	星　野　瑠　奈	160	60	2003/11/24	ヤマネ鉄工建設株式会社
9	田　中　亜　美	164	61	2006/10/04	山口大学
10	井　上　　藍	161	61	1999/05/10	ヤマネ鉄工建設株式会社
11					

徳島県					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	天　羽　誠　二			1968/06/21	鳴門渦潮高校(教)
1	吉　岡　美　音	160	52	2006/06/22	四国大学
2	折　目　真　咲	160	52	2006/06/09	四国大学
3	伊　藤　莉　愛	157	50	2009/08/21	鳴門渦潮高校
4	大　貫　愛　実	157	50	2004/06/26	四国大学
5	向久保　　李	168	55	2010/07/20	鳴門渦潮高校
6	吉　田　朝　陽	160	52	2008/05/07	鳴門渦潮高校
7	阿　部　真　帆	168	54	2008/07/08	鳴門渦潮高校
8	大　川　紗優生	156	52	2008/09/22	鳴門渦潮高校
⑨	日　下　寧　子	156	50	2000/08/16	神戸ファストジャイロ
10	佐　藤　晃　羽	163	55	2006/12/31	追手門学院大学
11					

福岡県					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	平　野　　勉			1965/07/08	九電産業㈱
1	吉　本　芽　以	168	65	2002/03/21	ナナイロプリズム福岡
②	高　崎　真　那	163	62	1998/04/02	福岡市役所
3	西　郷　侑　菜	167	62	2002/02/12	ナナイロプリズム福岡
4	神　谷　桃　子	160	60	2001/10/05	神戸ファストジャイロ
5	中　山　花のん	160	61	2003/08/01	久留米大学女子ラグビー部
6	藤　田　野　愛	160	60	2004/10/17	早稲田大学
7	田　中　芽　衣	162	59	2006/04/28	横河武蔵野アルテミスターズ
8	中　園　真優佳	160	60	2007/05/12	早稲田大学
9	川　島　朱　莉	160	60	2008/03/07	早稲田大学
10	江　島　美　優	159	62	2008/08/29	福岡工業大学附属城東高等学校
11					

佐賀県					
位置	氏　名	身長	体重	生年月日	勤　務　先
監督	堤　　明　英			1959/04/12	のうりんの里
1	森　　千　嘉	168	66	2008/09/20	佐賀県立佐賀工業高等学校
2	田　川　結　月	160	58	2009/01/06	佐賀県立佐賀工業高等学校
3	古　川　　湊	153	56	2008/10/31	佐賀県立佐賀工業高等学校
4	吉　浦　桜　咲	157	53	2009/12/20	佐賀県立佐賀工業高等学校
5	天　本　咲　弥	155	51	2010/01/30	佐賀県立佐賀工業高等学校
6	大坂間　梨　蘭	167	63	2010/05/29	佐賀県立佐賀工業高等学校
⑦	山　領　一　花	153	55	2002/04/06	株式会社ワイドレジャー
8	伊礼門　千　珠	152	60	2007/02/18	久留米大学
9	松　川　美　麗	156	55	2006/05/10	自衛隊体育学校
10	山　田　響　希	160	75	2010/03/02	佐賀県立佐賀工業高等学校
11					

参加監督・選手一覧表【少年男子】

北海道					
位置	氏　名	身長	体重	生 年 月 日	学校名
監督	岸　本　泰　輔			1976/12/26	北海道大麻高等学校(教)
1	松　本　小吾郎	175	105	2008/05/07	札幌山の手高等学校
2	金　和　悠　心	171	103	2008/12/11	札幌山の手高等学校
3	堀　江　麻　杜	172	106	2008/10/15	札幌山の手高等学校
4	高　橋　叶　夢	177	102	2008/12/24	北海道中標津高等学校
5	續　木　蒼　大	193	90	2008/08/01	札幌山の手高等学校
6	松　田　春　大	172	82	2008/04/21	北海道遠軽高等学校
7	柏　谷　航　平	177	88	2008/09/21	札幌山の手高等学校
⑧	川久保　賢　志	167	90	2008/04/09	札幌山の手高等学校
9	南　端　歩　輝	167	72	2008/08/24	札幌山の手高等学校
10	芳　野　鉄　平	170	77	2008/06/08	立命館慶祥高等学校
11	大　橋　　禪	165	78	2008/12/26	北海道遠軽高等学校
12	辻　川　正太朗	173	79	2008/06/23	札幌山の手高等学校
⑬	和　田　弘　毅	176	80	2008/10/30	立命館慶祥高等学校
14	西　尾　幸　輝	183	88	2008/10/17	札幌山の手高等学校
15	佐　藤　満　輝	174	83	2008/04/17	北海道遠軽高等学校
16	関　根　佑　介	163	89	2008/09/13	札幌山の手高等学校
17	斎　藤　千　寛	170	125	2008/05/20	函館ラ・サール高等学校
18	木　村　夏　唯	170	98	2008/10/27	北海道遠軽高等学校
19	永　井　瑞　己	183	111	2009/06/10	立命館慶祥高等学校
20	小野田　　旭	181	89	2008/09/21	札幌山の手高等学校
21	内　藤　明　輝	176	78	2008/04/09	北海道小樽潮陵高等学校
22	赤　木　大　誠	174	72	2008/08/07	札幌山の手高等学校
23	田　中　　遼	182	78	2008/04/13	立命館慶祥高等学校

青森県					
位置	氏　名	身長	体重	生 年 月 日	学校名
監督	苫米地　衆　侯			1979/07/07	青森県立三本木農業恵拓高等学校(教)
1	工　藤　竜　聖	185	110	2008/09/11	青森県立三本木農業恵拓高等学校
2	小田部　　蓮	157	82	2009/03/08	青森山田高等学校
3	長　縄　昊　陽	176	108	2008/07/07	青森山田高等学校
4	石　田　春　太	175	88	2008/04/13	青森山田高等学校
5	越　後　柚　輝	181	84	2008/12/01	青森県立八戸西高等学校
⑥	吉　本　宥　人	169	90	2008/12/16	青森山田高等学校
7	向　山　虎　流	175	82	2010/03/11	青森県立三本木農業恵拓高等学校
8	ヴァイプル　デイヴィッズ	183	105	2009/08/05	青森山田高等学校
9	土　井　飛　彦	172	68	2008/12/15	青森県立三本木農業恵拓高等学校
10	西　　貫　生	170	78	2008/11/12	青森山田高等学校
11	猪　股　大　倭	170	72	2008/12/26	青森山田高等学校
12	三　橋　太　陽	165	73	2008/09/05	青森山田高等学校
13	蛯　名　義　輝	174	85	2008/12/08	青森県立三本木農業恵拓高等学校
14	奥　村　亮　太	171	70	2009/11/12	青森山田高等学校
15	畑　山　幸太郎	172	75	2009/01/15	青森県立三本木農業恵拓高等学校
16	芳　賀　亮　介	175	94	2008/10/30	青森山田高等学校
17	水　尻　良　磨	175	90	2009/12/03	青森県立三本木農業恵拓高等学校
18	蒔　田　大　吾	175	100	2008/06/19	青森県立三本木農業恵拓高等学校
19	金　澤　直　哉	175	95	2009/03/16	青森県立青森北高等学校
20	菊　地　健太郎	170	75	2008/11/21	青森県立青森北高等学校
21	簗　場　　凜	170	68	2008/11/06	青森県立三本木農業恵拓高等学校
22	吉　田　　翔	175	80	2009/10/25	青森県立三本木農業恵拓高等学校
23	田　中　芯　弥	172	65	2010/03/22	青森県立三本木農業恵拓高等学校

参加監督・選手一覧表【少年男子】

宮城県					
位置	氏　名	身長	体重	生 年 月 日	学校名
監督	長　尾　　豊			1972/08/23	利府高等学校(教)
1	佐　藤　智　暉	182	107	2008/05/24	仙台育英学園高等学校
②	倉　田　煌　生	177	96	2009/02/26	仙台育英学園高等学校
3	金　田　希　輔	184	116	2009/03/24	仙台育英学園高等学校
4	佐　藤　　迅	183	80	2008/10/13	利府高等学校
5	ナダニエル　フンガヴァカ	192	108	2009/09/16	仙台育英学園高等学校
6	髙　橋　　叶	175	80	2008/05/14	仙台育英学園高等学校
7	木　下　尊　斗	168	80	2008/05/18	仙台育英学園高等学校
8	須　藤　康　大	173	89	2008/04/27	仙台育英学園高等学校
9	坂　本　天　音	168	63	2009/01/23	仙台育英学園高等学校
10	若　松　　健	180	75	2008/11/06	仙台育英学園高等学校
11	小　池　桜　賀	177	74	2009/01/05	仙台育英学園高等学校
12	久　保　輝　瑠	172	75	2008/11/20	仙台育英学園高等学校
13	山　本　晴　日	177	84	2009/03/14	仙台育英学園高等学校
14	佐　藤　海　凪	179	72	2009/01/06	仙台育英学園高等学校
15	八　幡　玲　翔	174	80	2009/01/13	仙台育英学園高等学校
16	小　野　源　司	174	83	2010/01/26	仙台育英学園高等学校
17	後　藤　優　真	176	97	2008/10/15	佐沼高等学校
18	加　藤　新　汰	176	103	2009/01/30	仙台第三高等学校
19	眞　田　羚　史	176	78	2008/12/08	仙台育英学園高等学校
20	千　葉　　歩	169	89	2008/05/28	仙台第三高等学校
21	秋　田　一　侍	165	60	2009/10/06	仙台育英学園高等学校
22	前　川　琉　偉	179	75	2010/02/22	仙台育英学園高等学校
23	阿　部　大　和	170	60	2009/05/22	仙台育英学園高等学校

神奈川県					
位置	氏　名	身長	体重	生 年 月 日	学校名
監督	三　木　雄　介			1977/09/08	東海大学付属相模高等学校(教)
1	添　田　顕　慎	171	103	2008/08/18	桐蔭学園高等学校
2	木　俣　蒼司郎	180	102	2008/08/16	桐蔭学園高等学校
3	早　川　駈　琉	178	111	2008/07/08	桐蔭学園高等学校
4	古　賀　啓　志	188	93	2008/05/11	桐蔭学園高等学校
5	國　井　連太郎	185	94	2008/09/27	桐蔭学園高等学校
6	三　浦　瑛　士	175	91	2008/04/23	慶應義塾高等学校
7	大　塚　一　輝	177	95	2008/12/11	桐蔭学園高等学校
8	細　田　大　和	176	96	2008/08/01	東海大学付属相模高等学校
9	金　野　悠　生	162	61	2009/02/18	桐蔭学園高等学校
10	瀬　戸　功　大	170	70	2008/12/25	桐蔭学園高等学校
11	大久保　志　哉	168	74	2009/01/31	桐蔭学園高等学校
12	菅　野　空太郎	168	76	2008/11/12	桐蔭学園高等学校
13	青　野　龍　樹	166	80	2008/04/24	東海大学付属相模高等学校
⑭	黒　木　瑛　大	168	82	2008/12/30	東海大学付属相模高等学校
15	曽　我　大　和	174	74	2008/10/17	桐蔭学園高等学校
16	鈴　木　遥　翔	171	100	2008/04/06	東海大学付属相模高等学校
17	山　本　響　己	180	105	2008/06/05	東海大学付属相模高等学校
18	慶　　信太郎	171	108	2008/05/04	関東学院六浦高等学校
19	河　野　礼　旺	181	95	2008/06/29	東海大学付属相模高等学校
20	田　村　駿　介	167	86	2008/09/21	東海大学付属相模高等学校
21	小　山　蒼　晟	168	65	2009/07/28	桐蔭学園高等学校
22	田　嶋　貴　裕	163	78	2008/12/13	山手学院高等学校
23	田　中　碧　空	179	81	2008/05/31	関東学院六浦高等学校

参加監督・選手一覧表【少年男子】

石川県					
位置	氏　名	身長	体重	生 年 月 日	学校名
監督	紙　谷　直　樹			1967/07/18	日本航空高等学校石川(教)
1	原　田　　天	166	100	2008/09/01	日本航空高等学校石川
2	高　橋　莉　汰	170	95	2008/10/16	日本航空高等学校石川
3	江　口　凛太郎	181	95	2008/07/21	日本航空高等学校石川
4	伊　藤　亮　介	176	103	2008/11/21	日本航空高等学校石川
5	仲村渠　伶　音	183	80	2008/05/28	日本航空高等学校石川
6	木　村　渓　吾	170	80	2008/09/23	日本航空高等学校石川
7	袋　井　俊　逢	183	85	2008/11/06	日本航空高等学校石川
⑧	三　井　奏　汰	170	63	2008/10/17	日本航空高等学校石川
9	中　村　晃　太	175	80	2008/09/07	日本航空高等学校石川
10	乾　　直太朗	173	100	2008/06/24	日本航空高等学校石川
11	梅　村　　司	175	75	2009/04/26	日本航空高等学校石川
12	小　田　元　気	173	90	2009/04/28	日本航空高等学校石川
13	山　本　獅　王	182	90	2009/09/08	日本航空高等学校石川
14	尾　芝　樹　凰	183	95	2009/08/27	日本航空高等学校石川
15	村　山　咲大朗	173	75	2010/01/29	日本航空高等学校石川
16	岸　田　巨　任	180	100	2009/11/04	日本航空高等学校石川
17	梅　崎　　昴	165	65	2009/12/28	日本航空高等学校石川
18	マヴァエ　ウィリアミ	180	93	2008/08/21	日本航空高等学校石川
19	西　園　　心	165	62	2008/05/21	日本航空高等学校石川
20	ハフォカ　アレクサンダー	183	90	2009/05/20	日本航空高等学校石川
21	佐　藤　錦之介	170	75	2009/10/24	日本航空高等学校石川
22	林　　遼　河	170	80	2010/01/18	日本航空高等学校石川
23	池　原　孝　紀	170	70	2008/11/07	日本航空高等学校石川

愛知県					
位置	氏　名	身長	体重	生 年 月 日	学校名
監督	小　川　　智			1978/04/07	愛知県立旭丘高等学校(教)
1	七　村　崚　太	180	105	2008/07/25	栄徳高等学校
2	後　藤　巧　翔	166	70	2008/04/19	名古屋市立西陵高等学校
3	伊　藤　壮　大	181	90	2008/09/16	中部大学春日丘高等学校
④	大　向　遼　依	177	97	2008/12/26	中部大学春日丘高等学校
5	久　保　颯　太	184	119	2008/11/17	中部大学春日丘高等学校
6	田　嶋　　心	181	86	2009/03/16	中部大学春日丘高等学校
7	服　部　颯　太	175	75	2008/10/24	中部大学春日丘高等学校
8	ボールデン　ローレンス	182	84	2008/08/24	中部大学春日丘高等学校
9	松　本　壮　達	172	86	2008/08/07	中部大学春日丘高等学校
10	水　井　一　暉	172	101	2009/02/01	中部大学春日丘高等学校
11	宮　原　大　和	176	100	2008/06/03	中部大学春日丘高等学校
12	吉　川　仁朗大	172	86	2009/01/21	中部大学春日丘高等学校
13	鈴　木　晴　太	164	71	2008/05/16	名古屋高等学校
14	田　中　颯次郎	178	75	2008/05/19	名古屋高等学校
15	富　塚　耕　太	168	70	2008/09/17	名古屋高等学校
16	服　部　謙　成	172	77	2008/07/25	名古屋高等学校
17	宮　原　啓　太	177	84	2008/09/04	名古屋高等学校
18	諸　岡　拓　弥	168	83	2008/09/04	名古屋高等学校
19	山　北　剛　大	178	100	2008/08/19	名古屋高等学校
20	山　根　奏　大	177	79	2009/02/25	名古屋高等学校
21	小　川　統　也	178	88	2008/11/23	愛知県立旭丘高等学校
22	奥　田　零　也	180	90	2008/09/29	栄徳高等学校
23	髙　木　貫大朗	169	77	2009/01/15	名古屋高等学校

参加監督・選手一覧表【少年男子】

大阪府					
位置	氏　名	身長	体重	生 年 月 日	学校名
監督	中　尾　康　一			1983/11/20	大阪府立四條畷高等学校(教)
1	ファイアラガ　誠ノア	173	97	2008/04/04	常翔学園高等学校
2	金　井　琉　晟	179	113	2008/09/09	大阪桐蔭高等学校
3	九　里　　悠	176	110	2008/09/26	大阪産業大学付属高等学校
4	冨　永　竜　希	184	98	2008/06/01	大阪桐蔭高等学校
5	延　與　智　裕	186	102	2008/04/18	東海大学付属大阪仰星高等学校
⑥	米　谷　翔　馬	183	105	2008/08/31	東海大学付属大阪仰星高等学校
7	石　原　瑠　聖	168	83	2008/06/13	東海大学付属大阪仰星高等学校
8	新　谷　慧　斗	174	85	2009/01/18	東海大学付属大阪仰星高等学校
9	福　塚　咲太朗	172	75	2008/05/27	大阪桐蔭高等学校
10	堀　　颯　来	176	82	2008/04/18	東海大学付属大阪仰星高等学校
11	上　原　健　新	179	79	2008/07/12	大阪桐蔭高等学校
12	前　田　　航	174	83	2008/06/01	東海大学付属大阪仰星高等学校
13	北　風　凰　介	166	79	2008/10/01	常翔学園高等学校
14	山　本　健　剛	183	90	2008/10/10	東海大学付属大阪仰星高等学校
15	吉　川　大　惺	177	83	2008/05/15	大阪桐蔭高等学校
16	前　田　好　誠	176	96	2008/09/24	大阪桐蔭高等学校
17	持　田　幸　政	175	100	2008/08/25	東海大学付属大阪仰星高等学校
18	内　　遙　世	182	107	2009/03/04	大阪桐蔭高等学校
19	西　村　琉　聖	185	90	2008/08/11	大阪桐蔭高等学校
20	山　本　智　輝	181	105	2008/05/20	常翔学園高等学校
21	阪　井　誠士朗	163	61	2008/04/03	東海大学付属大阪仰星高等学校
22	松　永　淳之介	170	76	2008/08/05	東海大学付属大阪仰星高等学校
23	吉　村　大　志	175	80	2008/05/03	大阪桐蔭高等学校

兵庫県					
位置	氏　名	身長	体重	生 年 月 日	学校名
監督	塩　足　健　太			1993/11/08	神戸市立科学技術高等学校(教)
1	中　西　桂　生	170	93	2008/11/13	関西学院高等部
2	難　波　竜　彰	165	90	2008/10/27	報徳学園高等学校
3	中　村　海　聖	172	102	2009/01/18	報徳学園高等学校
4	前　里　歩　夢	179	90	2008/09/15	報徳学園高等学校
5	清　野　遼　太	184	100	2008/08/02	報徳学園高等学校
6	山　森　豪　太	165	82	2008/04/25	報徳学園高等学校
7	長谷川　　遼	175	90	2008/08/10	関西学院高等部
8	石　田　　成	179	92	2008/08/10	報徳学園高等学校
9	大　西　　慶	164	70	2009/01/16	関西学院高等部
10	山　田　　暉	166	68	2008/04/14	関西学院高等部
11	林　　悠　椰	170	82	2008/11/20	報徳学園高等学校
⑫	鈴　木　大　裕	170	83	2008/09/18	関西学院高等部
13	徳　永　伊　吹	176	86	2008/11/27	関西学院高等部
14	田　中　智　也	179	82	2008/10/13	関西学院高等部
15	梅　津　亮　介	175	72	2008/08/20	報徳学園高等学校
16	新　川　溫　橙	168	94	2008/08/06	関西学院高等部
17	杉　田　賢　人	167	95	2008/04/21	報徳学園高等学校
18	大　嶋　隆太郎	180	100	2009/11/24	関西学院高等部
19	箱　田　斗　和	179	91	2008/10/03	神戸市立科学技術高等学校
20	田　中　龍　聖	173	86	2008/04/08	報徳学園高等学校
21	今　枝　金太郎	173	70	2008/08/30	報徳学園高等学校
22	赤　穂　晃太郎	165	72	2008/12/25	報徳学園高等学校
23	住　家　真　幸	175	78	2009/06/17	報徳学園高等学校

参加監督・選手一覧表【少年男子】

広島県					
位置	氏　名	身長	体重	生 年 月 日	学校名
監督	清　原　謙　次			1970/09/16	中国電力株式会社
1	山　﨑　輝　真	177	98	2010/03/03	尾道高等学校
2	アシュントン　和真	175	99	2008/06/02	尾道高等学校
3	真　鍋　　翔	176	108	2008/05/19	尾道高等学校
4	市　川　周　樹	175	79	2010/03/25	尾道高等学校
⑤	稲　垣　　匠	176	97	2009/02/05	尾道高等学校
6	細　谷　幹　太	170	85	2008/10/31	尾道高等学校
7	上　村　伊　織	176	90	2009/02/09	尾道高等学校
8	磯　﨑　皇　心	168	70	2008/10/27	尾道高等学校
9	山　田　向志朗	171	69	2008/11/22	尾道高等学校
10	大　本　航　平	169	78	2008/10/24	尾道高等学校
11	山　﨑　優　希	179	85	2008/05/15	尾道高等学校
12	宋　　昊　慶	174	78	2009/11/06	尾道高等学校
13	西　口　幸　汰	173	75	2008/07/02	尾道高等学校
14	山　口　慧　大	168	70	2009/01/14	尾道高等学校
15	相　馬　言　胤	172	81	2008/06/18	尾道高等学校
16	中　路　大　誠	172	98	2009/07/02	尾道高等学校
17	稲　葉　櫂　士	169	92	2008/12/14	尾道高等学校
18	山　川　奨　人	178	107	2009/11/25	尾道高等学校
19	岡　本　康　汰	173	89	2008/05/13	尾道高等学校
20	沖　田　　亘	167	92	2009/03/03	崇徳高等学校
21	大　松　瑛　太	168	72	2009/06/17	尾道高等学校
22	高　山　鋼　生	174	79	2010/01/03	尾道高等学校
23	池　田　大　致	174	74	2008/07/22	尾道高等学校

愛媛県					
位置	氏　名	身長	体重	生 年 月 日	学校名
監督	渡　辺　悠　太			1988/04/21	松山聖陵高等学校(教)
1	門　田　龍　海	178	108	2008/08/03	松山聖陵高等学校
②	栗　栖　稜　世	175	100	2008/09/04	松山聖陵高等学校
3	松　井　大　清	178	95	2008/07/11	松山聖陵高等学校
4	村　松　咲太朗	190	84	2008/08/24	松山聖陵高等学校
5	田　邊　晴　馬	180	88	2009/07/20	松山聖陵高等学校
6	堀　部　零　王	170	82	2008/10/08	松山聖陵高等学校
7	益　田　晋　作	172	74	2008/08/04	松山聖陵高等学校
8	森　　謙　真	179	85	2009/03/13	松山聖陵高等学校
9	山　本　琉稀弥	166	73	2008/06/27	松山聖陵高等学校
10	藤　本　泰　志	178	70	2009/07/31	松山聖陵高等学校
11	稲　田　　蓮	174	75	2008/07/04	松山聖陵高等学校
12	髙　木　凌　恩	176	89	2010/03/17	松山聖陵高等学校
13	松　本　義　生	170	83	2008/10/05	松山聖陵高等学校
14	山　本　至　恵	172	76	2010/09/16	松山聖陵高等学校
15	児　玉　寅之助	176	74	2010/01/28	松山聖陵高等学校
16	小　池　琉　貴	170	90	2009/05/09	松山聖陵高等学校
17	髙　橋　駿　吾	165	85	2010/03/12	松山聖陵高等学校
18	北　村　愛沙斗	164	88	2009/01/28	松山聖陵高等学校
19	深　尾　悠　吾	176	88	2010/03/15	松山聖陵高等学校
20	志　賀　奏　真	180	80	2008/06/05	松山聖陵高等学校
21	岡　崎　透　和	176	68	2009/06/01	松山聖陵高等学校
22	目　戸　宋　昌	163	65	2008/12/29	松山聖陵高等学校
23	柴　田　和　輝	165	80	2009/01/14	松山聖陵高等学校

参加監督・選手一覧表【少年男子】

佐賀県					
位置	氏　名	身長	体重	生 年 月 日	学校名
監督	枝　吉　巨　樹			1975/09/19	佐賀県立佐賀工業高等学校(教)
1	川　村　瑠樹亜	176	98	2008/07/15	佐賀県立佐賀工業高等学校
2	入　江　日　向	178	103	2008/12/17	佐賀県立佐賀工業高等学校
3	江　越　徠　翔	181	113	2008/10/20	佐賀県立佐賀工業高等学校
4	北　村　賢　斗	185	101	2008/05/13	佐賀県立佐賀工業高等学校
5	本　田　隆　成	185	100	2008/07/29	佐賀県立佐賀工業高等学校
⑥	石　川　樟　樹	175	87	2009/01/06	佐賀県立佐賀工業高等学校
7	高　山　昊　大	181	79	2009/06/15	佐賀県立佐賀工業高等学校
8	内　藤　敬太郎	182	85	2008/11/12	佐賀県立佐賀工業高等学校
9	宮　﨑　銀之助	163	62	2008/06/05	佐賀県立佐賀工業高等学校
10	岩　本　浩　志	165	70	2009/10/03	佐賀県立佐賀工業高等学校
11	森　　奏　太	177	81	2008/06/15	佐賀県立佐賀工業高等学校
12	瀧　野　琉之介	175	80	2008/11/11	佐賀県立佐賀工業高等学校
13	野　田　颯　人	177	83	2008/10/29	佐賀県立佐賀工業高等学校
14	森　　一　魁	173	80	2009/12/29	佐賀県立佐賀工業高等学校
15	大坂間　麗　音	170	77	2008/06/24	佐賀県立佐賀工業高等学校
16	飯　田　一　斗	171	103	2008/11/21	佐賀県立佐賀工業高等学校
17	岩　本　陽　斗	182	100	2008/07/31	佐賀県立佐賀工業高等学校
18	野　畑　湊　吾	181	90	2008/06/10	佐賀県立佐賀工業高等学校
19	手　束　つばき	176	77	2008/04/03	佐賀県立佐賀工業高等学校
20	小　櫻　経一郎	175	72	2009/03/27	佐賀県立佐賀工業高等学校
21	岡　田　　拓	170	81	2009/09/11	佐賀県立佐賀工業高等学校
22	大　倉　瑠　人	175	75	2010/02/23	佐賀県立佐賀工業高等学校
23	座　本　歩　人	178	76	2009/05/15	佐賀県立佐賀工業高等学校

大分県					
位置	氏　名	身長	体重	生 年 月 日	学校名
監督	白　田　誠　明			1976/04/09	大分東明高等学校(教)
1	神　﨑　裕　仁	180	105	2008/08/22	大分東明高等学校
2	武　田　隼　叶	178	94	2009/05/24	大分東明高等学校
3	神　﨑　喜　裕	182	108	2008/08/22	大分東明高等学校
4	日　吉　　颯	178	92	2010/11/03	大分東明高等学校
5	篠　田　英　作	187	95	2009/02/19	大分東明高等学校
6	興　梠　鉄　平	168	76	2008/10/23	大分東明高等学校
7	安　藤　晴　琉	174	96	2008/05/23	大分東明高等学校
8	石　井　颯　太	186	100	2008/08/03	大分東明高等学校
9	永　野　春　翔	167	67	2009/03/25	大分東明高等学校
10	吉　中　直　生	174	76	2010/12/10	大分東明高等学校
11	山　本　愛　翔	175	80	2008/07/29	大分東明高等学校
12	後　藤　鉄　平	175	78	2008/05/17	大分東明高等学校
13	尾　﨑　慎太郎	180	80	2011/01/07	大分東明高等学校
14	藤　田　徹　平	168	75	2008/10/07	大分東明高等学校
⑮	吉　田　夏　樹	177	82	2008/08/19	大分東明高等学校
16	渡　邉　行　雲	180	108	2008/05/28	大分東明高等学校
17	釘　嶋　　翼	177	110	2009/07/25	大分東明高等学校
18	勝　俣　　肇	172	99	2008/10/18	大分東明高等学校
19	タウバレ　シケリ	185	95	2008/11/09	大分東明高等学校
20	今　村　礼ノ助	180	85	2009/12/13	大分東明高等学校
21	小　西　創　太	168	68	2008/10/10	大分東明高等学校
22	岩　田　翔　真	170	75	2009/10/27	大分東明高等学校
23	下　川　天　晴	170	70	2008/11/06	大分東明高等学校

ブロック大会成績表【成年男子】

東北ブロック

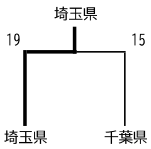
	秋田県	山形県	福島県	宮城県	岩手県	順位
秋田県		26-14	42-0	26-12	40-0	1位
山形県	14-26		26-7	14-21	14-20	4位
福島県	0-42	7-26		14-29	10-19	5位
宮城県	12-26	21-14	29-14		21-12	2位
岩手県	0-40	20-14	19-10	12-21		3位

リーグ戦１位：秋田県が本国スポ出場

関東ブロック

Aグループ	東京都	埼玉県	群馬県	神奈川県	順位
東京都		0-15	41-0	38-12	2位
埼玉県	15-0		33-7	26-7	1位
群馬県	0-41	7-33		15-35	4位
神奈川県	12-38	7-26	35-15		3位

Bグループ	栃木県	茨城県	山梨県	千葉県	順位
栃木県		33-7	33-14	7-14	2位
茨城県	7-33		19-19	17-33	4位
山梨県	14-33	19-19		7-21	3位
千葉県	14-7	33-17	21-7		1位



埼玉県が本国スポ出場

北信越ブロック

	福井県	新潟県	石川県	富山県	長野県	順位
福井県		7-31	7-17	14-35	0-40	5位
新潟県	31-7		33-7	33-0	7-33	2位
石川県	17-7	7-33		14-12	0-40	3位
富山県	35-14	0-33	12-14		7-33	4位
長野県	40-0	33-7	40-0	33-7		1位

リーグ戦1位：長野県が本国スポ出場

東海ブロック

	愛知県	岐阜県	静岡県	三重県	順位
愛知県		52-7	40-5	54-0	1位
岐阜県	7-52		31-21	0-31	3位
静岡県	5-40	21-31		0-38	4位
三重県	0-54	31-0	38-0		2位

リーグ戦１位：愛知県が本国スポ出場

近畿ブロック

Aブロック	大阪府	滋賀県	和歌山県	順位
大阪府		29-12	31-0	1位
滋賀県	12-29		35-5	2位
和歌山県	0-31	5-35		3位

Bブロック	京都府	兵庫県	奈良県	順位
京都府		22-10	45-7	1位
兵庫県	10-22		14-40	3位
奈良県	7-45	40-14		2位

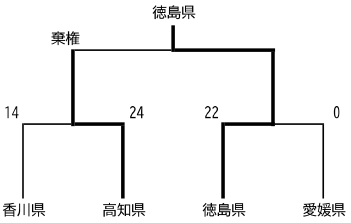
各リーグ戦１位：大阪府、京都府が本国スポ出場

中国ブロック

	広島県	岡山県	鳥取県	山口県	島根県	順位
広島県		36-7	52-7	47-0	40-7	1位
岡山県	7-36		31-15	24-29	33-12	3位
鳥取県	7-52	15-31		10-31	5-12	5位
山口県	0-47	29-24	31-10		15-12	2位
島根県	7-40	12-33	12-5	12-15		4位

リーグ戦1位：広島県が本国スポ出場

四国ブロック

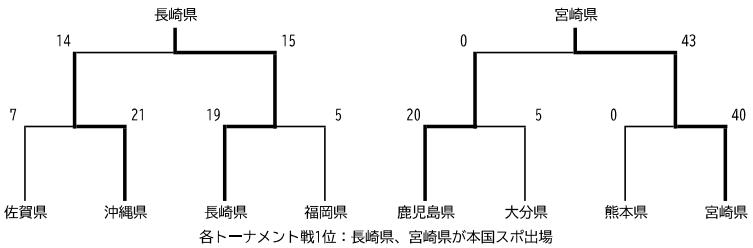


トーナメント戦1位：徳島県が本国スポ出場

九州ブロック

Aグループ	長崎県	鹿児島県	熊本県	佐賀県	順位
長崎県		5-26	22-17	－	3位
鹿児島県	26-5		－	14-27	2位
熊本県	17-22	－		10-28	4位
佐賀県	－	27-14	28-10		1位

Bグループ	宮崎県	福岡県	沖縄県	大分県	順位
宮崎県		52-0	31-14	－	1位
福岡県	0-52		－	29-12	2位
沖縄県	14-31	－		12-21	4位
大分県	－	12-29	21-12		3位



各トーナメント戦1位：長崎県、宮崎県が本国スポ出場

上記の他に、**北海道**（北海道ブロック）、**青森県**（開催地）が本国スポ出場

ブロック大会成績表【女子】

東北ブロック

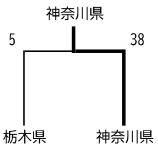
	宮城県	福島県	岩手県	順位
宮城県		12−26	10−24	3位
福島県	26−12		7−12	2位
岩手県	24−10	12−7		1位

リーグ戦１位：岩手県が本国スポ出場

関東ブロック

Aグループ	埼玉県	山梨県	東京都	栃木県	順位
埼玉県		50−0	28−0	7−15	2位
山梨県	0−50		0−46	5−34	4位
東京都	0−28	46−0		7−17	3位
栃木県	15−7	34−5	17−7		1位

Bグループ	神奈川県	群馬県	茨城県	千葉県	順位
神奈川県		41−0	46−0	20−5	1位
群馬県	0−41		14−34	0−31	4位
茨城県	0−46	34−14		5−34	3位
千葉県	5−20	31−0	34−5		2位



神奈川県が本国スポ出場

北信越ブロック

	新潟県	富山県	福井県	石川県	長野県	順位
新潟県		43−0	41−0	33−0	33−0	1位
富山県	0−43		34−0	5−26	12−26	4位
福井県	0−41	0−34		0−52	0−40	5位
石川県	0−33	26−5	52−0		5−19	3位
長野県	0−33	26−12	40−0	19−5		2位

リーグ戦1位：新潟県が本国スポ出場

東海ブロック

	静岡県	岐阜県	愛知県	三重県	順位
静岡県		19−12	5−22	0−50	3位
岐阜県	12−19		7−17	0−47	4位
愛知県	22−5	17−7		0−59	2位
三重県	50−0	47−0	59−0		1位

リーグ戦１位：三重県が本国スポ出場

近畿ブロック

Aブロック	奈良県	和歌山県	京都府	順位
奈良県		7−29	0−53	3位
和歌山県	29−7		5−55	2位
京都府	53−0	55−5		1位

Bブロック	滋賀県	兵庫県	大阪府	順位
滋賀県		7−5	0−32	2位
兵庫県	5−7		7−29	3位
大阪府	32−0	29−7		1位

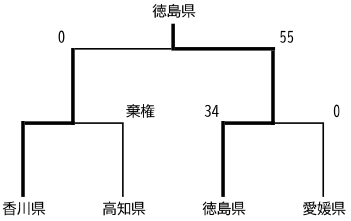
各リーグ戦１位：京都府、大阪府が本国スポ出場

中国ブロック

	山口県	岡山県	鳥取県	広島県	鳥取県	順位
山口県		60−0	87−0	70−0	39−5	1位
岡山県	0−60		38−10	10−26	0−43	4位
鳥取県	0−87	10−38		5−45	0−80	5位
広島県	0−70	26−10	45−5		0−38	3位
島根県	5−39	43−0	80−0	38−0		2位

リーグ戦1位：山口県が本国スポ出場

四国ブロック

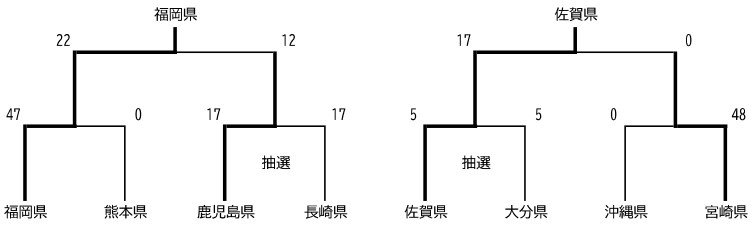


トーナメント戦1位：徳島県が本国スポ出場

九州ブロック

Aグループ	福岡県	鹿児島県	沖縄県	佐賀県	順位
福岡県		26−7	38−0	−	1位
鹿児島県	7−26		−	0−17	3位
沖縄県	0−38	−		5−31	4位
佐賀県	−	17−0	31−5		2位

Bグループ	宮崎県	熊本県	長崎県	大分県	順位
宮崎県		49−0	10−5	−	1位
熊本県	0−49		−	5−36	4位
長崎県	5−10	−		29−0	2位
大分県	−	36−5	0−29		3位

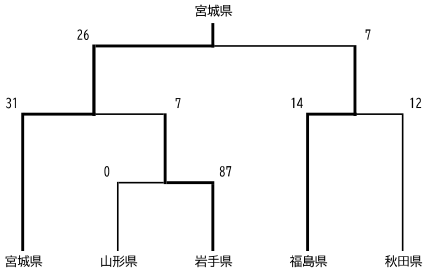


各トーナメント戦1位：福岡県、佐賀県が本国スポ出場

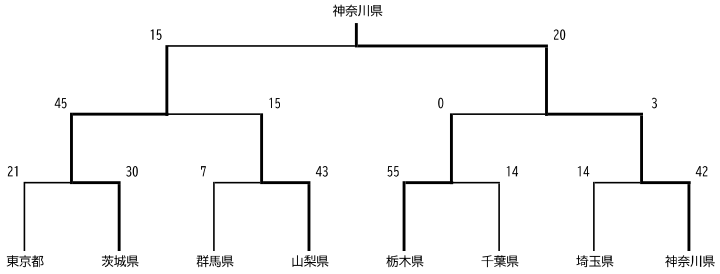
上記の他に、**北海道**（北海道ブロック）、**青森県**（開催地）が本国スポ出場

ブロック大会成績表【少年男子】

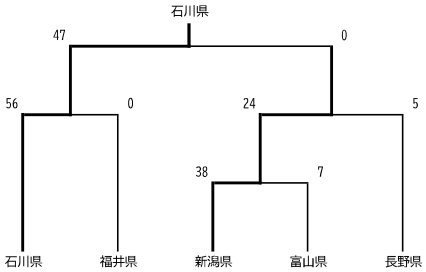
東北ブロック



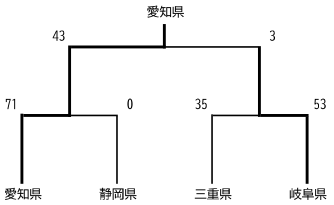
関東ブロック



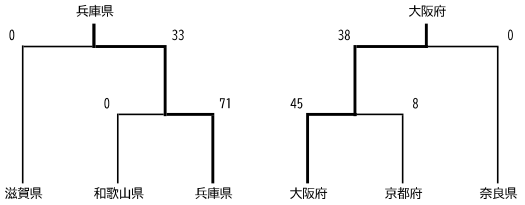
北信越ブロック



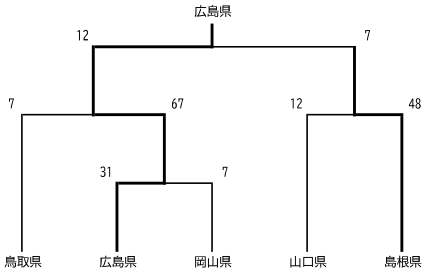
東海ブロック



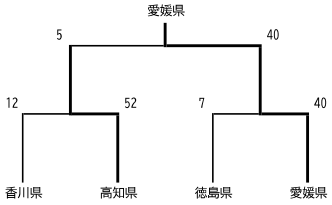
近畿ブロック



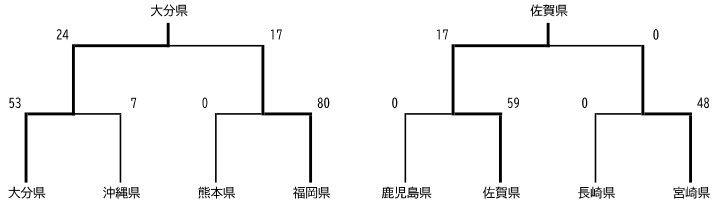
中国ブロック



四国ブロック



九州ブロック



上記の他に、**北海道**（北海道ブロック）、**青森県**（開催地）が本国スポ出場

都道府県別（種別）参加申込人数一覧表

		成年男子	女子	少年男子	合計
1	北　海　道	11	11	23	45
2	青　森　県	11	11	23	45
3	岩　手　県		11		11
4	宮　城　県			23	23
5	秋　田　県	11			11
6	山　形　県				
7	福　島　県				
8	茨　城　県				
9	栃　木　県				
10	群　馬　県				
11	埼　玉　県	11			11
12	千　葉　県				
13	東　京　都				
14	神　奈　川　県		11	23	34
15	山　梨　県				
16	新　潟　県		11		11
17	長　野　県	11			11
18	富　山　県				
19	石　川　県			23	23
20	福　井　県				
21	静　岡　県				
22	愛　知　県	11		23	34
23	三　重　県		11		11
24	岐　阜　県				
25	滋　賀　県				
26	京　都　府	11	11		22
27	大　阪　府	11	11	23	45
28	兵　庫　県			23	23
29	奈　良　県				
30	和　歌　山　県				
31	鳥　取　県				
32	島　根　県				
33	岡　山　県				
34	広　島　県	11		23	34
35	山　口　県		11		11
36	香　川　県				
37	徳　島　県	11	11		22
38	愛　媛　県			23	23
39	高　知　県				
40	福　岡　県		11		11
41	佐　賀　県		11	23	34
42	長　崎　県	11			11
43	熊　本　県				
44	大　分　県			23	23
45	宮　崎　県	11			11
46	鹿　児　島　県				
47	沖　縄　県				
計		132	132	276	540

年次別成績一覧表

回次	開催県名	実業団	中学校		高専	Op
1	京都	西(門司鉄道局)	西(神戸二中)		西(立命館専門)	関東
2	石川	九州(門司鉄道局)	東北(函館市立中)			
		東北(新鉄土崎工機部)				

回次	開催県名	一般	高校		教員	壮年
3	福岡	福岡県(全福岡)	秋田県(秋田工)			
4	東京	東京都(全東京)	福岡県(修猷館高)			
5	愛知	福岡県(全福岡)	秋田県(秋田工)			
6	広島	東京都(全東京)	秋田県(秋田工)			
7	宮城･山形･福島	福岡県(全福岡)	福岡県(福岡高)			
8	香川･高知･	福岡県(全福岡)	A熊本県(熊本工)	B宮城県(石巻高)		
	徳島･愛媛		C東京都(保善高)	D群馬県(高崎高)･北海道(北海高)		
9	北海道	福岡県(全福岡)	A神奈川県(慶応高)	B秋田県(秋田工)		
10	神奈川	福岡県(全福岡)	A熊本県(熊本工)	B群馬県(高崎高)		
11	兵庫	福岡県(全福岡)	A秋田県(秋田工)	B東京都(保善高)		
12	静岡	福岡県(全福岡)	A秋田県(秋田工)	B東京都(城北高)		
13	富山	福岡県(全福岡)	A秋田県(秋田工)	B東京都(保善高)		
14	東京	京都府(京都市役所)	A東京都(保善高)	B大阪府(興国商高)	東京都(東京教員クラブ)	大阪府
15	熊本	福岡県(全福岡)	A東京都(保善高)	B秋田県(秋田工)		(全大阪)
16	秋田	福岡県(全福岡)	A秋田県(秋田工)	B東京都(保善高)		
17	岡山	福岡県(全福岡)	A岩手県(盛岡工)	B奈良県(天理高)	大阪府(大阪教員クラブ)	
18	山口	福岡県(八幡製鉄)	A東京都(保善高)	B神奈川県(慶応高)	愛知県(愛知教員クラブ)	
19	新潟	愛知県(トヨタ自動車)	A東京都(保善高)	B神奈川県(慶応高)	大阪府(大阪教員クラブ)	
20	岐阜	岩手県(富士製鉄)	A奈良県(天理高)	B秋田県(秋田工)	大阪府(大阪教員クラブ)	
21	大分	愛知県(トヨタ自動車)	A東京都(保善高)	B秋田県(秋田市立高)	大分県(大分教員クラブ)	
22	埼玉	岩手県(富士製鉄)	A新潟県(新潟工)	B大分県(全大分)	岐阜県(岐阜教員クラブ)	
23	福井	岩手県(富士製鉄)	A秋田県(秋田工)	B東京都(目黒高)	岐阜県(岐阜教員クラブ)	
24	長崎	愛知県(トヨタ自動車)	A秋田県(秋田工)	B長崎県(諫早農)･新潟県(新潟工)	岐阜県(岐阜教員クラブ)	
25	岩手	東京都(全東京)	A秋田県(秋田高)	B岩手県(全岩手)	岐阜県(岐阜教員クラブ)	
26	和歌山	岩手県(新日本製鉄)	A秋田県(秋田高)	B岩手県(全岩手)	岐阜県(岐阜教員クラブ)	
27	鹿児島	岩手県(新日本製鉄)	A福岡県(全福岡)	B東京都(目黒高)	鹿児島県(鹿児島教員クラブ)	
28	千葉	岩手県(新日本製鉄)	A岩手県(全岩手)	B大分県(大分舞鶴)･広島県(広島工)	千葉県(千葉教員クラブ)	
29	茨城	東京都(リコー)	A京都府(花園高)	B秋田県(秋田工)	茨城県(茨城教員クラブ)	
30	三重	愛知県(トヨタ自工)	A東京都(全東京)	B岩手県(全岩手)	三重県(三重教員クラブ)	
31	佐賀		A東京都(全東京)	B大阪府(大工大高)	和歌山県(和歌山教員クラブ)	
32	青森	岩手県(新日本製鉄)	A岩手県(全岩手)	B京都府(全京都)	大阪府(大阪教員クラブ)	

回次	開催県名	成年	少年			
33	長野	群馬県(東京三洋電機)	A岩手県(全岩手)	B秋田県(全秋田)		
34	宮崎	岩手県(新日本製鉄)	A東京都(全東京)	B宮崎県(全宮崎)		
35	栃木	群馬県(東京三洋電機)	京都府(全京都)･大阪府(全大阪)			
36	滋賀	群馬県(東京三洋電機)	大阪府(全大阪)			
37	島根	岩手県(新日本製鉄)	東京都(全東京)			
38	群馬	東京都(東芝府中)	大阪府(全大阪)			
39	奈良	福岡県(全福岡)	奈良県(全奈良)			
40	鳥取	愛知県(トヨタ自動車)	埼玉県(全埼玉)			
41	山梨	東京都(東芝府中)	山梨県(全山梨)			
42	沖縄	山口県(日新製鋼)	京都府(全京都)			

回次	開催県名	成年男子1部	成年男子2部		少年	
43	京都	群馬県(全群馬)	京都府(全京都)		大阪府(全大阪)	
44	北海道	山口県(日新製鋼)	京都府(全京都)		京都府(全京都)	
45	福岡	福岡県(全福岡)･群馬県(三洋電機)	福岡県(全福岡)		大阪府(全大阪)	
46	石川	愛知県(トヨタ自動車)	京都府(全京都)		大阪府(全大阪)	
47	山形	愛知県(トヨタ自動車)	秋田県(全秋田)		大阪府(全大阪)	
48	香川･徳島	愛知県(トヨタ自動車)	徳島県(全徳島)		島根県(全島根)	
49	愛知	兵庫県(ワールド)	愛知県(全愛知)		東京都(全東京)	

回次	開催県名	成年男子	少年男子	女子		
50	福島	大阪府(全大阪)	長崎県(全長崎)			
51	広島	愛知県(全愛知)	福岡県(全福岡)			
52	大阪	愛知県(全愛知)	大阪府(全大阪)			
53	神奈川	千葉県(全千葉)	大阪府(全大阪)			
54	熊本	群馬県(群馬県代表)	大阪府(全大阪)			
55	富山	群馬県(全群馬)	長崎県(全長崎)			
56	宮城	愛知県(全愛知)	大阪府			
57	高知	埼玉県(セコム)	佐賀県			
58	静岡	静岡県(ヤマハ発動機)	埼玉県			
59	埼玉	埼玉県(セコム)	埼玉県			
60	岡山	三重県(本田技研工業)	大阪府			
61	兵庫	兵庫県(全兵庫)	大阪府			
62	秋田	秋田県(全秋田)	神奈川県			
63	大分	三重県(全三重)	福岡県			
64	新潟	新潟県(全新潟)	福岡県			
65	千葉	三重県(本田技研工業)	福岡県			
66	山口	愛知県(全愛知)	福岡県			
67	岐阜	三重県(全三重)	大阪府			
68	東京	東京都(全東京)	東京都			
69	長崎	佐賀県(全佐賀)	大阪府			
70	和歌山	愛知県(全愛知)	大阪府			
71	岩手	愛媛県(TEAM 愛媛)	奈良県	埼玉県		
72	愛媛	東京都(全東京)	大阪府	福岡県		
73	福井	福井県	奈良県	大阪府		
74	茨城	三重県	福岡県	茨城県		
75	鹿児島	(中止)	(中止)	(中止)		
76	三重	(中止)	(中止)	(中止)		
77	栃木	三重県	福岡県	三重県		
特別	鹿児島	三重県	福岡県	埼玉県		
78	佐賀	佐賀県	奈良県	福岡県		
79	滋賀	秋田県	大阪府	山口県		

～セブンズの見どころ（成年男子・女子７人制）～

セブンズとは？

７人対７人で行うラグビーフットボールのことをセブンズ（Sevens）という。15人制の試合と同じグラウンドサイズで、基本的に同じ競技規則によって行われる。2016 年夏季のリオ五輪にて開催され、日本代表が大活躍した。

試合時間は15人制に比べて短く、７分ハーフで行われることが多い。

ポジションはフォワード(FW)３名とバックス(BK)４名で形成される。フォワードはプロップ(PR)が２名、フッカー(HO)が１名、バックスはスクラムハーフ(SH)１名、スタンドオフ(SO)１名、スリークォーターバック(TB) が２名で構成されるポジショニングが主流となっている。

セブンズの見どころ

広いフィールドを少ない人数でカバーするため、選手１人１人の走力、ハンドリングスキルが高くなければならない。15人制では一回プレーすると次の動きをするまでに時間の余裕があるが、７人制はパスしたらすぐにサポートするなど動き続けなければならない。15人制の激しい肉弾戦とは一線を画し、エキサイティングで流れるようなスピード感のあるプレーが見どころである。

セブンズの発祥

セブンズ発祥の地メルローズは、エディンバラからはおよそ50キロ南東に位置するスコットランドの南部の、人口が2000人に満たない小さな町である。周辺はスコティッシュ・ボーダーズと呼ばれるイングランドとの国境の北側の地域で、付近に点在する小村それぞれに強豪クラブが肩を並べる有名なラグビー熱狂地帯である。ラグビーの１チームの人数が20人から15人に減らされた1877年に、セブンズの誕生の舞台となるメルローズRFCが誕生した。６年後の1883年、財政難のクラブを救うために、メルローズの町の肉屋の店員ネッド・ヘイグは、近在のチームを集めて日暮れまでの半日の間に大会を開こうと考え、そのために1 チームの人数を7 人に減らして得点の機会を増やすことや、ゲーム時間を１試合15分に短縮することを思いついた。

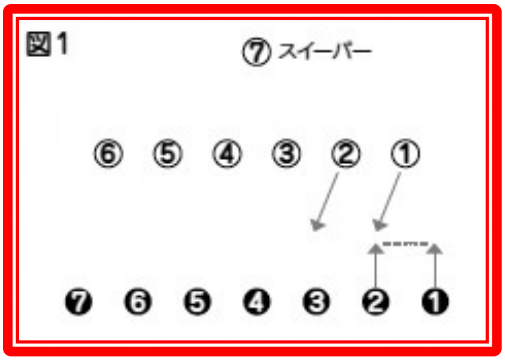
大会当日には1600人の観客が集まり、目論みは成功した。これを機にセブンズはボーダー地方のクラブの間に次々と広まり、その波はやがて世界へ伝わった。

セブンズは夏季オリンピックの正式種目です！！

セブンズの特徴

【基　本】

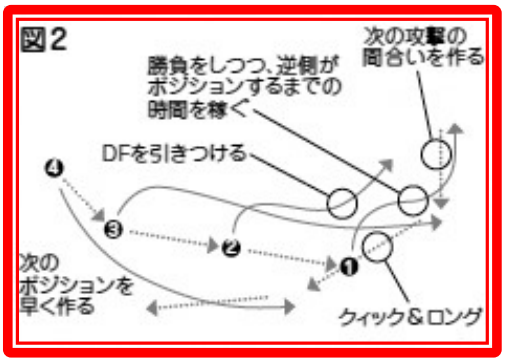
図１のように、７人制のディフェンスでは、相手のキックに備えて一人(スイーパー)が後ろに下がる。相手ゴールラインの直前まで攻め込んだときは別だが、一人が後ろにいて、７対６の状況になっているのが基本となる。もしアタック側の右端の選手が左にパスをすれば、図の矢印のようにディフェンスがずれてくる。この時に逆にパスすれば、右に残っていた攻撃側の選手は容易にタッチライン際を抜け出す事ができる。この「切り返し」がアタックの基本的動きとなる。もしスイーパーが前に上がってくれば後ろにできたスペースにキックで大きくボールを送ることができる。基本的にオフェンスはこの考え方を利用する。



～オフェンススタイル～

【基本攻撃１-ふり戻し-】

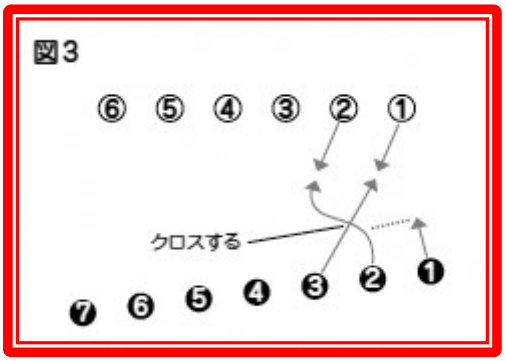
図２のように、４の選手からボールを回し、最後にボールを持った１の選手が右のタッチライン方向に走る。そこに２の選手がボールをショートパスでもらうように走り込むことでディフェンスラインはこの２人に引きつけられてディフェンス側から見て左に寄る。そこで深く位置した３番、４番の選手にパスを深く戻して逆に大きく左を攻める。そうすると、ディフェンスラインは付いてくることができなくなる。



【基本攻撃２-クロス-】

攻撃側の１が２にパスし、２と３がクロスすると図のように、ディフェンス側の１がアタック３に引きつけられて、アタック１の前にはスペースができる。ずれてくる相手を抜こうとすると、どうしても走るコースが流れてしまう。これを逆手にとって、わざと流れてクロスを入れる。

　日本代表のサインプレーは、これらの動きをミックスさせている。２の選手が左に流れておいて、右にステップを切っても同じような攻めができる。

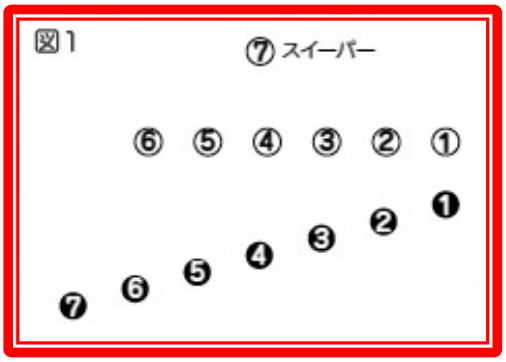


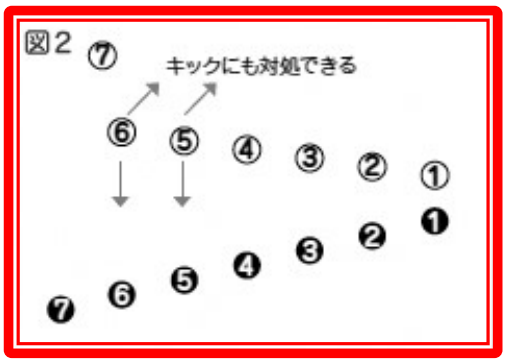
～ディフェンススタイル～

【基本 DF スタイル】

図 1 のように DF の基本フォーメーションは、相手のキックに備えて一人（スイーパー）が後ろに下がる。スイーパーにはキックの対処、抜け出してきた選手のコースを抑え、味方が戻ってくるのを待ちながら的確にタックルを決める役割がある。世界の多くのチームがこのフォーメーションを採用している。

もう一つのスタイルとして、「バナナ DF」がある（図 2）。6 人が斜めにラインを作り、ボール地点の逆側の選手⑦が後ろに下がる。背後にキックを蹴られた場合、下がり気味の⑤、⑥が相手の攻撃に対処できる。ただ、この DF は思い切って前に出られずに受け身になる。ラン攻撃、キック攻撃の両方に対処しようとするもので、シンビン（一時退場処分）で 1 人少なくなった時など、6 人で守る場合に採用することが多い DF 方法である。

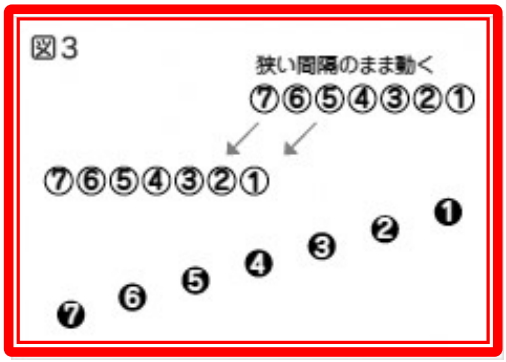




【応用　能力に応じた DF スタイル】

DF の大前提は、一人が一人にタックルすることであり、個々人のタックルレンジを広くする、次に横の選手との連携でいかにレンジを広くするかを考える。そして、一カ所に集まらず、一人一人のエリアを守ることが重要である。

個々の DF 能力が相手より劣っている場合は、一人一人の間隔を狭くして対応する（図 3）。DF ラインはコンパクトなラインのまま動き続けなければならず、高い走力が必要となる。ボールを大きく展開された時に弱いが、タックル後のボール争奪戦に味方選手がいち早く駆けつけることができる。



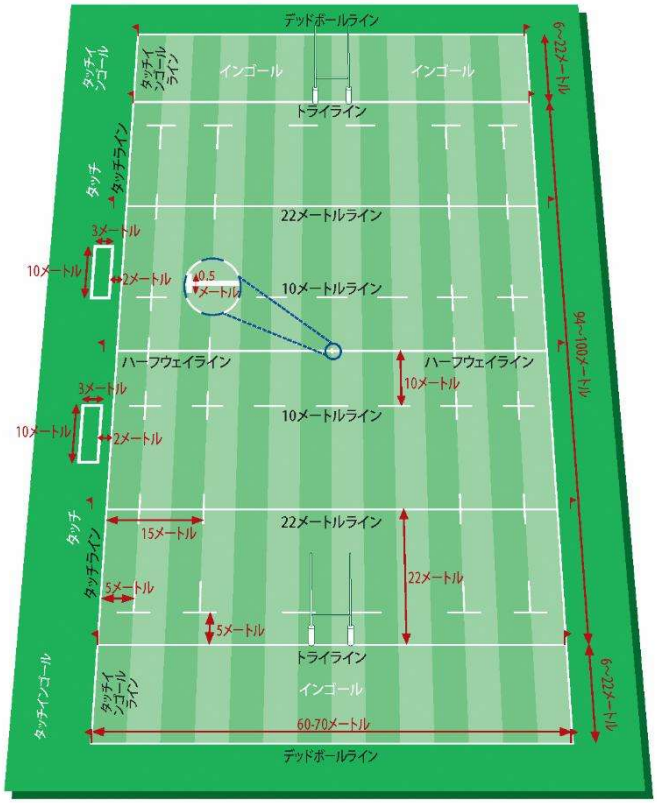
～ラグビーフットボール競技の見どころ（少年男子15人制）～

基本ルール

① 味方にボールをパスする場合、前方に投げてはならない。デッドボールラインに平行または後方にパスを出さなければならない。
② ボールを前方に送る場合は、ボールを蹴り込むか、持って走らなければならない。
③ タックルはボール保持者に対してのみ行うことができる。

得点方法

① トライ(T)…5 点
相手側のインゴールにおいて、攻撃側の選手が最初にボールをグラウンディングすればトライとなる。ゴールラインはインゴールに含まれる。
② コンバージョン(G)…2点
トライをした側に与えられるゴールキック。トライが与えられた地点を通るタッチラインと平行な線上から行う。クロスバーの上、かつ、ゴールポストの間を通過すれば得点となる。プレースキックでもドロップキックでもよい。
③ ペナルティトライ(PT)…7点
相手チームによる不正なプレーが、トライが得られる、または、より有利な位置にて得られるのを妨げた場合、ゴールポストの中間に与えられる。原因となった反則を犯した　プレーヤーは、注意を受けるか、一時的退出か退場と　ならなければならない。コンバージョンは行わない。



グラウンド

（日本ラグビーフットボール協会公式サイトより引用）

④ ペナルティゴール(PG)…3 点
重い反則があった場合、相手側にはペナルティキックが与えられる。コンバージョン同様、キックしたボールがゴールポストの間を通過すると得点となる。プレースキックでもドロップキックでもよい。
⑤ ドロップゴール(DG)…3点
オープンプレーの中でボールをワンバウンドさせてキックを行うドロップキックからゴールすることでドロップゴールとなる。コンバージョン同様、キックしたボールがゴールポストの間を通過すると得点となる。

ポジション紹介



15のポジション *One for All, All for One.* 1人はみんなのために、みんなは1人のために

PR プロップ
スクラムの要で体重、筋力、押しのパワーは迫力満点。「チームーの重量選手」

HO フッカー
スクラムに投入されたボールを足でかき出す。ラインアウトのスローワーも担う。

LO ロック
ラインアウトのジャンパー。FWの中心プレーヤー。前列3人をしっかり固める。

FL フランカー
縦横無尽の遊撃部隊。BKもサポートして走る「チームー忙しい」ポジション。

No.8 ナンバーエイト
機動力、俊敏性、突進力を兼ね備えた攻防の中心となるマルチプレーヤー。FWの花形。

SH スクラムハーフ
FWとBKのパイプ役。スピード、判断力に優れ「体が小さくても活躍できる」戦略家。

SO スタンドオフ
BK攻撃の起点となる、冷静沈着な司令塔。状況判断力に優れたゲームメーカー。

CTB センター
攻防の要。突破力、強いタックルが要求される。敵陣深く進みウイングを生かす。

WTB ウィング
チーム最俊足の「トライゲッター」。高い運動量と優れたステップワークでトライする。

FB フルバック
「チームの守護神」。ディフェンスの司令塔。高いキック力、ハンドリング能力。最後の砦。

ノーサイドの精神

「ノーサイド」という言葉は試合終了を意味するラグビーならではの表現ですが、単に試合終了という意味だけでなく、ベストを尽くして激しくぶつかりあった両チームが、試合が終われば敵味方なくお互いの健闘をたたえ合い、ラグビーを愛する仲間になるという意味を持ちます。そして、同じフィールドで戦った仲間として友情を築こうというのが「ノーサイドの精神」です。これこそがラグビー選手の誇りとするところであり、この精神はラガーマンの最も大切な心と言われています。

基本プレー

スクラム



　ノックオンやスローフォワード等の軽度の反則や競技の中断があった場合、ボール獲得のためのプレー再開する方法です。双方８名ずつのプレーヤーが右図のように組み合います。原則、反則をしていないチームがボールを投入します。

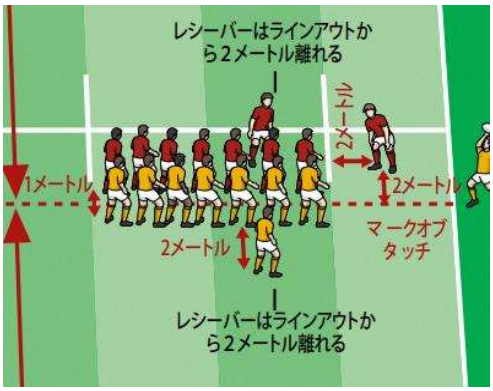
※１９歳未満では・・・

・故意でなく４５度以上回転された場合、スクラムを組みなおします。組み直されるときは、その前のスクラムでボールを投入したチームが引き続き投入します。

・相手のゴールラインに向け、１．５ｍ以上押してはいけません。(FK)

・ボールをかかとで蹴り操りながら、スクラムの中にとどめてはいけません。(FK)

ラインアウト



　ボールまたはボールを持ったプレーヤーがタッチラインを越える、または触れた場合にラインアウトとなります。ラインアウトは右図のようにマークオブタッチ上で形成されます。マークオブタッチはゴールラインから５ｍ以上離れていなければなりません。

　ボールを投入する側はボールを投入するプレーヤーを除き、最低２名以上参加する必要があります。通常はフォワードの選手７名が並びます。

　ペナルティからのタッチキックの場合は、ボールがタッチラインを越えたところでキックをした側のボールでラインアウトとなりますが、それ以外の場合は相手チームボールの投入によるラインアウトとなります。

ダイレクトタッチ



　キックしたボールがダイレクトにタッチラインを越えることを指します。22mラインの内側からボールを蹴った場合、ボールがタッチラインを越えたところで相手側の投入によるラインアウトとなります。

　22mラインの外側から蹴ったボールがダイレクトタッチだった場合は、ボールを蹴った地点からゴールラインと平行線上のボールが出た側のタッチラインで相手側の投入によるラインアウトとなります。

　また、22mラインの外側にあったボールを 22mライン内側に一度戻して蹴ったボールがダイレクトタッチになった場合も同様にボールを蹴った位置からの相手側の投入によるラインアウトとなります。

　ペナルティキックから蹴った場合は蹴った位置に関わらず、タッチラインから出た地点での蹴った側のチームの投入によるラインアウトとなります。

50:22

　自陣にいるプレーヤーが、ボールを蹴って相手陣の２２メートル内で間接的（ワンバウンド以上させた後）にタッチになった場合、蹴りだしたチームがボールを自陣に持ち込まなかったか、そのチームの自陣内で　タックルが行われたかラックまたはモールが形成された場合は、蹴った側のチームによる投入でラインアウトが行われます。

ドロップアウト

＜２２メートルライン　ドロップアウト＞

ペナルティーゴールまたは、ドロップゴールの失敗、あるいはドロップアウトが防御側のチームによってインゴール内にグラウンディングされた場合、もしくは、これらの試みのいずれかによってボールがデッドになった場合、防御側の２２メートル地点でのドロップアウトによってプレーが再開されます。

<ゴールライン　ドロップアウト>

下記 a～c の場合、防御側のゴールライン上、またはその後方でのドロップアウトによってプレーが再開されます。

a　攻撃側のプレーヤーによってボールがプレーされた、または、インゴールに持ち込まれ、その後、相手側のプレーヤーによってヘルドアップ（グラウンディングできない状態）となり、グランディングされた、あるいは、競技規則に反することなくデッドにされた。

b　キックオフ、得点後の試合再開のキック、ドロップゴール、ドロップアウト、または、ペナルティキックを除く攻撃側のキックが、防御側のチームによって自陣のインゴール内でグラウンディングされた、または、デッドにされた。

c　攻撃側のプレーヤーが、相手陣のインゴール内でノックオンした。

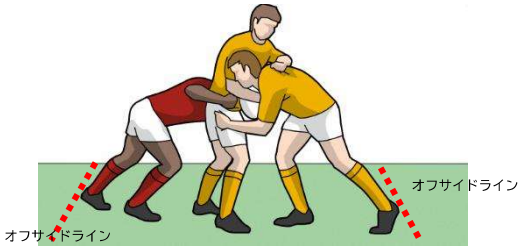
モール・ラック

双方のプレーヤーがボールを争奪する行為です。

モールとは、地面についていないボールを争奪することで、ボールを持ったプレーヤーと双方少なくとも１名ずつのプレーヤーが互いにバインドし、立ったままの状態になることで成立します。

ラックとは、地面あるボールを争奪することで、双方少なくとも１名ずつのプレーヤーが立った状態で地面にあるボールに組み合うことで形成されます。

モール・ラックともに、成立後にそれぞれのチームに下図のようなオフサイドラインが形成されます。



モール



ラック

アンプレアブル

モール･ラックからボールがでない場合にレフリーの判断でアンプレアブルとなります。

その場合、スクラムによって再開されます。

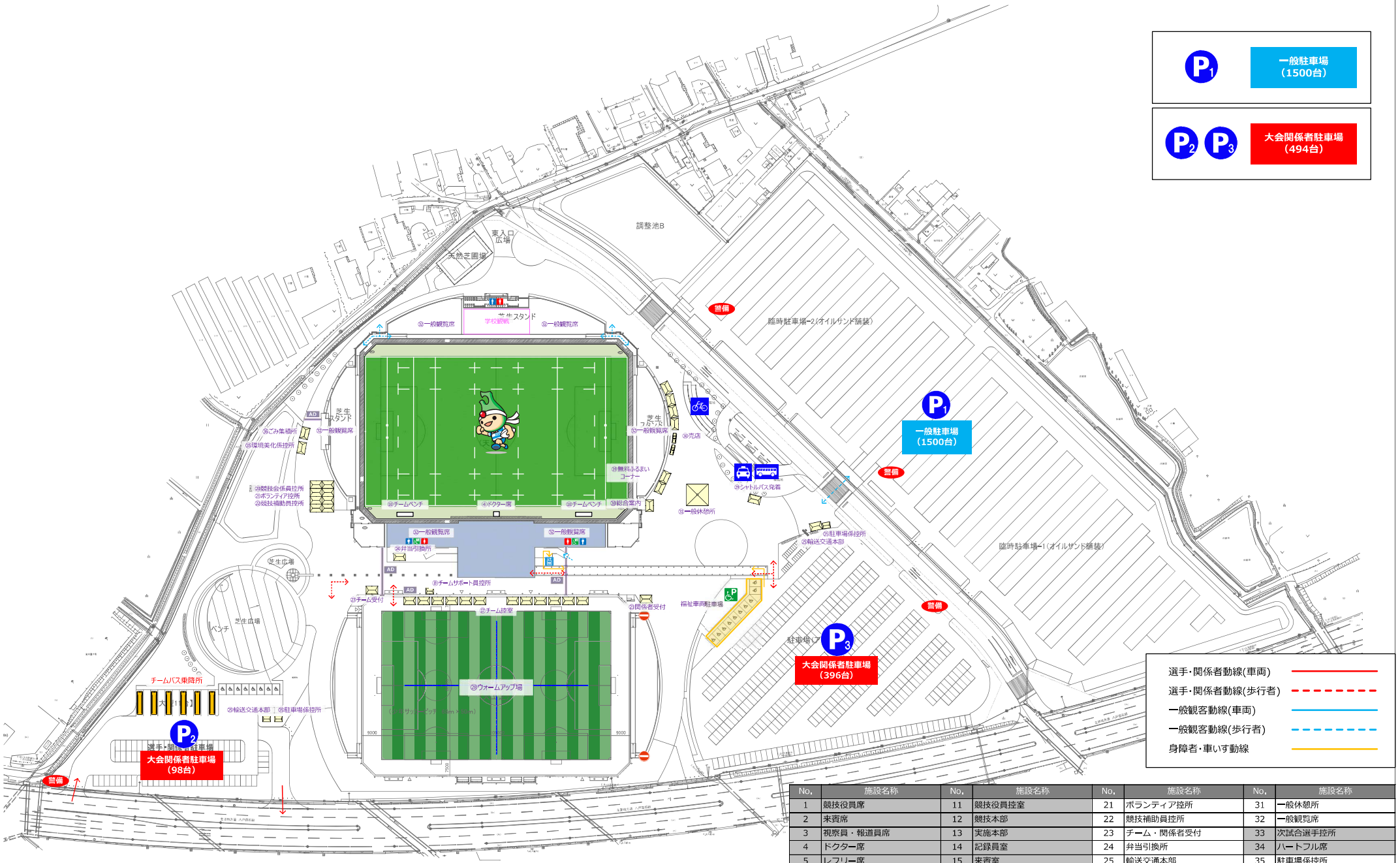
ラックアンプレアブルの場合は最後に前進していたチームのボール、どちらのチームも前進していない場合は、攻撃側チームのボールでスクラムとなります。

モールアンプレアブルの場合はモール開始時にボールを保持していなかった側のボールでスクラムとなります。

イエローカード（シン･ビン）とレッドカード

不正なプレー（妨害、不当なプレー、反則を繰り返す、危険なプレー、不行跡など）を行ったプレーヤーは、注意を受けるか、一時的退出、または、退場となる。レフリーは注意を与えて※10分間の一時的退場を命じたプレーヤーに対し、イエローカードを示します（シン･ビン）。退場の場合はレッドカードを示し、退場を命じます。

※国スポ（少年男子 15 人制）では7分間とします。



No.	施設名称	No.	施設名称	No.	施設名称	No.	施設名称
1	競技役員席	11	競技役員控室	21	ボランティア控所	31	一般休憩所
2	来賓席	12	競技本部	22	競技補助員控所	32	一般観覧席
3	視察員・報道員席	13	実施本部	23	チーム・関係者受付	33	次試合選手控所
4	ドクター席	14	記録員室	24	弁当引換所	34	ハートフル席
5	レフリー席	15	来賓室	25	輸送交通本部	35	駐車場係控所
6	放送室	16	審判員控室	26	選手シャワー室	36	環境美化係控所
7	審判休憩室	17	チーム控室	27	審判員シャワー室	37	ごみ集積所
8	チームサポート員控所	18	救護室	28	ウォームアップ場	38	総合案内
9	得点板操作室	19	記者室（報道員控室）	29	シャトルバス発着	39	無料ふるまいコーナー
10	チームベンチ	20	競技会係員控所	30	売店	40	インタビューコーナー

PROJECT. 青の煌めきあおもり国スポ2026

SUBJECT. 青の煌めきあおもり国スポ ラグビーフットボール競技（成年男子・女子）
プライフーズスタジアム 会場配置・ゾーニング図

SCALE. 1/1600

SIZE. A3

DATE. 2026.09.04

ラグビーフットボール

2026.10.15～10.19



1	競技本部
2	競技役員・規律委員席
3	実施本部
4	放送・記録席
5	来賓・競技会役員席
6	報道員・視察員席
7	救護所
8	記録本部
9	審判員席
10	審判員シャワー室
11	トイレ
12	セーフティアシスタント・救護委員席
13	売店
14	選手シャワー室
15	-
16	受付・案内所
17	チーム受付
18	得点掲示板・得点掲示員席
19	組み合わせ掲示板・インタビューボード
20	弁当引換所
21	筆耕室
22	次試合チームベンチ
23	ドーピング検査室
24	チームテント
25	チームベンチ
26	ごみ集積所
27	AD チェック
28	一般観覧席
29	福祉席
30	競技役員・競技補助員控所
31	記録速報所
32	競技会係員控所
33	輸送本部・駐車場係控所
34	休憩所
35	ドリンクコーナー
36	-
37	選手・監督バス乗降所
38	一般シャトルバス乗降所

青の煌めきあおもり国スポ 2026 翔ける未来へ縄文の風に乗って 第80回国民スポーツ大会

【凡例】

- 選手車両動線
- 一般車両動線
- 関係者車両動線
- バリアフリー車両動線
- 選手徒歩動線
- 一般徒歩動線
- 関係者徒歩動線
- バリアフリー徒歩動線
- 養生範囲
- 使用禁止
- イレクターフェンス

Checked

Drawn

Project: 青の煌めきあおもり国スポ ラグビーフットボール競技会場【本大会】

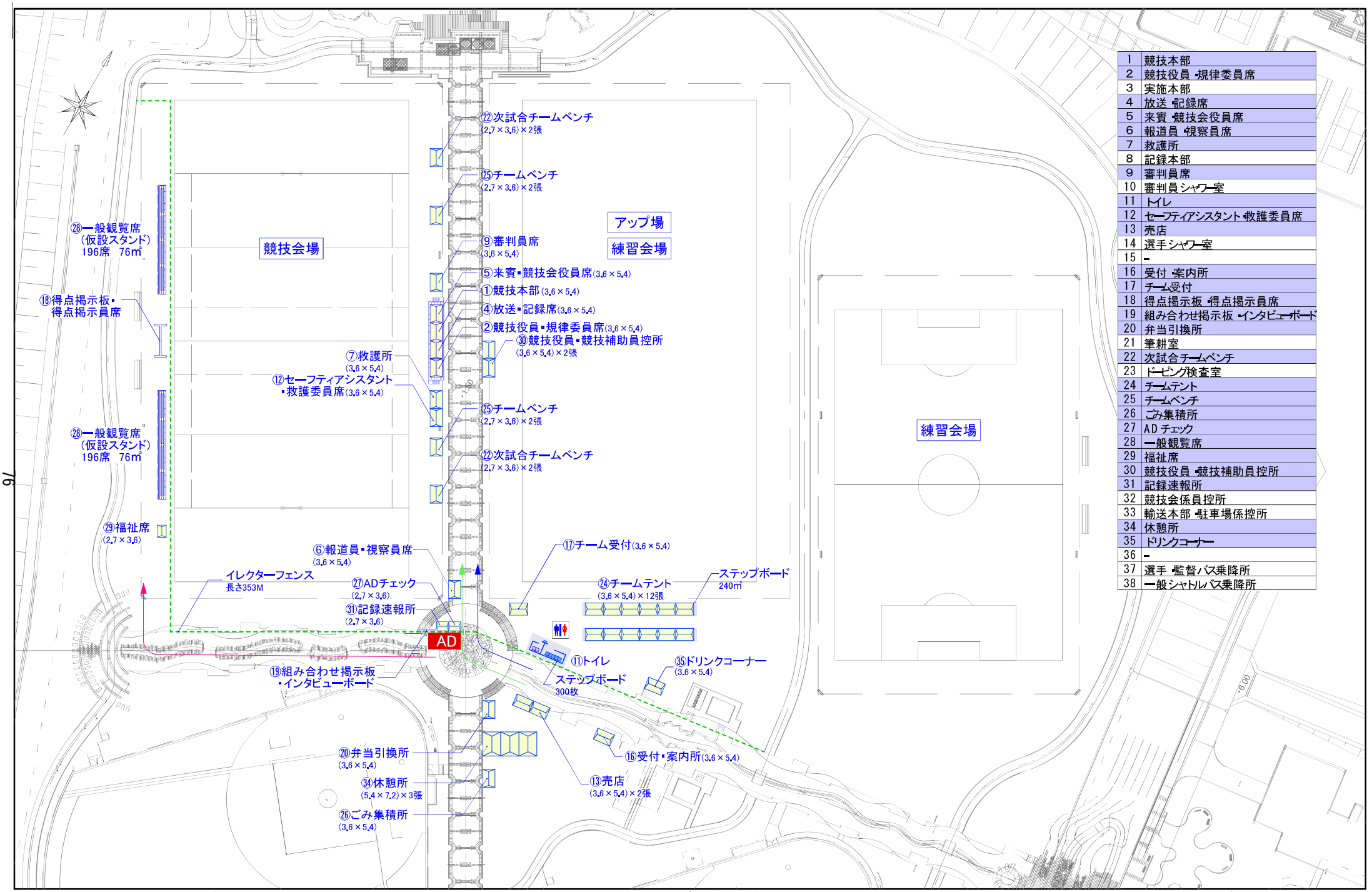
Place: 大進建設スポーツ広場

Title: 会場全体図

Scale: 1/4000(A3)

Date: 2026.03.12

No. 02-2



1	競技本部
2	競技役員・規律委員席
3	実施本部
4	放送・記録席
5	来賓・競技会役員席
6	報道員・視察員席
7	救護所
8	記録本部
9	審判員席
10	審判員シャワー室
11	トイレ
12	セーフティアシスタント・救護委員席
13	売店
14	選手シャワー室
15	-
16	受付・案内所
17	チーム受付
18	得点掲示板・得点掲示員席
19	組み合わせ掲示板・インタビューボード
20	弁当引換所
21	筆耕室
22	次試合チームベンチ
23	ドーピング検査室
24	チームテント
25	チームベンチ
26	ごみ集積所
27	AD チェック
28	一般観覧席
29	福祉席
30	競技役員・競技補助員控所
31	記録速報所
32	競技会係員控所
33	輸送本部・駐車場係控所
34	休憩所
35	ドリンクコーナー
36	-
37	選手・監督バス乗降所
38	一般シャトルバス乗降所

【凡例】
選手車両動線
一般車両動線
関係者車両動線
バリアフリー車両動線
選手徒歩動線
一般徒歩動線
関係者徒歩動線
バリアフリー徒歩動線
養生範囲
使用禁止
イレクターフェンス

青の煌めきあおもり国スポ 2026 翔ける未来へ絆文の風に乗って 第80回国民スポーツ大会

Checked	Project	Title	No.
Drawn	青の煌めきあおもり国スポ ラグビーフットボール競技会場【本大会】	全体配置図	02-3
	Place 大進建設スポーツ広場	Scale 1/1000(A3)	
		Date 2026.03.12	

関係機関連絡先

〈実行委員会事務局〉

名称	所在地	電話番号
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ 青森市実行委員会事務局	青森市柳川二丁目1-1 柳川庁舎２階	017-761-4467
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ 八戸市実行委員会事務局	八戸市内丸一丁目1-1	0178-43-9569

〈競技会場〉

名称	所在地	電話番号
大進建設スポーツ広場（青森会場）	青森市大矢沢字野田87-4	017-764-5525
プライフーズスタジアム（八戸会場）	八戸市大字市川町字市川後55-1	0178-80-7597

〈公式ホームページ〉

名称	URL
青森県公式ホームページ	https://aomorikokuspo2026.pref.aomori.lg.jp/
青森市公式ホームページ	https://www.aomoricity-kokuspo2026.jp/
八戸市公式ホームページ	https://hachinohe-kokusupo2026.com/

〈医療機関〉

名称	リンク先	
医療情報ネット（ナビイ）	URL： https://www.iryou.teikyouseido.mhlw.go.jp/znk-web/juminkanja/S2310/initialize?pref=02	QRコード



挑戦者たちは越えようとする。
記録を。ライバルを。自分自身を。
過去の常識も。世界の価値観さえも。
挑戦者たちこそあたらしい未来への原動力だ。
これまでも、そしてこれからも、
わたしたちは挑戦する人たちを応援します。
スポーツの持つ様々な可能性で、
望む未来へたどり着くために。

JSPO
Japan Sport Association

スポーツと、望む未来へ。

わたしたちは、JAPAN GAMES を応援しています。

Otsuka 大塚製薬　Mizuno　三井住友海上 MS&AD INSURANCE GROUP

セレスポ　時事通信



スポーツ・ハラスメント（暴力、暴言、ハラスメントなど）に、
みんなが『NO！』と言う社会を目指して

『スポハラ（スポーツ・ハラスメント）』とは？

「スポハラ（スポーツ・ハラスメント）」とは、スポーツの現場において、「暴力」、「暴言」、「ハラスメント」、「差別」など“安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為”のことです。

指導者と指導を受ける者との関係のみならず、スポーツの現場における関係者の誰によっても、また誰に対してであっても、スポハラは起こりえます。

JSPO Japan Sport Association
TEAM JAPAN Japanese Olympic Committee
JPSA Japanese Para Sports Association
NJPA
UNIVAS

JSPO
Japan Sport Association

スポーツにおける暴力行為等相談窓口



どなたでもご利用可能！

お気軽にご相談ください

「スポハラ」をなくすためには

「いかなる理由でも、指導者・コーチによる不適切な行為はあってはならない」

とスポーツに携わるすべての人が思うことが重要です。

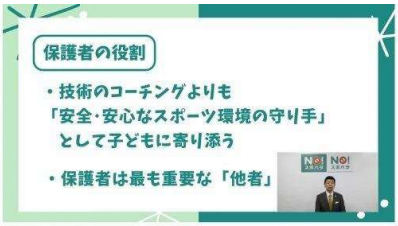
スポーツにおける暴力行為等根絶宣言・スポーツ・インテグリティ確保に関する協力覚書≫≫

『スポハラ』根絶に向けた取組み

JSPO
Japan Sport Association

① 教材・動画の公開



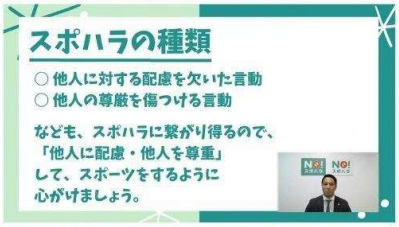




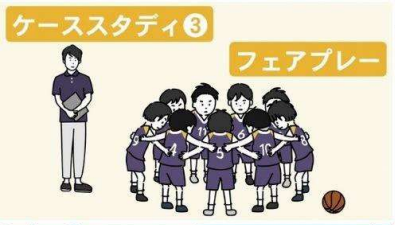


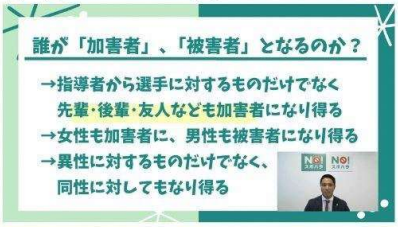






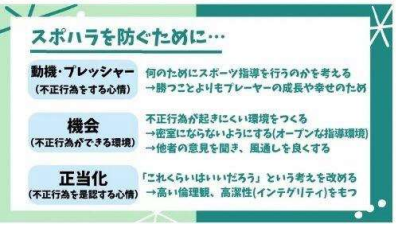


















② 普及啓発活動の実施・イベントの開催























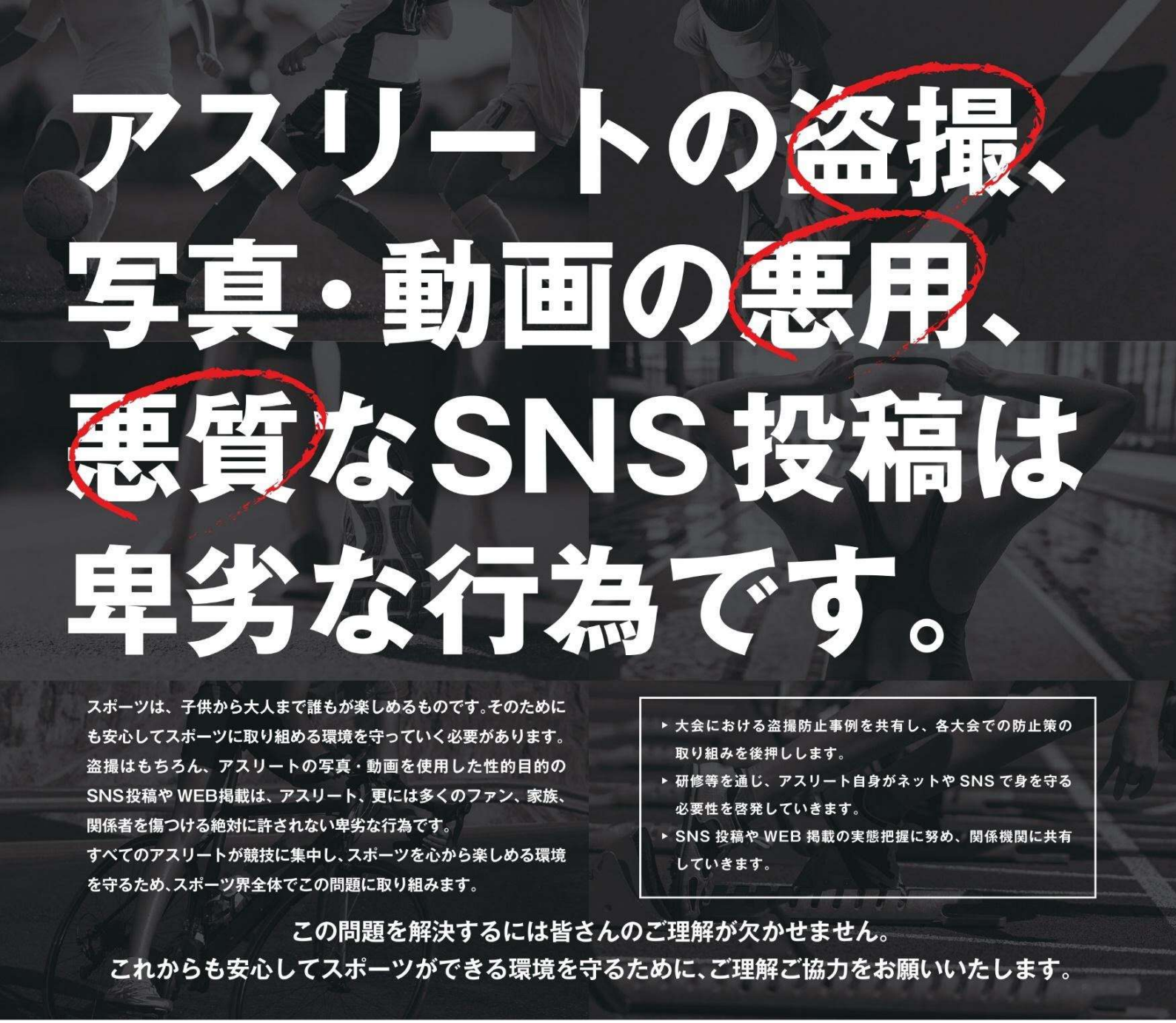












アスリートの盗撮、写真・動画の悪用、悪質なSNS投稿は卑劣な行為です。

スポーツは、子供から大人まで誰もが楽しめるものです。そのためにも安心してスポーツに取り組める環境を守っていく必要があります。
盗撮はもちろん、アスリートの写真・動画を使用した性的目的のSNS投稿やWEB掲載は、アスリート、更には多くのファン、家族、関係者を傷つける絶対に許されない卑劣な行為です。
すべてのアスリートが競技に集中し、スポーツを心から楽しめる環境を守るため、スポーツ界全体でこの問題に取り組みます。

- 大会における盗撮防止事例を共有し、各大会での防止策の取り組みを後押しします。
- 研修等を通じ、アスリート自身がネットやSNSで身を守る必要性を啓発していきます。
- SNS投稿やWEB掲載の実態把握に努め、関係機関に共有していきます。

この問題を解決するには皆さんのご理解が欠かせません。
これからも安心してスポーツができる環境を守るために、ご理解ご協力をお願いいたします。

安全な環境を、すべてのスポーツ愛好者のために。

SAVE ATHLETES, SAVE SPORT.

大会会場で盗撮等が疑われる行為を見かけましたら大会主催者にお知らせください。

アスリートを傷つける性的目的のSNS投稿やWEB掲載を見かけましたら下記サイトよりご連絡ください。
今後の対応に活用するとともに、悪質な事例については当局への通報も検討します。

https://www.joc.or.jp/about/savesport/

- **盗撮は迷惑防止条例で犯罪として処罰される可能性があります。**
- **SNS等で本人の名誉を傷つける書き込みは犯罪（名誉毀損罪）として処罰される可能性があります。**
- **匿名による投稿であっても、法的手続により、投稿者が特定され、損害賠償請求の対象になる可能性があります。**

公益財団法人 日本オリンピック委員会　公益財団法人 日本スポーツ協会　公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会　一般社団法人 大学スポーツ協会
公益財団法人 全国高等学校体育連盟　公益財団法人 日本中学校体育連盟　独立行政法人 日本スポーツ振興センター

FAIR PRIDE

勝利を超える価値がある

私たちは信じる。

正々堂々と競いあう潔さを。

相手をリスペクトすることで生まれる友情や感動を。

まっすぐ挑戦しつづける、そこに、

自分や、仲間や、社会さえ変える力があることを。

さあ、すべては、私たちの中にある

フェアネスの心からはじまる。

スポーツのフェアネスが、社会のフェアネスを支えるために。

JADA PLAY TRUE Japan Anti-Doping Agency

青の煌めきあおもり国スポ 2026 翔ける未来へ縄文の風に乗って 第80回国民スポーツ大会

公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構

Copyright © JAPAN Anti-Doping Agency All Rights Reserved.

MIZUNO SPORTS PROMOTION FOUNDATION

1970 ▷▷▷▷▷ 56TH ▷▷▷▷▷ 2026










スポーツを愛する人たちへ

私たち、ミズノスポーツ振興財団は、

スポーツの普及、振興に必要な事業を行い、

スポーツを愛する人たちを応援しています。

公益財団法人
ミズノスポーツ振興財団

2026 HACHINOHE
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ



私たちは青の煌めきあおもり国スポ・障スポ
八戸市開催競技を応援しています

ご協賛企業・団体様

トヨタカローラ八戸
ネッツトヨタみちのく
EITO エイト技術株式会社
ナナヨウ
エイコウコンサルタンツ株式会社
一般社団法人 八戸建設業協会
DAICHI HOME 株式会社 第一ホーム アイフルホーム 八戸店
信用を商う 株式会社 中村木材店
GITEC ICT Solution Company
タイシ 太子食品工業株式会社
DAIKO 株式会社 大興
八戸通運株式會社
協同組合 八戸中央建設業協会
三八五交通株式会社
San Computer
Technol Smile&Honesty. 一人ひとりが未来のために。
北日本造船株式会社
八戸商工会議所 HACHINOHE CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY
TelWel NTTグループ テルウェル東日本
十文字チキンカンパニー
北辰工業株式会社
八戸電気工事業協同組合
プライフーズ
株式会社 ライケット
ICHIKAWA FARM Inc. 株式会社イチカワファーム
陸奥男山・陸奥八仙醸造元 八戸酒造株式会社
HappyBulldog
株式会社 石上建設
CITY HOUSE 株式会社 シティーハウス
eight door
八戸プラザホテル
SUNDAY
KE-PAL
SkyNext CAR RENTAL
しんぼり
協同組合 八戸造園建設業協会
TOSHO 株式会社 トーショー



青森市協賛企業・団体のご紹介

（順不同・敬称略）

青森トヨタ自動車株式会社

青森三菱自動車販売株式会社

株式会社マツダアンフィニ青森

有限会社タイムプラン

青森市新町商店街振興組合

創創舎

有限会社オフィスオー・シー

青森市緑化事業協同組合

青森市造園協同組合

株式会社テクノル

株式会社オカモト

青森市アメニティ事業協同組合

A・Zコーポレーション株式会社

合同会社丸髙興業

青森県産米需要拡大推進本部

ヤマモト食品株式会社

鐘屋産業株式会社

二分団ねぶた会

株式会社アイティフォー

青森おでんの会

大和リース株式会社

一般社団法人公縁クロス機構

株式会社吉田工機

株式会社Sky Next

赤平設備工業株式会社

大塚製薬株式会社ニュートラシューティカルズ事業グループ東北支店

株式会社エイ・ワンド

有限会社松栄堂

小田桐錦石研究所合同会社

成邦商事株式会社

株式会社しじみちゃん本舗

株式会社CUTE UP

株式会社翁屋

全国農業協同組合連合会青森県本部

イオン東北株式会社

私たちは、青の煌（きら）めきあおもり国スポ・障スポ
青森市開催競技を応援しています！

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ
2026 AOMORI CITY

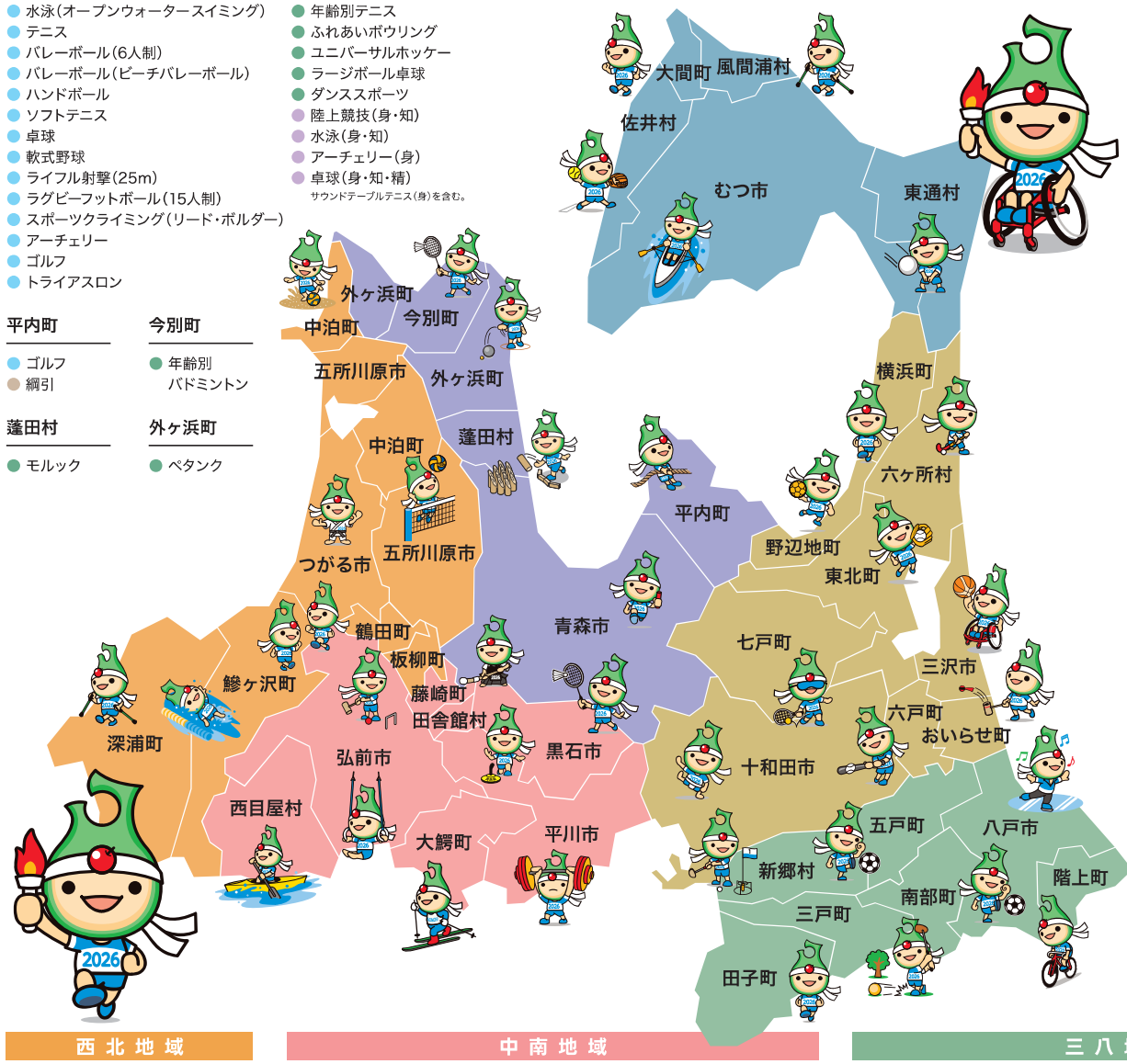
競技会場地マップ Venue map

県内全40市町村と県外3市町において、国スポ・障スポ合わせて104競技を開催！

国スポ
- 正式競技（37）
- 特別競技（1）
- 公開競技（7）
- デモンストレーションスポーツ（39）
- 冬季正式競技（3）

障スポ
- 正式競技（14）
- オープン競技（3）

（身）身体障がい者が出場できる競技　（知）知的障がい者が出場できる競技
（精）精神障がい者が出場できる競技



東青地域

青森市
- 国スポ総合開・閉会式
- 障スポ開・閉会式
- 陸上競技
- 水泳（競泳）
- 水泳（水球）
- 水泳（アーティスティックスイミング）
- 水泳（オープンウォータースイミング）
- テニス
- バレーボール（6人制）
- バレーボール（ビーチバレーボール）
- ハンドボール
- ソフトテニス
- 卓球
- 軟式野球
- ライフル射撃（25m）
- ラグビーフットボール（15人制）
- スポーツクライミング（リード・ボルダー）
- アーチェリー
- ゴルフ
- トライアスロン
- ウォークビンゴ
- カーリング
- ソフトバレーボール
- ターゲット・バードゴルフ
- ドッジボール
- 年齢別ソフトテニス
- 年齢別テニス
- ふれあいボウリング
- ユニバーサルホッケー
- ラージボール卓球
- ダンススポーツ
- 陸上競技（身・知）
- 水泳（身・知）
- アーチェリー（身）
- 卓球（身・知・精）

サウンドテーブルテニス（身）を含む。

平内町
- ゴルフ
- 綱引

今別町
- 年齢別バドミントン

蓬田村
- モルック

外ヶ浜町
- ペタンク

下北地域

むつ市
- ローイング
- バスケットボール
- セーリング
- フェンシング
- フライングディスク
- バスケットボール（知）

大間町
- ウオーキング

風間浦村
- ノルディックウォーキング

東通村
- ソフトバレーボール

佐井村
- ふれあいソフトボール

上北地域

十和田市
- サッカー
- バスケットボール
- 相撲
- ゲートボール
- バウンドテニス
- パークゴルフ
- Let's Enjoy バウンドテニス
- バレーボール（身）

三沢市
- ホッケー
- バスケットボール
- 軟式野球
- ソフトボール
- 銃剣道
- 武術太極拳
- いきいき太極拳
- スケート（ショートトラック）
- アイスホッケー
- ボウリング（知）
- 車いすバスケットボール（身）
- デフボウリング（身）

野辺地町
- ハンドボール

七戸町
- 剣道
- ブラインドテニス（身）

六戸町
- 軟式野球

横浜町
- マラソン

東北町
- ソフトボール
- 女子ソフトボール
- ソフトボール（知）

六ヶ所村
- ホッケー
- 軟式野球

おいらせ町
- 軟式野球
- スポーツチャンバラ
- ファイン・ボール
- ブラインドベースボール（身）
- ファイン・ボール（身）

西北地域

五所川原市
- バレーボール（6人制）
- バレーボール（精）

つがる市
- バレーボール（6人制）
- 柔道
- バレーボール（知）

鰺ヶ沢町
- マスターズスイミング

深浦町
- ノルディックウォーキング

板柳町
- ふれあいゲートボール
- ウオーキング

鶴田町
- マラソン&ウォーキング

中泊町
- ビーチサッカー

中南地域

弘前市
- 体操（競技）
- 体操（新体操）
- 体操（トランポリン）
- ソフトボール
- 弓道（近的・遠的）
- ライフル射撃（50m、10m、BR・BP）
- 空手道
- クレー射撃（トラップ・スキート）
- 高等学校野球（硬式・軟式）
- マスターズ陸上競技
- ビリヤード
- フライングディスク（身・知）
- ボッチャ（身）

黒石市
- バドミントン

西目屋村
- カヌー（スプリント）
- カヌー（スラローム・ワイルドウォーター）

大鰐町
- パラグライディング
- オリエンテーリング
- スキー（ジャイアントスラローム）
- スキー（クロスカントリー）

平川市
- ウエイトリフティング
- グラウンド・ゴルフ
- エアロビック
- インディアカ

藤崎町
- なぎなた
- パワーリフティング
- スポーツウエルネス吹矢

田舎館村
- ユニカール

三八地域

八戸市
- サッカー
- バスケットボール
- レスリング
- 自転車（トラックレース）
- ソフトボール
- ラグビーフットボール（7人制）
- ボウリング
- 空道
- スケート（スピード）
- スケート（フィギュア）
- アイスホッケー
- サッカー（知）
- フットソフトボール（知）

三戸町
- パークゴルフ

五戸町
- サッカー

田子町
- マラソン

南部町
- サッカー

階上町
- 自転車（ロードレース）
- フロアボール

新郷村
- エンジョイ！グラウンド・ゴルフ

県外

宮城県利府町
- 水泳（飛込）

山梨県北杜市
- 馬術

秋田県鹿角市
- スキー（スペシャルジャンプ）
- スキー（コンバインド）


八戸工業大学第二高等学校美術コース　鹿糠　颯真
競技記録・速報二次元コード
PC・スマホ
フィーチャーフォン
（ガラケー）
第80回国民スポーツ大会　ラグビーフットボール競技会
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ青森市実行委員会
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ八戸市実行委員会